

情報リテラシー教育のガイドラインのアンケート結果について

情報教育研究委員会
情報リテラシー・情報倫理分科会

情報リテラシー教育のガイドライン(2012年版)について、平成25年8月に加盟261法人(280大学、97短期大学)にアンケートを依頼し、119大学、14短期大学の合計133校の先生375名から賛否や意見がよせられた。意見については、分科会で以下ような議論が行こなわれ、検討を進めた結果、2013年度版としてガイドラインが修正された。

なお、アンケートでの賛否や意見の詳細は次ページ以降に掲載する。

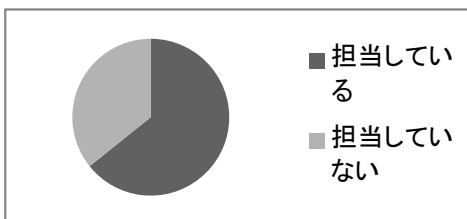
1. 意見への検討概要

- ・ 1年間、現在のカリキュラムでは困難の意見があったが、4年間の対応で考えている。高い目標に努力してもらえ、理解してもらえることが必要。
- ・ カリキュラム、大学全体を考慮した意見と授業単位で考えた意見もある。
- ・ 高校の教育との接続が現実的に成り立たない。しかし、大学であるので高校の上に行く必要がある。
- ・ ガイドラインとしては全大学一律ではなく、大学によって違ってくるのではないかの意見があった。例えば、文系の目標、理系の目標など
- ・ 新入生のリテラシー教育の実態、リメディアル教育があるが、4年間積み上げていくモデルを考える必要がある。4年間で実施するカリキュラムの図が必要ではないか。
- ・ 到達目標3は自ら実施することは困難の意見があるが、高校の教科書ではここまで行っていることを提示する必要がある。
- ・ リテラシーの言葉の捉え方に相違がある。技能教育、学士力としてのリテラシーとして求められるもの。
- ・ どの分野でも必要だが、先生への啓発が課題ではないか。
- ・ 社会で情報通信の役割、効果的な役割にはどのようなことを考えるべきか、到達目標3、到達度3では、～の役割を考え、実現するにはどのような仕組みを考えられるかなどでどうか。仕組みを考えることができる程度でどうか。
- ・ 測定方法に具体的な記述を入れてはどうか。
- ・ リテラシーは情報の基礎で、リテラシーは1年の最初、導入時としか考えていない。2年移行は専門になっているのではないか。
- ・ 到達度を具体化してわかりやすい形を希望されているが、ある程度抽象化しておかないと大学によって合否の判定範囲が違ってくるのではないか。

2. 到達目標・到達度・測定方法への賛否

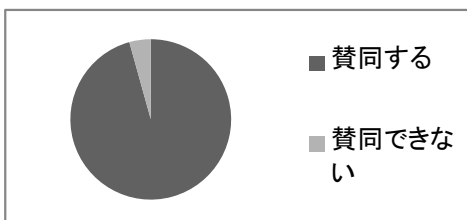
情報リテラシー教育担当の有無

担当している	239	64%
担当していない	133	36%



【到達目標1】の賛否

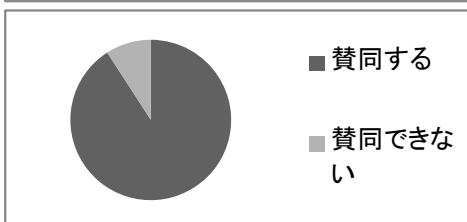
賛同する	357	96%
賛同できない	16	4%



【到達度】の賛否

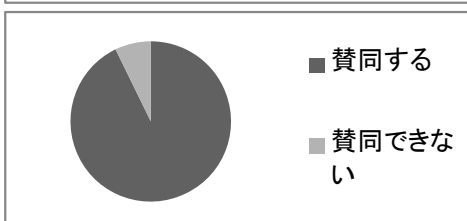
到達度1

賛同する	338	91%
賛同できない	34	9%



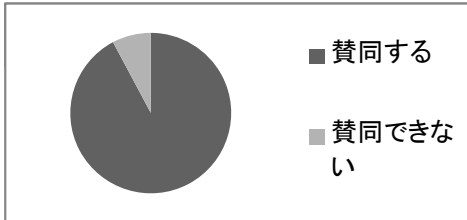
到達度2

賛同する	345	93%
賛同できない	27	7%



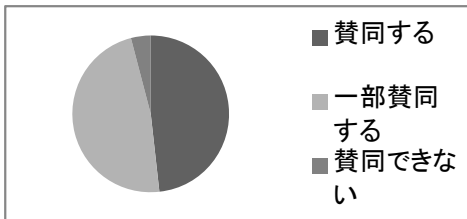
到達度3

賛同する	343	92%
賛同できない	29	8%



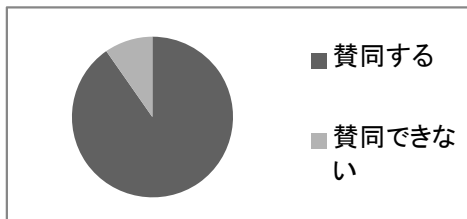
【到達度の測定方法】

賛同する	178	48%
一部賛同する	176	48%
賛同できない	15	4%



【到達目標2】の賛否

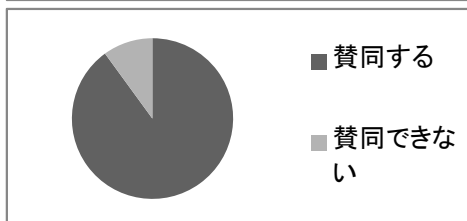
賛同する	334	90%
賛同できない	36	10%



【到達度】の賛否

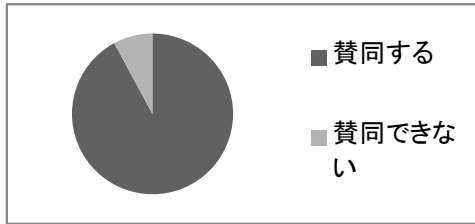
到達度1

賛同する	332	90%
賛同できない	37	10%



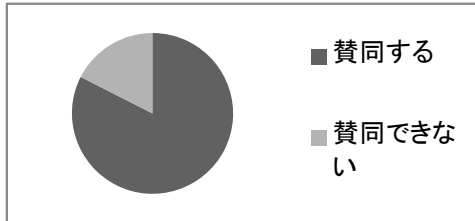
到達度2

賛同する	339	92%
賛同できない	29	8%



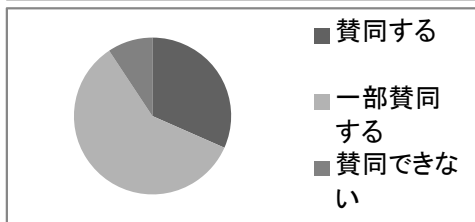
到達度3

賛同する	301	82%
賛同できない	64	18%



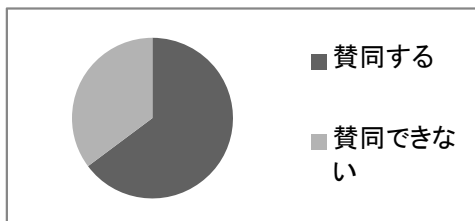
【到達度の測定方法】

賛同する	115	32%
一部賛同する	215	59%
賛同できない	34	9%



【到達目標3】の賛否

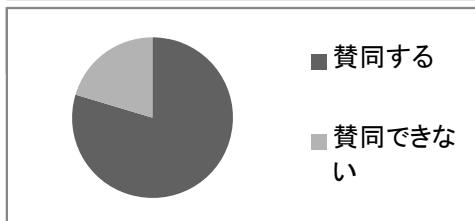
賛同する	238	65%
賛同できない	129	35%



【到達度】の賛否

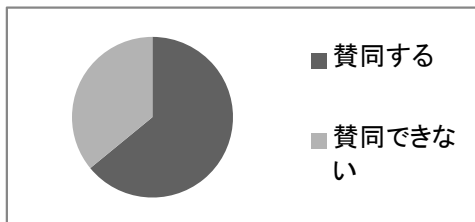
到達度1

賛同する	289	80%
賛同できない	74	20%



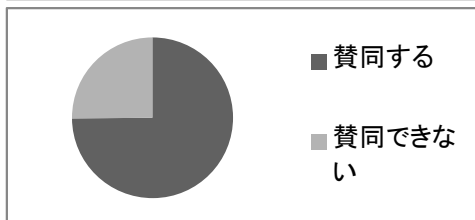
到達度2

賛同する	232	64%
賛同できない	130	36%



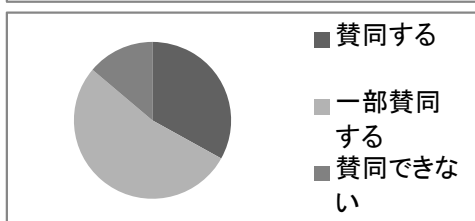
到達度3

賛同する	271	75%
賛同できない	91	25%



【到達度の測定方法】

賛同する	119	33%
一部賛同する	191	53%
賛同できない	50	14%



3. 到達目標・到達度・測定方法への意見の詳細

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				到達目標4について			
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見		到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見
1	①担当教員の不足 ②学科によっては、情報関係の授業が必修ではない			特に、重大なプライバシーに関わる情報を扱う保健・医療・福祉の領域では、必要な資質だとと思われるが、系統だてて教えられる教員がいない。	「情報を識別するための多様な方法を列挙させる」の意味が分からない。	基本的には賛成であるが、学部によって重要度に差があるように思われる。				デバイスの使用が苦手な学生が存在すれば、授業全体が混乱するような気がする。	学科によって重要性が異なるように思う。	学科によって重要性が異なる	学科によって重要性が異なる	学科によって重要性が異なる		双方向授業を可能とする環境整備
2	各学問領域に合った実践的修得が必要	発信者の意図が分かりづらい(分かりづらく工作している)からこ様々な問題が起きている			「1」は個人による差が大きい						指導が難しい、学生個人の思考を統制してしまう危険性あり					様々な科目のなかであり方を考えるのがよい(どの領域でも求められるはずであり、その科目ごとの特性を生かす必要がある)
3																リテラシー教育を普及させるには、あらゆる分野の授業で学修活動での実践を通して身に付けさせるため、教員のFD研修で取り上げることが必要となる。
4	既に取り組んでいる。情報社会論2単位	情報はいかなる場合に信頼できるか	ネット犯罪あるいは事件の事例用を知る。	著作権の尊重、匿名性の問題など	事例研究が大切	いかに協働するかが難しい課題である	技術の選択肢はそれほどないのでは？	スプレッドシートやデータベースを使いこなす努力が必要	学生のコミュニケーションの実態は見えない。	2は現実にはむずかしいのでは。	モンテカルロシミュレーションなど既に取り組んでいる。	現実に取り組んでいる	現実に取り組んでいる。待ち行列、在庫管理など	一般教育としてはむずかしいのでは。	一般教育としてはむずかしいのでは(特に2,3)	情報リテラシー教育は、きわめて範囲が広い(情報技術から法の知識あり)。したがって情報科目を中心しつつ、他の科目との連携が重要となる。
5										難易度が高い	情報リテラシーは、一般的な技術レベルの理解でよくモデル化、シミュレーションなどが必ずしも必要とは言えない。	難易度が高い	難易度が高い	難易度が高い	難易度が高い	情報リテラシー教育の位置づけが不明確。教育体制の構築が必要。
6										到達度2に關しても少し客観的評価法が有りうるのではないか	モデル化とシミュレーションは数理学の範ちゅうであり、共通的「リテラシー」とは分けて考えるべきではないか					社会として取組むべき課題がいわゆる「情報」という領域にとどまらない以上、いわゆる情報機器の仕組み使い方といったリテラシーの部分と、抑制、倫理、守秘、人権まで含めた、社会常識(これも刻々と変わるが)に整理して取り組む必要が有ろう
7		大変重要。キャリア教育の観点でも大事。	大変重要。キャリア教育の観点でも大事。	大変重要。キャリア教育の観点でも大事。	リテラシーとしては少し難易度が高い。					授業方法が少し高度である点。複数教員での対応が必要な点で運用が難しい	ここは、リテラシーとしては難しいと考えます。理系(本学)では、別科目で実施。	ここは、リテラシーとしては難しいと考えます。理系(本学)では、別科目で実施。	ここは、リテラシーとしては難しいと考えます。理系(本学)では、別科目で実施。	ここは、リテラシーとしては難しいと考えます。理系(本学)では、別科目で実施。	私情協に期待します。	
8	この文章の直後にある例示について。インターネット上には・・・とあるが、これではインターネットの取り扱いに本ガイドラインの議論の焦点が置かれているように読める。実際には、新聞、書籍、ラジオ、テレビ、映画、そしてインターネットなど、すべての情報伝達手段が大衆への情報操作と洗脳に使われている現実を理解させようといかないといけない。注釈つきで「メディア」と表現してもよいが、メディアがあらゆる情報伝達手段を意味することが読者に伝わらないといけない。表現が難しい。								「最適」などわからない。せいぜい「適切」でいいが限界であるし、できれば「適切」すら削除したい。メディアリテラシーには正解などないことを教えるべきである。今の学生は、すべてのものに正解があると思込んでいるから、そういった教育が、なおさら重要なのである。	2はピアレビューが現実的であろう。実務家に加わるのが理想であるし、それには賛同する。だが、実際の運用はとてつもなくきびしいため、この記述には賛同できない。務最前線にいたるアカデミックポジションに戻ったものとして意見を述べさせていただく。実務家をどこから調達するのかわからない。大企業なら余力があるという読みがあるのかもしれないが、実作業は下請けであるのが普通である。そして下請けの中小企業には大学に付き合う余力などないのがリーマンショック以降の日本の現実である。本当に優秀な実務家につきあっていたくないのならば、もうがよいと私は考えている。注:なお本物の実務家の時間を貢ぐには一日20万	「科学的」とは、どの程度のことを意味しているのだろうか？ 科学社会学の授業を必須にするという提言もしていきべきであろうと考える。科学とはなにか？ という科学社会学(いわゆる科学哲学)など教えない日本の大学システムでは、実際の運用は難しいとおもう。				個人の意見を述べる。メディアリテラシーは教養課程相当部分での必須授業にするべきである。だが、本来、小中学校から実習を通じて訓練するべきものであるから、大学で初めてもテオクレダ。小学校では、日本語、テクニカルライティング実習、メディアリテラシー実習を行うべきであると提言していくとよい。	
9	賛同するが、学生のレベルが達していない。日本語読解能力が低い。就学意欲が低い。	学生の実態として、日本語読解能力が低く、発信者の意図を理解できない者もいる。	金銭にからむ話には興味を失う学生が多い。	到達してほしいが、実際はむずかしいと思う。	到達できない学生はなぜ到達できないのか判断する必要がある。学習時間が足りないのか、日本語が読めていないのか、など。	具体的に何を発見させるのか？ あきらかではない。解決させるために作業させる時間の確保は現実的には難しい		一連の作業を行なえるだけの能力に達していない学生が多い。検索1つにしても、どのようなソースからどのようなキーワードでどのように有効な検索結果を得るか理解している学生は多くない。	十分な内容になっていると思います。	自己評価、ピアレビューができるほどの成果物を学生が作るがむずかしい。地道にプログラムやシステムなどの技術について講義・実習することも大事。	技術を学ぶのが大事。情報を使った表現などは二の次でよい。	実際は研究室レベルの話であって、情報リテラシーガイドラインから大きくはなれる内容な気がする。	ガイドラインというより全国一律の達成度テストのほうが実効的。	情報系教員だけががんばっている状態。大学全体として学士力と捉えていない。授業内容の保証ができる体制が十分ではない。		
10	情報を利用する上で必要な広い視野が表れており、賛同できます。本学でも初年次の科目でもとらえる等の取り組みを開始している	十分な内容になっていると思います。	誰(何)にとっての安全かが明記されているとおおよいと思います。	十分な内容になっていると思います。	十分な内容になっていると思います。	十分な内容になっていると思います。	十分な内容になっていると思います。	十分な内容になっていると思います。	十分な内容になっていると思います。	十分な内容になっていると思います。	十分な内容になっていると思います。	十分な内容になっていると思います。	十分な内容になっていると思います。	十分な内容になっていると思います。	十分な内容になっていると思います。	学生にとってリアリティを感じる身近な情報通信技術は移り変わりが早く、こうした動向や事例に沿った教材や教育手法の整備が必要であると考えます。
11	徐々に取り組んでいる	当然ではあるが、正しく理解しているかが大いに疑問	加害者にも被害にならないためにも必要	情報倫理の側面から必要	その通りであると感じた	クラウドやSNSの知識や技術をしっかりと習得することが重要になっている	当然のこと	当然ではあるが評価はむずかしい	必要性は認めるが、個人差が大きい	学部や学科によって必要度に温度差がある	学部学科の特性を理解した上で目標設定は変えていく	工業・情報系など理系では必須といえ、専門分野によっては重要度は低い	11に同じ	11に同じ	多様な価値観を認めた上で、いくつかの評価基準があってもよいのではないかと	
12	ネチケットを中心に、情報犯罪についても取り組んでいる。	基礎的素養として取り組んでいる。	基礎的素養として取り組んでいる。	基礎的素養として取り組んでいる。	スキル向上とセキュリティの観点から必要と思っている。	新しい情報ツールのスキルも含めて取り組んでいる。				情報ツールの活用が主のため、その仕組みまでは必要としない。	情報の活用スキル向上には、動作原理までは必要ない。				標準化は大変難しく、そこに意味を見出すのは無利かもしれない。	
13																
14	情報リテラシー教育は、多面的な視点から判断・行動する人材育成に不可欠なもので、時代の要請に即したものでなければいけない		情報の活用の面から必要		事例により他人事ではないことを自覚させる					上記記述から同講義に生かすのか、はん雑になるかなどイメージがわからない	賛同するが具体的にどう組むかがイメージできない					情報リテラシー教育を教育の位置づけで活用するもので有用性を感じました。

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え				
	到達目標 意見	到達度			到達目標 意見	到達度			到達目標 意見	到達度							
	1の意見	2の意見	3の意見	測定方法 意見	1の意見	2の意見	3の意見	測定方法 意見	1の意見	2の意見	3の意見	測定方法 意見					
15	「到達目標1」は情報社会というより人間としての基本的な行動要件と考えます。講義でも時間を割いていますが、本来は初等中等教育の段階で道徳教育や学校、家族でのしつけで、対応すべき事柄が、学校現場の諸事情により、異論の少ない情報分野に責任を移している感があります。到達目標には、何々をしてはダメだというネガティブなものでなく、これこれをするなど新たな可能性を開くというポジティブなものが望ましいと考えます。大学での情報リテラシーとして、もし残すのであれば「到達目標1」ではなく「到達目標3」といった位置付けではな	「到達目標1」が到達目標としてではなく、教えるべき内容のガイドラインとしてであれば、内容は良いと考えます。	「到達目標1」が到達目標としてではなく、教えるべき内容のガイドラインとしてであれば、内容は良いと考えます。	「到達目標1」が到達目標としてではなく、教えるべき内容のガイドラインとしてであれば、内容は良いと考えます。						大学間、教員間の差が大きくなることを心配しています。このことについて、研究会、研修会を増やして欲しいです。				到達度試験について、コストが気になります、学生に検定料を負担させたくないこと、又、その収入自体が目的化するのではと心配しています。	1年次前、後期の2セメスタで実施している。(情報基礎演習Ⅰ、Ⅱ) また、スタートアップ演習という大学生が養成科目においても25%を割いている。		
16	基本的には賛成ですが、理想を高く掲げたガイドラインの様に受け取られました。情報系とは異なる専門外からみれば、到達目標1について私の授業では2年次の初回講義時に周知しています。しかし、概念的には理解できても、個別の対応となると日本語、英語の理解力とも深く関係し、それをクリアしたとしても避けられない場合があります。したがって、遭遇し得る危険、不安の払拭には到					到達目標2は卒業等で必要に応じて対応していますが、個々の教員の力量に左右されるのが現状と思います。				到達目標3については、学科としてそこまでの要求を必要といたしません、研究テーマによっては関係する部分もあるかと思えます。					建築の多くの教員は、研究で必要なアプリケーションや高水準言語により自作プログラムを作成し、活用しているにすぎないと思います。実行可能なバイナリファイルに基づきCPUの動作を理解し、全てのことがどの様にやりとりされているかを把握しない限り、上記の情報社会の影の部分に対する不安を払拭出来ないと考えます。ガイドラインの意図したことがより適切に伝わる教材があれば、助かります。		
17	現実には、カリキュラムに余裕がないうえに、適切な教材を作成するのは簡単ではない				考え方は良いと思うが、実際にカリキュラムに組み込むのは容易ではない	IT利用の実践に関する内容であり、一般に情報リテラシーと呼んでいる内容に該当する	具体的に各種ソフトウェアの利用法を学ぶことが必要	ソフトウェア利用スキルであり、一部行っている	部分的には、いまの学生は実践的に獲得している	ソフトウェアの特性を説明させるのではなく、利用課題の達成度で評価すべき	情報工学系の専門カリキュラムに一部組み込まれている	現在のカリキュラムの達成度評価に相当する	モデル、シミュレーションという言葉は極めて広い内容を包含しており、具体的に何を求めているのかがあいまいである	一部現在のカリキュラムに含まれている	概ね到達目標の2と3に相当する位置づけでカリキュラムを組んでいると思う。到達目標1は、基本的なことだが、カリキュラムに組み込むのは、実際には難しい面があり、逆に2と3をベースに、IT利用の実践の中から学んでゆくことになる。個人的には考えて		
18	学生は情報のエビデンスとしての信頼性を確認しないまま、鵜呑みにする傾向がある。	WIKIPEDIAをただコピーするだけのような活用は問題があると思われる。	個人情報としての性質、あるいは著作権への配慮などについて考えられるようにしたい。	SNSのようなものについて、私的なものと公的なものを区別できるような仕組みについて考えられるようになるとうと思う。				情報の取捨選択が重要であると思われる。	教員の到達度が低い場合には、学生に教えることができないため、適切なトレーニング体制の整備が望ましい	逆に、問題解決にはアナログ的な発想も重要であることも知らせるべきである。そのためには、情報通信に特化した授業ではなく、通常の授業の中に情報通信を組み入れられるような体制づくりが望ましい。このようなことができる教員がどれだけ確保できるかは疑問である。					各大学間(国公立間、地域間、大学の規模など)での格差、文系・理系間の違い、人的資源の格差などについてあらかじめ検証すべきであり、全ての大学に共通した試験は有り得ないと思われる。		
19	「健全な情報社会」の定義が不足している。昨今ではインターネット上に企業への告発などもあるが、これを健全と捉えるかどうかは難しく、過剰な意識はかえって利用者に不利益を招く		「社会の一員」というのは曖昧である。最近話題に上るWikiLeaksなどは果たして、この中に含まれるのが疑問を持つ	2. についてだが、情報通信技術に関する知識と情報リテラシーは必ずしも結びつかない	「情報通信技術」にこだわる必要は無いと思われる。さらに、この書き方だとコンピュータリテラシーとの差異も明確ではない。	この書き方だと情報通信技術には物理デバイスやプロトコルといった下位レイヤーの選択が含まれるように感じるが、情報とは本来そうだったことは別概念である。情報リテラシーで重要視されるのは、情報通信技術の知識ではないだろう。	「検索」ではなく「選択」を入れるべきであろう。明らかに現在のインターネット上で提供される検索機能を意識しすぎている。	コミュニケーションでは曖昧である。例えば「文書を送り取りし」意思の疎通を行うことが出来る」などとすべきであろう	情報リテラシーは情報通信技術やソフトウェアの特性等とはまったく別概念である。また、実務家はどういう業種職種の人物を指すのか不明である。	データの表現方法は重要であるが、情報通信技術の仕組みとモデル化、シミュレーションはまったく別の概念である。また、シミュレーションなどは問題解決へのアプローチのひとつであって課題発見にはあまり役に立たないであろう。課題・問題発見には別のアプローチが必要である(これが評価できる事象かどうかも検討が必要である)。	情報リテラシーの範囲外と考える	むしろ、モデルの不備やシミュレーションと現実との相違、誤差の評価、モデル化時の情報欠落などについて検討するほうが有意義であると考えられる。	誰にとつての有益か判断が難しい。	標準化は常に陳腐化という事象であり、新しい事象に対して対応が遅れる主要因である。特に過渡期にある現在の環境を考えると標準化は目的に沿わない。	現在の担当はコンピュータリテラシーなので、厳密には情報リテラシーではないが、少なくとも両者を区別し、定義をはっきりさせる必要がある。その後、各領域間の差異や特有事象について議論することが必要である。また、大学全体として情報リテラシーを含めたりテラシー教育について方向性をしっかり示すことにあると思われる。但し、こうした方向性については常に見直しが必要な点には注意しなければならない。		
20	計画しようと考えている。適切な教材を指定しないとレベルがまちまちになると思う。				到達度は測れそうだが、達成しことで実際に危険性を認識するかは不明。列挙させることの方が測定しやすいのはわかるが、2の「説明させる」など事案に関しては					学生間でピアレビューを行うのはいいと思いますが、実務家から評価は難しい。					これに関しては到達度の評価はしやすいので問題ないと思います。	根本的な倫理問題は情報リテラシー教育だけでは難しいがグループ学習での討論など他の授業との連携が必要。到達目標2、3は理工系であれば実験などの他の科目でも繰り返されるので到達目標の1に関して扱っていいのかもしれない	
21	必要性を感じるが適切な教材、資料が少ないのが現状									実務家との連携についてカリキュラムに組み込むには具体性に乏しい					現状のカリキュラムでは、主要ソフトの利用スキルの習得に終始しているため、情報倫理教育あるいは適切な情報の読み書き、発信などの情報活用には及んでいない		
22	すでに取り組んでいる	情報を読み解く力の向上は絶対に必要と考える	特に影の部分は重要と考える	到達度3は非常に重要と考える						到達度の評価シート作成はともよいと考えます					仕組みを理解しない学生が多いので賛成	実際問題としてそこまで持っているでしょうか	この到達度は、重要と考えます
23	適切な到達目標だと思う。学科では情報倫理教材を使用して学生に教えている。	到達度として適切だと思う。			上記方法を用いるのであれば、適切な教材が必要であると思う。	適切な到達目標だと思う。	到達度として適切だと思う。			上記方法を用いるのであれば、適切な教材が必要であると思う。また、2については実現が難しいかもしれない。	適切な到達目標だと思う。	到達度として適切だと思う			測定方法としては良いと思うが、実際にこれらの方法を用いるのは難しいかもしれない。	学部・学科によらず情報リテラシー教育は必須であり、大学として教育体制を構築することが必要であると思う。	
24	到達するのは非常に難しいですが、目指すべき目標としてはよいと思います				白黒のはっきりしない領域なので、客観的な測定は難しい、という前提の下で賛同します	到達するのは非常に難しいですが、目指すべき目標としてはよいと思います。				これも客観的な測定が難しいものなので、(ゼミなど)問題を共有するグループでのディスカッションなどによる方が実践的ではないでしょうか					私自身の不勉強のためか、到達目標2との違いがはっきりせず、この文言からすると、到達目標3では、専門分野の知識/技術の活用が求められているようにも受け取れ、趣旨が違ってしまうように思われます		
25	賛同する					賛同する				「必要に応じて」とはどのような場面か、「実務家」と想定しているのは？	「学士力」の到達目標として、このレベルまで必要か	深入りする必要はない程度を示してほしい	全ての「学士」に求める能力が疑問	全ての「学士」に求める能力が疑問	なぜ試験の導入か	学士に必要な情報リテラシーの範囲と程度を具体的に早急に定義すること	
26	ケーススタディのための適切な教材を用意することが容易ではない	高等学校段階との差が具体的に設定したい			2. については、すべての科目で取り入れることができるか疑問が残る					課題発見・問題解決では到達度2までで十分ではないか							

No	到達目標1について				測定方法 意見	到達目標2について				測定方法 意見	到達目標3について				測定方法 意見	リテラシー教育の位置づけ・体制への考え
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見		到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見		到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見		
27										情報リテラシーとしてソフトウェアの特性まで理解させる必要性は感じない						当大学に関しては大学として情報科学的な内容は他科目で行うのでリテラシーは情報倫理的な内容に絞っても構わないと思う。情報を事例として上げるのはよいが、基本は倫理や哲学の問題。技術的な事だけを追っかけてもよい。
28	何をどう教えるかが難しい	読解力の問題で、情報の問題だろうか									レベルが高いので、リテラシー化は困難		モデル化には数学的理解が必要	専門家のレベルを要求しているため達成は困難		
29	目標としては妥当。ただし、実現可能性に疑問を持つ。	目標としては妥当。ただし、実現可能性に疑問を持つ。			上記説明だけでは適切な測定が実現できるとの判断が出来ない	目標としては妥当。ただし、実現可能性に疑問を持つ	目標としては妥当。ただし、実現可能性に疑問を持つ			上記説明だけでは適切な測定が実現できるとの判断が出来ない	目標としては妥当。ただし、実現可能性に疑問を持つ。	目標としては妥当。ただし、実現可能性に疑問を持つ				上記説明だけでは適切な測定が実現できるとの判断が出来ない
30	既に取り組んでいる。ただし、情報社会は影響評価無しに突き進んでいて、教員でさえ簡単に善悪を判断できない程複雑化している。	総論賛成であるが、詐欺師の発信者の意図は巧妙で難解	総論賛成であるが、価値観の違いを含む問題こそ問題	総論賛成であるが、悪に手を染める者を環境が助長している面もある。そちらの教員が列挙して学生に判断させる課題とミックスの形態が望ましい	案は理想ではあるが、学生のレベルでは列挙は難しい。判断が微妙な事例を教員が列挙して学生に判断させる課題とミックスの形態が望ましい	カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない	課題の内容を限定すれば可能	一部は可。網羅的時間的な余裕がない。	充実した内容を取り込む時間的な余裕がない	時間的余裕がなく、実施環境構築が難しい	勿論一部は可。網羅的には学生のレベルが達していない。	勿論一部は可。網羅的には学生のレベルが達していない。				画一的な到達試験は馴染みがない。学生のレベル、学科専攻の中身にもよる。
31	SNSも含めた情報発信や受信時の、“適切な情報発信”がより強く求められ、大学教育における“主体的な判断”を養う必要性をより強く感じている。	賛同ではあるものの、その姿勢を身につけさせるのに苦慮している。	比較的容易に達成できているとの印象である。	到達度1と同様で、達成するのが容易ではない。		活用時、情報に関して“真実”を測るにはかなりの試行が必要と思われる。				何かという評価シートだけでは、外部評価だのとウツサイことが言われるが、講義や実習、演習、ゼミ等で心がけた教育に徹し、発表の機会などで総合的に評価できれば良いと考える。事細かな評価項目に従った評価などより、教員の適切な実践とアドバイスを先決だと思ふ。	一般学生の到達目標としては、他の目標とかなりの隔たりがあり、専門性が高すぎるとは思わない。情報処理技術や通信技術を教えた経験から、教育現場を熟知していない目標だと思う。また、これに関する十分な知識・技術などは、本来的な専門教育の時間を奪うことにもなりかねず、さらに、皆が皆このようなスキルを持っているべきは議論の余地が大きいと感じている。以上の理由から、下記項目への回答の必要性を感じていないので回答しない。					
32	「発信者の意図を読み解き」は、小中高の国語でしっかり行うべきである。同様に「他者の権利の尊重」については、小中高の社会や道徳内で指導すべきである。	「発信者の意図」に関して「真意」を見い出すのは難しいのではないかと。	「行動することができる」を担保するためにはマルウェアやなりすましに遭遇しないようにするための予防策と遭遇してしまった際の回避策など、実習が必要になる。	標準化された教材(e-Learning)や到達度ラスト(CBT)があると良い。	ICTを用いたPBL(Project Based Learning)をすでに活用しており、成果を上げている。			整理・分析・表現は、データマイニング、統計処理、可視化等が含まれ、目標のレベルに到達するためにはかなりの時間がかかりそうである。		評価シートの必要性は感じるが、複数教員や実務家からの評価は難しい状況にある。	情報リテラシーの中でも基本中の基本。本来は、高校1年生までに習得しておくべき内容だと感じる。		数理的な指導が必要であるが、文系の大学ではアレルギイが強い。			大学の情報リテラシーレベルのモデル化とシミュレーションでは具体的などのようなレベルを求めているのか具体例が必要。
33	既に取り組んでいる	カリキュラムに充分に取り込む時間的余裕がない	スキルをもつ担当教員が不足している	学生レベル・経験が不足気味でも適切な教材があれば可能と思われる	カリキュラムに取り込む時間的余裕が不足	既に取り組んでいる 達していない	既に取り組んでいる	既に取組んでいる	計画中	スキルをもつ教員不足	学生のレベルが達していない	学生のレベルが達していない	スキルをもつ教員が不足している	カリキュラムに内容を取り込む時間的余裕がない	カリキュラムに内容を取り込む時間的余裕がない	卒業時に満たすべき学力として、それを保証できる全学部共通のカリキュラムを構築することが必要となる。
34	既に取り組んでいる					できるだけ、科学的なデータに基づいて行うことが重要と考えている	より適切に選択する方法を検討していきたい			取り上げる対象により、評価の方法が異なると思われる						リテラシー教育は、現在は、どの授業においても取り入れることがふつうに行われていることが求められていると思う。教員それぞれが、それを自覚して、学生に接していくことに取り組んでいこうし、卒業時に満たすべき学力と捉えた場合、それを保証するためのカリキュラムの仕組みをかなり準備しているが、学生の情報リテラシー教育の到達目標の1のレベルでは、可能であるが、目標2、3になると、ほかの数学、国語、英語などの基礎知識や考え方の指導の方が必要な学生が多く、情報リテラシーとして要求すること
35	情報リテラシーの科目では指導していないが、担当している「データ分析と統計」の中でも情報を読む心得として話題にしている									1は可能であるが、2、3については実施するのは難しい						“情報リテラシー”については、より多くの教員が理解し、自分の担当授業の中で、“情報リテラシー”の獲得を意識した授業展開をする必要があると考えます。そのために、FD研修として取り上げたり、有効な事例について知ることが必要であると考えます
36	事例紹介が中心になると思われる。体験的に学習するための教材が必要	受け取った“情報”の意味を正しく理解する能力が必要であると考え	実際に、経済的、身体的な被害を受ける事例が発生しており、必須の内容と考える	高度情報化社会の一員として必要であると考え	知識の多寡の判断はできても、その社会的な意味合いについての測定ができないと思われる	概ね賛同できるが、“情報リテラシー”は必ずしもコンピュータの介在が関係する必要があると考えます、その観点から“コミュニケーション能力”に関する内容が説明文に入っているべきと考えます	現在の記述通りでよいと思います	“情報通信技術”を“情報伝達手法”にするほうがよいと考えます	現在の記述通りでよいと思います	“情報通信技術”を“情報伝達手法”にするほうがよいと考えます	現在の内容でよいと思います	情報のアナログ表現とデジタル表現の特徴を理解し、使い分けができるかを問うては如何でしょうか	現在の内容でよいと思います	現在の内容でよいと思います	現在の内容でよいと思います	2のモデルの作成に対する評価は必要だと思いますが、通常の授業の中で使用できる適切なツールがあれば良いと考えます
37	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる			記述回答は数層が高く、回答形式で到達度を測る必要がある。選択式で十分だと思う	ウェブログを使った相互協同学習をすでに実施している	実習は難しいので選択回答形式で到達度を測るしかない	実習は難しいので選択回答形式で到達度を測るしかない	SNSやウェブログにてコメント交換の実習をさせている	記述回答は数層が高く、回答困難な学生が多い。選択式で十分だと思う	実践したいが、文系学生には数層が高いものと思われる	すでに実施している	実習が難しい	計画はしているが、考察させるに至っていない		高位平準化には有効と考えられるが、画一的になることには抵抗も感じる。「自由空間」としての側面もしっかり学ばせるべきであろう
38	既に取り組んでいる															
39	到達目標1の前に様々な情報へアクセスできる必要性を感じる	現行のテレビも広告の一種という認識がない事があると難しい	1・2年生の段階では有効性(光)に着目する必要がある。3・4年生では問題点(影)にも着目する必要がある	ツイッターやSNSで起こる問題を見ると、入学後に対応する必要があると考え	上記の方法で、学生が正しく情報を扱えるようになるとは思えない。ただ他の方法が思いつかないので、本学でも考えてみたい。	重要な事であるのは認める。その前に一般常識の獲得やグループディスカッションで効果的な議論をする基礎が必要である。			社会学系大学のため技術に特化した内容は必要ない。本学ではOPACやCiniiの利用やSimple English Wikipediaを読む練習の方が重要である。また対面でのコミュニケーションに難がある学生のフォローが先決である。	賛同はするが本学の学生では難しいと思う。					課題解決に関しては、将来の見通しを持って現在の行動を決める。この行動を経験させ習得する必要がある。その後、効率化のため上記の到達目標を改めて検討したい	

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え						
	到達目標 意見	到達目標 意見			到達目標 意見	到達目標 意見			到達目標 意見	到達目標 意見									
	1の意見	2の意見	3の意見	測定方法 意見	1の意見	2の意見	3の意見	測定方法 意見	1の意見	2の意見	3の意見	測定方法 意見							
40	主眼的に判断して行動するというのは広すぎると思われれます。情報を抜える、レベルでも良いのではないのでしょうか。	良いと思います。	到達度1や到達度3との違い、あるいは到達目標2との違いが不明。到達度1と3、到達目標2に部分的に含まれているように思えます。無くてもよいのでは、とも思います。	良いと思います。	上記の項番2.の最初の文章、即ち、情報通信技術・・・のところは、到達目標1では必要ないのではないかと思います。	到達目標2も次の3も、学生が所属する学部・学科が対象とする分野のシステムにおける課題の発見や解決に情報通信技術を活用するところを扱っているものと思っています。例えば、私のところだと、物流システムやロジスティクスシステムなどになります。現状の分け方は、到達目標2の方が、到達目標3よりも広い概念になっていて、むしろ、2と3は逆にした方がよいかと思いました。即ち、対象とするシステムにどんな問題があるかを情報手段を利用して調べたり、シミュレーションなどを行って発見する部分を到達目標2に、情報技術を用いた解決策を考える部分が到達目標3に、という分け方	情報通信技術を適切に選択するために、到達目標3の到達度1の仕組みの理解がある程度必要と思われる。仕組みの理解なしには適切に選択しにくいのではないかと思います。	良いと思います。	上記の到達度1の場合と同じように、到達目標3の到達度1の仕組みの理解がある程度必要と思われる。仕組みの理解なしには、最良なコミュニケーションを行ない難いのではないかと思います。	測定方法としては良いと思います。	到達目標2のところに書かせていただきましたが、モデル化やシミュレーションは技術の話で、この部分は到達目標3というよりも、到達目標2にする方がよいと思いました。	良いと思います。	問題解決ではなく、問題発見の方に重点を置いてシミュレーションを利用するのがよいと思います。勿論、解決策の有効性の評価もあります。	これは、モデル化やシミュレーションのことをうたった到達目標3の内容とは対応していないように思われます。広い概念であり、情報リテラシー教育の最終到達点と思われる。到達目標2を到達目標3にして、その到達度3の位置づけですと、びったりしているかと思いました。	項番2や3は、1は難しいと思います。				
41	概念的な目標としては賛同するが、具体的に教えることには困難が伴う	意図の理解は情報教育ではなく、日本語教育の課題ではないか	情報環境の著しい変化を考えると、メタ知識・技能の習得が必要	情報環境における相互依存を理解させることは難しい	説明・列挙されたことを評価する方法が不明	情報通信技術のみによって、課題発見・問題解決することには問題がある	到達度1と到達度2は切り離せない	到達度の評価が難しい	「最適」の基準が不明確	評価の具体的な基準が不明確なため、教育内容の具体的な内容も不明確にならざるを得ない	モデル化とシミュレーションは通信技術とは直接に関係しない	情報理論の基礎教育なら、文系の学生には難しい	内容がモデル作成やシミュレーションのソフトに依存する	情報通信環境に関するモデル化やシミュレーションを行うならば適切なモデル化やシミュレーションの設定しなければ課題遂行すること自体が難しい。また、ここでも具体的な評価基準が不明	標準的なソフトウェアを定める、情報通信システムについてのモデル化・シミュレーションの適切な課題を設定しなければ課題遂行すること自体が難しい。また、ここでも具体的な評価基準が不明	情報通信技術について、一般的で個別的で既存の知識・技術を教育することには大きな困難はないと思われる。しかし、情報環境は著しく変化しつつある過程にあり、一旦身につけたものもすぐに陳腐化してしまう。大学生生活のある一時点での教育が、その時点を越えてある程度の期間通用するリテラシーを確保するようなものになるには、メタ・リテラシーともいえる能力の涵養が必要だとと思われる。しかし、そうした能力を育てるための教育がどのようなカリキュラムや教員によって達成されるかは未知数であり、少なくとも、現時点では実現困難ではな			
42		「情報社会」と「実社会」とわけず、情報の読書ができることが重要。	「情報社会」と「実社会」とわけず、情報の読書ができることが重要。	「情報社会」と「実社会」とわけず、情報の読書ができることが重要。	2.事例をもとに説明をさせることは、大変良いことと考えます。	非常勤で他学校で上記の知識と技能を修得するための演習時間がとれない				2の評価シート作成および評価を行うための教員のスキルに不安がある。	理系のみならず文系の学生に対してもとても有効と考えます。	専攻する学問にもよるが、無理に時間をとる必要のあまりなくとも毛配便は利用できる。テレビの構造を知らなくてもテレビは見え	対象の学生がどの学科にもよりますが、学生にとってハードルが高いと考えます。	3は批判的考察だけでなく、到達度3-5の評価が必要と考える。					
43																			
44	一部取り入れることを考えている	やや具体的に考えにくい			2,3はよいが1が具体的に考えにくい				2との違いがわかりにくい									情報化社会において、大学での教育が必須のものと考えられるが、カリキュラム等が体系化されていない段階である	
45	教える必要性を痛切に感じるが教えられる知識とスキルを持った教員が少ない。一方、学生側は基本的なスキルの習得に手一杯で情報社会の光や影を認識するのは困難					知の形成や開発、と 他者への発信 を同時に到達目標とするのは広範囲過ぎるように感じます。	(1)の意見に書いたように到達目標を区切れればOK	(1)の意見に書いたように到達目標を区切れればOK	(1)の意見に書いたように到達目標を区切れればOK		学生側の汎用的技能としてのICT教育でモデル化やシミュレーションまで使いこなせる必要はないと思います。								
46	既に取り組んでいる				学生のレベルが達していない					学生のレベルが達していない	学生のレベルが達していない	学生のレベルが達していない	学生のレベルが達していない	学生のレベルが達していない	学生のレベルが達していない	学生のレベルが達していない	学生のレベルが達していない		
47	情報リテラシーの基礎として、全学科全学部共通して取り扱える項目だと思	玉石混合の中から有益な情報は必要	SNAでやメール等での個人情報の取り扱いなど、自分の身は自分で守る能力は必要	メールやツイッター、ブログなど発信するにあつたての他者への配慮、一度発信された情報は消すことができない、という社会人としての一般常識の行動、他者への理解とこれから起こるべき事を想像する能力は重要	到達度の測定も重要だが、4年間でこのような大きな事例を起こさないことが重要。場合によっては、学内においては、マイナス得点を加算し、何かやってしまった学生のアカウントを一定期間保留にする等の処置をする。知識だけではなく、実際の行動も評価。	各学部各学科固有のテーマで問題設定をすればよい。本学なら栄養学や食文化での必要な課題、目的を設定することが可能。情報担当以外のその分野の専門家の教員が担当可能。ただし、教員自体の知識とスキルが必要	到達度1,2,3について、まさに卒研や実習ゼミなどで実施している内容である			あえて、これのために到達度測定するのではなく、卒研、実習ゼミでの先行研究調査、文献調査、テーマ、目的、研究の枠組みの設定、実験・調査、統計・解析、結果、考察、まとめ、発表・プレゼン、卒論・報告書作成の一連の流れの中で、評価すべき	内容自体が理工系寄りになる印象を受ける。本学では通信技術やモデル化やシミュレーションなど、全学生の実施には内容的には不足しているような気がする。	専門技術に寄り過ぎている印象。到達目標1に含める。	モデル化とは、どのようなことを指すのか、異例を示していただきたい。専門技術に寄り過ぎている印象。到達目標1に含める。	一般論に展開し、理工系学生以外でも理解できるような印象	到達度試験、モデルとパラメータとシミュレーションはテーマに合わせ、初年度導入教育から卒業研究までの4年間の中でトータルで、科目間のつながりも含め、カリキュラム全体での有機的なつながりや総合的視点から、設定する必要あり。場合によっては、カリキュラムの再構成が必要だと思う。また、教員だけではなく、人的、物理的両面において、情報部門、図書部門等、教務部門、学生部門、キャリアアップコース部門等の事務方との連	情報倫理、リテラシー教育は、その学科専攻での学生育成の目的テーマに合わせ、初年度導入教育から卒業研究までの4年間の中でトータルで、科目間のつながりも含め、カリキュラム全体での有機的なつながりや総合的視点から、設定する必要あり。場合によっては、カリキュラムの再構成が必要だと思う。また、教員だけではなく、人的、物理的両面において、情報部門、図書部門等、教務部門、学生部門、キャリアアップコース部門等の事務方との連			
48	今後、情報社会の光と影を認識し、主体的に判断して行動することはますます重要な課題となる				到達度の測定方法は難しいが、チェックリストによる自己評価なども考えられる	課題発見、問題解決力は重要である。情報通信技術はあくまでも手段である					文科系の学生には教育が難しい		文科系の学生に対してモデル化とシミュレーションなどの教育が難しい				情報通信技術の仕組みを理解させることは、文科系の学生にとって難しい面がある	情報リテラシー教育の基礎的な部分は、パソコン検定資格取得をもって情報リテラシーの単位認定としている	
49	総論的には賛成	意図は分かるが、「発信者の意図」はどう確認するのか	これが一番重要なのではないか？		1については、主体者の思い込みにも陥る可能性がある。方法を列挙するだけではなく、情報を比較し、確認する作業を測定方法に加える必要があると考える	総論として問題はないと考える					人文系の現場において「作品」の取り扱いや著作権の問題を考えさせる方が大事だと思う		それよりも出来上がった「作品」の取り扱いや著作権の問題を考えさせる方が大事だと思う				3が大事だと考える。しかし、「社会における」だけでなく、大学教育であるので、「自分の学びの分野における」情報通信システムに在り方についても考えさせたい	情報リテラシー教育は、カリキュラム全般を通して総合的に取得ではなく、大学教育であるので、「自分の学びの分野における」情報通信システムに在り方についても考えさせたい	3が大事だと考える。しかし、「社会における」だけでなく、大学教育であるので、「自分の学びの分野における」情報通信システムに在り方についても考えさせたい

No	到達目標1について				測定方法 意見	到達目標2について				測定方法 意見	到達目標3について				測定方法 意見	リテラシー教育の位置づけ・体制への考え
	到達目標 意見	1の意見	到達目標 2の意見	3の意見		到達目標 意見	1の意見	到達目標 2の意見	3の意見		到達目標 意見	1の意見	到達目標 2の意見	3の意見		
50	専門科目の中で指導している		具体例を用いているがその定義は変動するので注意する			情報通信技術自体は変化していくものであり、例示は必要であるがその背景について学ぶべきである				ピアレビューは有効ソフトウェア特性は特定技術のみの指導にならないよう配慮が必要						情報リテラシー教育が未だ多くの学部で独立した科目であること自体が問題である。学問内容をPCで教えるのではなく未だPCそのものを教える教育内容が多くなることも課題。それぞれの専門科目の中で適切に情報化をはかる
51		到達度を文章で表現することに疑問				到達度を文章で表現することに疑問				リテラシーとしては到達目標が高い	到達度を文章で表現することに疑問					到達目標3は広く多くの大学を対象とした情報リテラシーとしては難易度が高いと感じる
52	賛同する					賛同する				上記2の測定方法は本学部では実施が難しい状況にある						本学部は管理栄養士養成が目的の学部である。現状、学部のポリシーとして情報リテラシー教育にどう取り組むかという点で、組織的な体制はあまり十分とはいえない
53					現行カリキュラムですべての測定方法を実施することは困難な状況にある											
54	適切な目標であると思いません。既に取り組んでいます	適切であると思えます			適切であると思えます	適切な目標であると思いません。既に取り組んでいます	適切であると思えます	適切であると思えます	適切であると思えます	学科必修の演習科目では、毎年、発表会を行い、学生・教員で評価をしています。また、複数教員による評価をしています	すでに取り組んでいます	適切であると思えます		賛成ですが、授業の運営は大変かと思えます		本学部のカリキュラムは、まさしく、協会の求める人材を教育するために作られています
55	賛同するが、本学では、「カリキュラムに充実した内容を盛り込む時間的な余裕がない」という問題もある。									「最適なコミュニケーション」の定義が不明瞭である。	到達目標には賛同であるが、本学では、すべての内容を1つの科目で実現することには無理があり、各1つ計3科目が必要であると思われる	1年次の導入科目で可能	例えば経済学部では実現が可能だが、国際学部では困難である	1年次の科目では困難だが、2・3年次以上の科目で可能	例えば経済学部では実現が可能だが、国際学部では困難である。今後は、さまざまな分野の中で新しい知の創造につながるよう、情報及び情報通信技術を適切に取り扱う能力を育成していきたいが、まずは連携が可能な科目を見つけ、どのような形で連携できるかを科目担当者と検討する必要がある	本学では、情報リテラシーの位置づけが、コンピュータを使う技能や知識の習得にとどまっている。今後は、さまざまな分野の中で新しい知の創造につながるよう、情報及び情報通信技術を適切に取り扱う能力を育成していきたいが、まずは連携が可能な科目を見つけ、どのような形で連携できるかを科目担当者と検討する必要がある
56	事後学習を利用して取り組んでいる。その際、学生同士のコピーなども厳しく指導している。	情報を読み解く力、理解力、判断力の向上が必要	授業のなかで何度かそのような内容にふれている	取り組んでいる。	内容を取り込む時間的な余裕がない	「情報技術を活用して主体的に情報を創出す」ための基礎力の養成が重要	IOTに関わる基本的な部分の技術、考え方は指導している	充分ではないが、基礎となる技術、考え方は指導している	プレゼンやメール等は取り込むが、SNSを含む携帯電話を主体とする範囲については検討している。	プレゼン等は、教員、アシスタント、学生で評価をして本人に返すが、その他は学部学科として余り必要ではない。	賛同するが、学部学科としては必要ない。	資格取得を目指す学生のみの対象。	学部学科としては必要ない。	学部学科としては必要ない。	標準化された到達度試験の内容にもよるが、学部学科としては必要はしていない。	専門教員間ではFDとして取り上げられているが、非常勤講師の先生もまじえた教育が今後必要となる。
57	既に取り組んでいる	読み解く能力をどのように評価するのか、は難しい	安全の概念は変わり続けている。事例に基づく説明が必要	他者への配慮も、時と場合によって内容が変わる	「列挙させる、説明させる」よりも、具体的な事例を挙げて、あなたはどうする、と質問形式の方が理解力を確認できる	情報通信技術は、非常に広範囲にわたるので、どこまで要求するのか	「課題や目的」の範囲はどこまでなのか、定義が必要では	一連のプロセスを完全に確認するのが難しい	WEB、映像、SNS等多岐にわたって、どこまで要求するのか	「説明させる」よりは、質問や問題に対して答えさせた方がよいのでは	すでに取り組んでいる	十分に行っていない	概念的に理解させる授業を行っている	「相互評価や外部評価」の実施方法はよく分らない	学生の意識や社会が要求する情報リテラシーの内容は、時代によって変わる。一般的な抽象的な理屈ではなく、実社会の中で生きて行く際に必要となる能力を絶えずに定義し直して実施することが必要ではないか。facebook、twitter、LINEなどの新しいコミュニケーション媒体に対しては、具体的な指導が必要であると考え	
58	基本的には賛成するが、専門知識を有する教員がいない。また、学生はより具体的な情報スキルを身に付けたいと考えている。 ※ 例えば、「既に取り組んでいる」、「計画しようと考えている	必要だと思うが、日々変わる事象の中、専門分野以外の教員が対応するのは難しい	日々進歩する技術を活用するためにも必要だと思う	昨今のSNSの事件などもあり、必要だと思う	必要だと思うが、専門分野以外の教員がどこまで対応できるか不安	賛成するが、情報スキル科目の授業の中ですべてを対応することはできないと思う。他の科目で実践が必要	情報通信技術を主体的に選択できる能力は必要だと思う	現代の情報社会では必要だと思うが、すべての学生に求めるの難しいと思う	最新の情報通信機器やソフトウェアを用意することは難しい	必要だと思うが、専門分野以外の教員には難しい	必要だと思うが、専門分野以外の教員には難しい			私情協などで到達度試験を作成し、客観的に判断できる仕組みは好ましい	卒業時に十分みなされるほどの情報スキルを身に付けるには、カリキュラムが不足している。また、その卒業時に必要な情報スキル自体も統一見解がないため、どのレベルをもって学士としての情報スキルが満たされたかを判断することができない。専門分野ではない学部では、情報検索(インターネット検索)と発表(ワープロ、表計算、プレゼン)までができる程度の情報スキルを学ぶためのカリキュラムしか用意されていないのが現状	
59	情報リテラシー教育科目だけでなく、本学部の導入教育などでも、一部教育内容に取り上げている。	既にこのような内容で実施している。			絶対的な評価の具体的な尺度の数値化に、毎年苦慮している	必要であるが、満足した到達度に達する学生が多くなる	毎年、情報通信技術が変革していき、それに対応するのが負担である	既にこのような内容で実施している	大人教育では、学生個別の対応が難しい	実務家からの評価に協力してもらえ人材の確保が未着手の状態である	エンジニアリング的な発想が必要と思われるが、文系学生には負担が大きいかも知れない			モデルをどのように表現させれば良いか、現在悩んでいる	大学入学前に、学生はいろいろなネットワークサービスや情報インフラシステムを既に活用している。しかし、倫理的・道義的に適切な使い方をしていないことが多い。これを、如何にして補正していくのか、情報リテラシー科目に限らず考えるべきである	
60	一部と取り組み始めているが、成果はまだ十分とは言えない				1については現実的には難しい面がある	ナレッジマネジメントの分野になると思う。重要なテーマであり、授業で触れている	十分とは言えないが、授業では目標としている	一部達成できているが、十分とは言えない。時間が足りない	教員間で到達度の評価シートを作成してというのは行っていない	モデル化とシミュレーションの科目は担当していないので、何とも言えない	授業で取り組んでいるし、それなりの成果は出ている	モデル化とシミュレーションの科目は担当していないので何とも言えない	授業で取り組んでいるし、それなりの成果は出ている	経営情報学部の情報コースでは、国家試験の合格を目指すので、それなりに体系化されたカリキュラムに基づいて到達度試験を行っている	企業及び社会の求める情報化人材として、国家試験の合格人材をモデルとしており、資格取得を目指すと共に、幅広い知識・応用力(経営戦略、マネジメント、情報技術、法制度等)を身につけさせよことを目標としている	
61	既に取り組んでいるが、なかなか目標に届かない															情報リテラシー教育の内「読み書き」といった基本知識については教育が比較的容易に可能であるが、情報倫理、情報の活用となると単なる知識だけでは教育内容として不十分であり、高度な内容になると学生には理解が難しくなる
62	今期から取り組む予定。ソーシャルメディア活用において特に重要となるため	ネット上だと顔が見えないコミュニケーションとなるので、発信者の意図を読み取るスキルが必要。加えて、情報の真偽を見極める力も必要	両面の理解が必要。その進のきかけとして情報を取ることができるようになると思う	更にいえば、自らの活動推進のきかけとして情報を扱うことができるとよい	学生に実際に体験させた上でディスカッションさせることが有効と考える	今期から取り組む予定。実践が重要と考える	様々な情報通信技術を利用し特徴を捉えることが重要	情報発信を意識した情報収集・整理のスキルが要求される	実験が必要不可欠と考える	実際に活用し特性を知ることが大切。ピアレビューはよいと思う	よいと思うが、現状では半期1コマの授業でここまでカバーするのは難しい	他の授業と連携して到達する	他の授業と連携して到達する	他の授業と連携して到達する	客観的評価は必要であるが、学生の主体性を養う仕組みがあるとよい	情報リテラシー教育は、情報通信技術の活用を通じ、学生の考える力やキャリア意識の醸成に寄与する極めて重要な位置付けにある。本教育での情報収集・情報発信・人脈作りなどの活用・実践を通じ、学生の『自分で未来を設計し、人生を切り拓く』力を養うことが目的である。しかしながら、体制の面ではこれらを教授できる教員が少ないことが課題である
63	カリキュラムに充実した内容を盛り込む時間的な余裕がない				1の多様な方法とは何でしょうか。お教えいただけると助かります。					実務家からの評価が必要状況として、よいケースが思い浮かばないため、お教え願えると助かります。						私自身、これまでにケースをこなしていないため、はっきりわかっていませんが、標準化というのは可能なのでしょうか？モデル化し標準化できるようなケース集を用意しておくのでしょうか？

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え			
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見		到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見
64	ICTを活用する上で必要な最低限の知識である。				現実的には学生の文章表現力不足のため、選択式の理解度試験で測ることが多い。	現代社会では、情報活用能力は必要不可欠である。				情報機器活用を測定するため、課題に対する成果物により評価を行う。	「モデル化とシミュレーションを…」の部分についてはハードルの高さを感じる。		やや専門的で高度であると思われる。		1と3については賛同する。	本ガイドラインの到達目標を全て達成させるためには、現カリキュラムでは不十分であるため、改善を図ってきたい。
65	普遍性のある知識・倫理基礎なので、分野共通の標準的かつ具体的な教材が必要。					学生のレベルにもよるが、到達目標を達成するためには、情報リテラシー科目だけでなく、基礎ゼミナール等の少人数科目での実践が不可欠である。	趣旨に賛同するが、情報リテラシー科目ではなく、リテラシー修得後の上級科目で扱う到達目標と考える。			到達度3の内容を、授業の中で体験型学習として取り上げるのは、運営上難しさを感じる。	目標達成には、学部専門科目との連携が必須である。情報リテラシー科目のみでは達成は難しい。	理工系および文系上位校の学生ならば到達可能である。	学部専門科目との連携の中で、達成を図る必要がある。			本ガイドラインの理念・趣旨には共感・賛同します。ただし、教育の現場で学生に向き合う教員としては、到達目標を網羅的に取り上げ、到達度をすべてクリアするには、カリキュラムの本格的な改定、必要な科目の増設、担当教員の増員など、組織的な体制整備が必要となります。
66	大学入学以前の情報倫理教育との棲み分け・役割分担ができていない。前提となる知識や経験に差があり、全学生向けの教育をどのように実施すればよいか判断が難しい	情報リテラシーというより、日本語リテラシーに近いものを感じる	大学での教授が必須と思われる	情報リテラシーでの取扱いが適切と思われる	1.の「識別」とはどのような意味か、不分明であるように思われる。「到達度1～3」がレベルを表示するものであれば、その測定方法も、この序列に準じたものであるほうがよいのではないか	一般的な要請を適切に表現できていると思われる	単純な「選択」とともに、情報通信技術やソフトウェアの連携について述べるのがよいかもしれない。Webページ制作・公開といった課題は複数のソフトウェアの役割の理解が必須である			【教育・学修方法の例示】にある内容は少々難しい	実務家から評価を受けさせることの意義は受けてどうか？	到達度2.において、少なくとも本学部の情報リテラシーの教育内容に照らし、モデル化とシミュレーションを情報リテラシーに組み込むことの現実性がない	少なくとも文系大学では現実的でない。技術評論社『リテラシー』でその方向の記述が見られるが、一般的な情報リテラシーの要請から乖離しているように思われる	「標準化された到達度試験」の導入はどの程度現実的なものでしょうか。2.は少なくとも本学部が目指すレベルを逸脱していると考へます。3.はこれで評価できるのか不明と考へます	セキリティについての技術的理解を明文化し、到達度の文中できちんと謳ったほうがよい	「標準化された到達度試験」の導入はどの程度現実的なものでしょうか。2.は少なくとも本学部が目指すレベルを逸脱していると考へます。3.はこれで評価できるのか不明と考へます
67	既に取り組んでいる	到達度1, 2, 3のいずれも「できる」とすることは、実際上求められる力で賛成であるが、学修到達度としては高度なレベルであるため、これを達成するためのカリキュラムは相当の分量をよする			測定方法では「できる」とした到達度を確保、担保するのは難しい	情報技術の学修において活用面に目を向けさせることは、特に理工系では大切である	「することができる」ことを確認するためには相応のスキルを身に付けていることを確かめねばならず高いレベルの到達度である			「説明できる」と「することができる」の間には、相当の力の差がある。少なくとも実習形式での確認、卒研レベルの教育が求められる	仕組の理解と課題発見や問題解決と関連性を示すことが加えて、社会的側面も加えた方が活用面を重視する考え方と整合するし、また、そういう情報に対するセンスを身に付ける上でも大切	情報を科学的にとらえる切り口として、機能的要素に加えて、社会的側面も加えた考え方と整合するし、また、そういう情報に対するセンスを身に付ける上でも大切	必要な力ではあるが、リテラシーの内容としては高度である	有益の基準の置き方がポイントとなる	学部学科は、それぞれの教育方針に基づいたカリキュラム体系を有しているため、それらの教育方針と評価軸をすり合わせる必要がある	情報倫理の教育には、適切な事例を用いることが有効であるが、そのような事例を集めることは難しい。一定の支援体制が求められる
68	モラルの問題として、いじめにつながるソーシャルメディアの利用、ネットワークへの過度の依存などを、加害者・被害者の立場から具体的に例示するとよいとおもわれますが、事例を準備することは相当な努力が必要です	適切な事例の合理性をどのように説明するのかとても難しい要求だと思います。Wikiなどを情報検索の事例とした場合は微妙な判断を要求されます	〇と×で仕分けできるように、時代に即した事例を多く示す必要があると考えます	個人情報や著作権を扱う場合など、ケースを明確に絞る必要があると考えます	説明することで理解する学生は一部に限定されます。大量のケースの判断によってQ&A型の基礎知識の獲得を確認すべきです	趣旨は理解しますが、課題発見や問題解決にとって情報通信技術はメディアの一つであって、深い洞察に導く本質的な手段ではないと考えます。また、ビッグデータからの情報抽出など、高度な情報処理技術を想定されているならば、リテラシー教育の範囲を超えていると思われる	リテラシーのレベルで選ぶべき技術・メディアを知っておくことは重要だと思います	範囲が広すぎるため、目的や到達目標があいまいになる恐れがあります	学生にとって最も容易に受け入れられるリテラシーかと思えます	自ら説明することで理解する学生は一部に限定されます。実践的に教育内容を組み立てる必要があります	仕組を理解するところまでは、概念形成のための教育で可能と思われますが、モデル化とシミュレーションが、どのような範囲を指しているのかよく理解できません。通常の意味では、数理的な素養が必要で、数値計算や、モデル化のアプリケーションに強く依存した教育になり、リテラシー教育とは言えません。このままでは、理工系に偏って、それ以外の学生にとって未消化で終わる可能性が高いと思えます	「情報を科学的に捉える」は、「情報の流れを工学的にとらえる」とすべきかと思えます	達成度の点でリテラシーの範囲を超えています	社会システムのほとんどが情報通信技術に依存している現在、範囲を限定しなければ効果は小さいと思えます	モデルのパラメータを変更することによる直観的な理解は、期待できます	情報技術分野は、若い世代にとっては身近すぎて、改めてリテラシーとして教育を受ける必要性を感じないはずですが、それでも、この分野における若い世代の過度の自信が取り返しのつかない失敗を招くことは十分予想でき、また事例も多い。そこで、「失敗データベース」のように、情報技術の事例データベースを充実させることが必要と感じられます。また、大学教員の情報リテラシーへの適性も、世代によって大きく差があるため、一律の研修などで知識のみ獲得することは、日々変化していく情報技術環境に追従していくことに必ずしも寄与しません。現在の高校も含めた情報リテラシー教育は、技術的な到達度が優先され、基本的な概念形成がおろそかにされています。これは、教育する側の新しい環境への対応の問題もありますが、ここでの提案のように、いままですら省略されていた部分を根本から考え直してみるのには大きな意義があると思えます。一般に、情報系の情報リテラシー教育は、基礎教育を経て、プログラミングやサーバ構築まで実践した段階で初めて完結
69	賛同するが、これに耐える教育を行う者がいるかどうか									2)に関して実現可能性について考える	高校教育「情報B」の結果と今回の指導要領改訂にいたった道程に学ぶべきことがあると考へます					高校での教育との関連が大変悪いと感じている。大学として取り組むべきことを良く検討すべき
70	内容には賛成ですが、実際に取り組んでみると学生に理解してもらえないのはなかなか大変です	内容には賛成ありませんが、順番としては3, 2, 1となるような気がします			全面的に賛成です	授業の中で取り組んでいます	全面的に賛成です			学生間プレビューは重要ですが、それが可能かは少し難しい面もある気がします	内容には基本的に賛成ですが、モデル化まで全ての学生に求める必要があるかは疑問もあります	全面的に賛成です	モデル化の部分は個人的にはやや疑問があります	全面的に賛成です	モデル化の部分は個人的にはやや疑問があります	カリキュラムに取り入れて積極的に取り組んでいる点は評価できるが、卒業時ではなく、例えば3年進級時などの段階で基本的な能力を修得できるよう、なんらかの工夫が必要な気がします
71	1年次の全学教育「青山スタンダード」に於いて取り組んでいる				現実のコミュニティとネット上のコミュニティの違いを考えさせる、などがあってもよいかと思えます					メディアごとに必要とされる配慮も含まれますでしょうか。	文系学生にも取り組みやすい内容ですとありがたいです。					情報リテラシー教育の取り扱う範囲は所謂「情報系」の範囲に留まらないと思われる。昨今ではデジタルヒューマニティーズなど人文系での情報の取り扱いや、メディア制作、アーカイブ作成も増える事が考えられる。それらに対応できる体制が必要とされる。
72																選択必修科目(履修しなくても卒業可能)として実施されているコンピュータ基礎の中で情報リテラシーを教育しているが十分な量ではない。
73	学生にとって必要であると考え	当然必要な力である	社会問題になっているので必要な力である	社会で活躍するために必要である	学生にとって必要であると考え	学生にとって必要であると考え	学生にとって必要であると考え	学生にとって必要であると考え	学生にとって必要であると考え	ピアレビューは、他者の視点を理解させるのに役立つ	それほど必要であると考えない	科学的に捉えることは必要だが賛同した	それほど必要ないと考え	それほど必要ないと考え	批判的に捉えることが必要	基本的な知識は必要であるため、様々な授業に盛り込むとよい
74	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる
75	高等学校卒業段階である程度は到達されるべきである	発信者の意図を理解することは難しい場合があるため、受信者側は読み解くまでの能力というハイレベルな到達度よりは、受け手としての心構えができていくが到達度として妥当			「情報の光と影」の扱う範囲は広いので、測定方法ももう少し多様であった方がよい					測定方法2はどのようなものか想像できない。また、到達度が3項目あるが、測定方法が2項目であり、どの項目がどの測定方法に対応するのかもわからなかった。	モデル化とシミュレーションだけ強調しすぎのように思える。また、「新しい評価軸の構築」というのは基礎能力を超えるように思える。	実践的なモデルの構築は、情報リテラシー教育の枠組みでは難しいと考へられる。基本的かつ典型的なモデル化とシミュレーションとその応用程度ならば妥当と思われる。	標準化された到達度試験について、どの程度を標準と考へているのかによって賛否の判断をした。	卒業時に満たすべき学生力であり、必修として位置付ける必要がある		
76	既に取り組んでいる															

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え				
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見		到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	
77		発信者の意図というよりは受信者の受け取り方が重要?															
78	賛同する																
79																	
80	既に取り組んでいる		「安全に配慮」の内容が難しい		測定方法は他にも多く考えられる												
81		「ケーススタディ」の意味が分かりません。	「ケーススタディ」の意味が分かりません。	「ケーススタディ」の意味が分かりません。	3は2と同じ内容です	「ケーススタディ」の意味が分かりません。											
82	大学としては既に取り組んでいる。内容はよいが、「光と影」という表現は抽象的で賛成できない。より正確な表現(ex長所と短所)の方がよいのではないかと。	多少抽象的とは思いますが、(3)1で補完すればいいと思います。	(1)と同。内容はよいが、「光と影」を変えた方がよい。	きわめて必要なことと思われる。	2は具体的でよいと思います。1と3は何をどこまで、どのように、かわからないので具体化するか、例を挙げるなどにしてはどうでしょうか。	いいと思います。											
83	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	総合的な能力なので具体的な評価は難しいのではないかと。	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	評価者の価値観も含まれるので評価が難しいのではないかと。	必要と思うが、教育として実践する機会がない	必要だと思うが担当科目の性格上特に重点化できない	必要だと思うが担当科目の性格上特に重点化できない	必要だと思うが担当科目の性格上特に重点化できない	評価の必要性は認めるが評価方法に十分な多様性を盛り込むのは難しいのではないかと。	技術的な能力とより総合的な「人間力」的な部分を切り分けて、学生の可能性を情報教育がむしろスポイルしないように努めたい。専門の領域の違いにより到達点が異なる。ユーザーレベルに到達できること、ユーザーレベルとして最低限守らなければならないルール・身を守るための方法を考えないと、情報の正否認識や著作権などを含めた情報の取扱い方については、専門家の教授(育)が必要である。	
84	これができれば何も問題はないだろう。そのぐらいに難しい課題である。	大いに賛同するが、課題である。	大いに賛同するが、課題である。	大いに賛同するが、課題である。		効果的な発信という点でも課題である。											
85	既に取り組んでいるが、学生に十分に受けとめられてはいないと思える。	現状ではすべての情報に対してできているとは言えない。	現状ではすべての情報に対してできているとは言えない。	現状ではすべての情報に対してできているとは言えない。	情報量どの程度正しくとらえているか、ある程度は把握できると思えるが、これですべて把握できると思われない。	様々な情報通信技術についての知識と技術が習得できているとはいえない。	情報の検索・収集はできていて、それ以後の作業は難しい(できていない)。	幅広い情報通信技術の活用方法についての教授(育)が必要。	2については、もう少し簡単な評価方法がよい。								
86	取り組みはなされている。	当然のことである。	当然のことである。	当然のことである。	個別に測定するのは困難である。	理想的である。	理想である。	理想である。	理想である。	個別に能力を評価するのは大変である。	かなり高いリテラシーが要求される。	専門家に近い能力である。	専門家に近い能力である。	専門家に近い能力である。	全てできれば理想的である。	専攻分野により内容、難易度に差はあるが、理系、文系を問わず、なんらかの情報リテラシーを体験して卒業していると思える。	
87		1が受信2が利用(例えばインターネットショッピングなどで)3が発信のようなことをイメージしているように見えますが、今や「利用」は「受信」と同じくらい、最初から使用している人が多いので、このような段階分けが適切かどうか疑問の余地がある。								実務家からの評価を受けることができる場合は非常に限られているので実際的でない		もはやITに関する研究の領域に入りこんでおり、利用のためのリテラシーの範囲を越えている		到達度試験の標準化は私情協で行うことは業務負担を増やすだけになってしまう。			
88	既に「情報倫理」の科目で取り上げている。				「情報の活用方法」では、漠然としている		伝達・発信と分けているのは、双方向かどうかで区別してあるのでしょうか。やや不明瞭	「最適な」という言葉で表われない不明瞭さがあるので?	評価のばらつき、主観的にせざるを得ない問題点を意識して実施を。		学生のレベルの違いを考慮した対応が困難か?	分野共通の情報リテラシーとして高度過ぎるのでは?	分野共通の情報リテラシーとして高度過ぎるのでは?			リベラルアーツ大学として、模索中である。少なくとも分野共通に求められる情報リテラシー、情報倫理を全学的に実施すべきとの声の一部、学内にあるが、カリキュラム、人的資源等の制約により、2009年以降の改革計画家が停滞したまま、現在に至っている。少なくとも、コーディネイトを行う1人以上の専任スタッフを要求継続中であるが、進展状況は不十分である	
89	情報社会の光と影を電子情報化されたデータの良い取扱い方、悪い取扱い方と理解した。ここには電子情報化されていない古い形の情報の考え方が薄い	情報とは何かの理解に起因している。従って情報とは何かの理解が第一義的に必要である			方法の良い点悪い点を理解しつづけている人がどれほどいるのか	我々が使うものがインターネット検索である。しかし裏でコントロールされているのか	プログラミングの意味の理解が電子情報化されたものの根拠にある。インターネット検索の検索ツールはプログラムのアプリ利用の一つではない	教員間の到達度評価シートにどれだけの意味があるのか。教員と学生を含めた議論が必要である	どのように理解させるのかの方法をかんがえないといけない。モデル化してしまおうことである。モデル化＝一つの方法にしぼることの理解をどのようにさせるか	動作原理の理解にはこれまで学んできたものの知識が土台になる		どのようにしてモデル化し、どのようにすればシミュレーション可能かを教え、これが一つの方法でしかないことを理解させる	電波を使うことと、専用線を使う事、双方向で可能なこと(使い方はいろいろ)を理解させる	必要ない			
90	必要なことである	基本的に必要なこと	基本的に必要なこと	基本的に必要なこと	内容のレベルに依存するが、基本的な方法である	知るべきことである	教養として必要である	教養として必要である	教養として必要である	到達度を厳密に評価する必要性はない	例題的な学修で良い	教養として必要である	教養として必要である	教養として必要である	到達度を厳密に評価する必要性はない	例示の内容が当てはまっている	
91	既に取り組んでいる				現在の授業では、ここまでを目標に設定するのは難易度から見て困難						少人数クラスでないと思える						
92	本学や本学部でもそれに取り組んでいる					賛同であるが、狭義の情報リテラシーとして「情報の取捨選択」と「自らの情報発信」を設定し、その上で、情報通信技術を活用することができるというよりは、広義の情報リテラシーとして「状況の把握」「問題設定」「問題解決」およびそれらに付随するスキルを到達目標として捉えた方が明確である					賛同であるが、多くの大学においては情報リテラシーに関する科目は大学1年生を対象とした科目となっており、到達目標としては高すぎると考えられる。本学や本学部でも情報リテラシーとしてこれに取り組んでいるクラスは少ない。						到達目標2についての回答と重なるが、情報リテラシー教育の目的を、狭義の情報リテラシーとして「情報の取捨選択」と「自らの情報発信」を設定し、その上で、広義の情報リテラシーとして「状況の把握」「問題設定」「問題解決」およびそれらに付随するスキルを到達目標として捉えた方が明確である。さらに、大学における低学年での履修科目として基礎を教育する科目として位置づけ、演習やゼミといった教育と複合させ実践的に取り組む体制を整えないと、単なる単位取得やWord・Excelを教えるだけの教育に成り下がってしまう。大学生によるSNSを使った問題行為の露呈が後を絶たないのは、そうした実践的あるいは社会的な意味と関連付けて修得していないからである。これまで大学は、教育機関として見た場合、何千年も前から知識の伝達や勉強方法の教育の場として位置づけられてきたが、

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え						
	到達目標 意見	到達度			到達目標 意見	到達度			到達目標 意見	到達度									
	1の意見	2の意見	3の意見	測定方法 意見	1の意見	2の意見	3の意見	測定方法 意見	1の意見	2の意見	3の意見	測定方法 意見							
93	到達すべきであるが他の情報科目担当教員への周知が困難	適切な教材がない	十分な時間がとりにくい	十分な時間がとりにくい	事例を列挙するだけでは応用できない	主体的に情報を創造することが難しい	情報通信技術の知識が浅い	検索技術の応用が利かない	一方的に発信するだけである	代表的な情報通信技術の説明では、新しい技術への対応が難しい	多くの学生はついてこれない	必要であるが学生が対応できない	必要であるが学生が対応できない	必要であるが学生が対応できない	おおむね妥当	ワープロや表計算などの基礎的な演習ではなく、問題解決のツールとして活用できるレベルが必要であるが、特に文系学部では教授会の認識が低く、情報リテラシー教育のレベルが上がっていない。今後労働生産性の向上が必要な日本社会において、情報リテラシー教育は重要となるはずである。現状を変えるような仕組みを大学評価などに組み込むべ			
94	既に取り組んでいます	メール等に限らず、当然のスキルと考えます。	インターネットのリスクと、その対策として習得すべき情報リテラシー(PCのセキュリティ対策、インターネット利用時のセキュリティ対策、情報セキュリティ技術の基礎)などを教えています。	ソーシャルメディア等で情報発信が誰でも出来るようになりましたが、他者のプライバシーを配慮して情報発信することは、当然のスキルと考えます。	上記の内容をレポート課題として、提出させています。	賛同できますが、情報リテラシーの基礎を習得した上で、次のステップでの教育内容かと考えます。	ネットワークを活用して、課題解決に必要な情報収集するスキルは重要と考えます。	ネットワーク上の情報に限らず、重要なスキルと考えます。	メールに限らず、LINEなどのソーシャルメディアを活用したコミュニケーションスキルは重要と考えます。	知識、技術の習得ではなく、インターネット、WWW、ソーシャルメディアなどの活用能力の習得であるため、上記の方法だけでは十分な到達度の測定は難しいと考えます。解決すべき課題を与え、そのためのグループワークなども有効な教育方法かと考えます。到達度の測定は、その活動内容、得られた結論などをまとめたレポート等で測定するのが良いかと考えます。	前半の部分は賛同できませんが、「モデル化とシミュレーションを課題発見や問題解決に活用できる」の部分は、モデル化、シミュレーションには様々な手法があり、目的に応じて使い分けが必要がありますので、より具体化が必要と考えます。	情報のデジタル表現、インターネット、Webの仕組みを理解させることは、文系の学部でも重要と考えます。	到達度の目標設定が少し抽象的ですので、具体的な授業内容(シラバス)を決めることは難しいかと思えます。	インターネットなどの情報通信システムは既に社会インフラになっていると考えます。社会において有益か否かは、その利用方法にも依存しますので、到達度の目標設定が難しいと考えます。より具体的に、情報通信システムに対する事例を含めた脅威と、それを解決するためのセキュリティ技術とその役割を教えることは可能かと考えます。	上記の到達度の測定方法の記述は少し抽象的ですので、もう少し具体的に記述して頂かないと、賛同できるか否か判断できません。	本学部は、IT系の理系の学部ではなく、グローバルな視点で問題解決ができる人材育成を目的としたグローバル系の文系の学部です。IT技術の専門教育ではなく、ITを国際ビジネス等で活用するためのスキルを身に付けさせることを目標としています。			
95	有・無益、善等の情報の中で主体的に判断する知識、技術の修得する教育は重要	当然持つべき知識及びスキル	当然持つべき知識及びスキル	当然持つべき知識及びスキル	大学教育の中でどこに力点を置くかの範囲までを領域とするのか					1.1についてはあまり意味がないように思える					大学の教育内容によって到達目標が異なる。定性評価をするあるいは求められる昨今測気方法は重要である。	学修ポートフォリオ、自己分析・評価する時代となり、以前とはかなり高いレベルのPC、ネット環境を整え、FD、SD共にスキルアップを図る。一方、情報倫理の確立に向けて具体的に行動すべきと考える。			
96	必要と思うが、学生が精神的に成長していないため目的を持って修得出来るかは疑問	社会には情報があふれ過ぎ、その情報の真偽の見極めは大切である	情報通信技術は必要不可欠であり、基本的な知識及び活用方法は特に必要と思う	そこまで必要ないと思うし、実現には無理がある	列挙させるだけでは、意味は無い	自分が必要な情報を収集し、情報通信技術を使って伝達することは普通になってきている	多様な情報通信技術を適切に選択できることは大切	賛同するが、どう指導する方法論の集約が難しく思える	信頼におけるコミュニケーションの指導が重要	1.1についてはあまり意味がないように思える	専門的な学部・学科でないかぎり、情報通信技術の仕組みまで修得する必要があるのか	そこまで必要ない	実現は難しい	情報通信システムの役割を考えると、着実に自分の技術となる	試験などをすべき教育ではないと考える	社会には大量の情報が溢れ、便利になった反面危ないことも沢山起こる時代になった。危険から守り一般社会で活躍出来る基本的なノウハウを教えることが大学の情報教育と考える			
97			到達度1・3を包括しているように感じられる。同列?		カナダで実施されているように、小・中学生のうちにディスカッション形式で身につける内容であり、大学生が試験に解答できればいいという方式では身につかないと思う。			到達度1を含んでいるのでは?		現在のカリキュラム体系では、実務家から評価を受けるのはほぼ不可能。	理工系の学生はともかく、文系の学生には無理だと思う。				外部評価をカリキュラムに取り入れるのは簡単ではない	到達目標1・2は、社会生活において不可欠なので、義務教育のレベルで身につけておくべきと思う。大学での情報リテラシー教育は、大学で必要となる学術・研究内容に直結するような、高度なレベルのものに特化されなければ、学生である意味がないと思			
98	スマートフォンの普及により今までよりもさらに平易な技能によりインターネットへの参加が可能になり、(それに伴ってトラブル等も増加している)一層この種の知識が重要になったと考えている。共通化された教材の開発によって全国で画一的に教授できればよいのではないかと考える。ただし教える時期としては大学ではなく高校の方が適切かもしれない。			「社会の一員」とするとやや漠然としてしまい、学生がイメージを持ちにくい。「所属組織(大学)」も加えてより身近なものとするべきか。または例として「サークル」「クラスの仲間」といった具体例を設けるべきか。		賛同はするが、単純に「情報リテラシー教育」として切り分けることは難しい。なぜなら具体的に授業を組み立てるうえで、コンテキストが立たず、学生のモチベーションを引き出すことが難しいため。一般科目との協同で行えることが理想	先述の通り、一般科目との協同が望ましい			学生間のピアレビューにて方法1にも言及できればよいのではないかと	賛同はするが、すべての専攻の学生に必須とはいえない	一通りの知識習得が有用と考える	賛同はするが自身の所属学部・学科には必要ない	事例紹介などは有用と考える	自身の所属学部・学科においては資格試験や外部による評価までは必要ないと考える	知識も技能も講義・産学ではほとんど定着しない、単に初年次教育として切り離して扱うのではなく、一般科目との協同で実例をもとに繰り返し扱えるような手法が必要。しかし現実にはカリキュラムの制限により全く実現できていない。一般科目の教員へのFDによる情報リテラシー「能力」の必要性とその「教育」への理解を導きたい			
99	重要な課題として認識しており、既に取り組んでいる。			全ての測定方法に「説明させる(=プレゼン)」を入れても良いのではないかと考えています。						「必要に応じて実務家から評価を受けさせる。」の意義と意味がよくわからないのですが	文系の学生にはここまでは教居が高く、このレベルの教育では不要かと思えます。					情報リテラシー教育は非常に重要な内容を含んでいるものと認識していますが、文系の大学であることもあり、他の科目担当のほとんどの教員にとっても、またほとんどの学生にとっても問題意識が低く、具体的な資格等に結びついたり、就職との関連があるものでないと、その内容についての習得の動機づけが低いように			
100	「情報を知識へと体系化できるように」と思います。	「必ず」かどうかは微妙だとも思います。	「発信者の視点」も必要だとも思います。	「持つことの意味」だとも思います。	「情報の中身を識別」だとも思います。	「協働」に限らず単独(個人)でも該当すると思います。	「問題解決のための手順や方法」だとも思います。	「Web情報や各種データベースを活用して」など。	「適切なコミュニケーション」だとも思います。	「ソフトウェアの活用意義」だとも思います。	「モデル化やシミュレーション」による課題の」だとも思います。	「問題論理的にとらえることができる」だとも思います。	「在り方を提案することができる」だとも思います。	3)についての賛否両論を考察させ、「だとも思います。		通常のカリキュラム外での、入学前や1年次夏季での集中教育体制も良いのではないかと			
101	賛同するが、高等学校の情報教育の中で教えられてきているような気がする															以前の大学における情報リテラシーは、WORD・EXCEL・POWERPOINTを中心とした社会人になって基本的に利用されるビジネスソフトウェアの使い方や、簡単な統計処理や会計処理であったが、高等学校までこれらの技術を習得されてきており、現在、情報リテラシーのあり方の議論がされ、情報リテラシー自体の意味に関して再考されてきている。所属する学部においては、情報リテラシー科目を極力少なく(全学的に進めている学部共通科目化)して、商学部専門の基礎になる統計処理能力に特化した情報処理科目をおくことを検討し			
102				情報社会の光と影について総合的なレポートを課す				与えた課題に対するレポートを作成する	FaceBookなどを有効的に活用できる	クラス内でのディスカッションによって客観的に判断する	例えば、待ち行列のような問題を課し、最終的にはプログラムによるシミュレーション等によりモデルの検					具体的なシミュレーションモデルをプログラム作成により体験する	レポートによる考察内容の評価を行う	単なる3者択一ではなく、ONLINEにてレポート等による記述をさせる	基礎情報教育科目において、半期15回の情報リテラシー教育を全学的に実施している。

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え				
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見		到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	
103																入学時の学生のレベルがさまざまであるなどの理由から、大学で学ぶために最低限必要なコンピュータリテラシーの習得にとどまることになりがちであり、高校との連携も必要と考える。大学卒業時に満たすべき学士力としてとらえた場合には、初年次教育にとどまることのないカリキュラム編成およびカリキュラムの内容について検討する組織的な体制も必要である。上記到達目標、測定方法について大きく賛同するものの、実際の授業および学生を考えると、より具体的な内容とレベルのマトリックスが必要ではないかと感じる。	
104										実務家をお願いするのは難しい。						2、3については実施が難しいと思われる。 倫理問題は情報に限ったことではなく、教育全体で考える問題と思う。情報リテラシーの内容は広く深く、学生は基礎的な事柄を把握することが精いっぱいであると思う。情報リテラシー関係授業以外で積極的に情報の活用と実践を教育していく必要がある。卒業等でその到達度がはかられることも可能ではないか。	
105	部分的には取り組んでいる。				ICTの基本的な諸概念自体をまず理解させるべき。特に異存はありません。												
106	大切なことだと思います。	大切なことだと思います。			情報通信技術に加えて、図書館の活用もあるとよいのではないかと思います。	情報通信技術に加えて、図書館の活用もあるとよいのではないかと思います。				特に異存はありません。	特に異存はありません。	特に異存はありません。	特に異存はありません。	特に異存はありません。	特に異存はありません。		
107																	情報リテラシーは卒業するまでに繰り返し発表する機会などを経験して培っていくものと考えている。上記の到達目標と学生のレベルとの隔差が大きく、それを埋めるに足る授業時間を取れない。しかし、他の科目でも授業時間を必要としており、割り当て可能な時間が限られてしまう。
108																	情報リテラシーを育てる体系的なカリキュラムと科目間の連携が難しい。文系の学生に理解しやすい教え方が必要と思う。ケーススタディやプロジェクト型授業を通じて、情報リテラシーの有用性を理解させるような教育の仕組みも必要であろう。
109	重要であり、必要性を感じるが、時間的に余裕がない。									到達度1,2に対する測定方法が不明確	文系の学生に、「モデル化」「シミュレーション」の具体的なイメージを与えるための例が難しい。		文系の学生にイメージを与える例が難しい。				測定方法2のような内容を文系の学生に実施させるのには難しいように見える。
110					基本的には測定方法に賛成だがそのための手間・費用がどうなるかを考えると単純に賛成とばかり言っていられない。3は授業ですでに実施している。					1はすでに一部の授業で実施中							基本的には測定方法に賛成だがそのための手間・費用がどうなるかを考えると単純に賛成とばかり言っていられない 学科の特長から当然現在でも情報リテラシー教育を熱心に行っているが、学生が実際に身につけたかのチェックは不十分であると感じている
111	既に取り組んでいる	発信者の意図のすべてを公教育で「理解」させることには限界がある	到達度1とも関連するが、漠然とした光や影ということであれば、限定された事例から教育することは可能である	法律やマナーを教育することは可能である		ファーストフード的にインターネット上に氾濫する信頼性の低い情報をつまみ食いする学生が増えているのが問題です。むしろじっくりと内容を吟味しようとする精神面の涵養が先です。また、何でも答えがネットにあると考えている学生が増えており、彼らは、ネットを一通り探して答えのない場合に問題解決を諦めます。世の中には答えのない問題までありますから、答えがすぐに見つかると思わせるのはネガティブな側面があります。このように答えにすぐにたどりつくことの弊害を真剣に議論せず、ただ、ICT側のエゴによって情報通信を押し押ししようとするのであれば、将来に大きな汚点を残	これを実現するためには、情報通信技術以外に相当に通じていなければなりませんから、必要とされるのは情報通信技術以外の手厚い教育ということになります				1. は結構ですが、2. は何か他の評価モデルを流用されているのでしょうかか意味がわかりません。知識の習得度について自己評価を行わせるというのは、何の意味があるのでしょうか？自己評価で正しい評価ができればそもそも評価する必要はないです、学生間のピアレビューなど、まるで学生をロボットのように見なしていますが、人間関係があるので、相手の理解度を断罪することなど、相当な相互理解がなければ非現実的です。実務家から評価とは聞かえがよいですが、理解度の低い学生のためにわざわざ実務家を招聘するのはコストに見合いません。総じて、机上の空論と言わざるを得	情報通信技術以前に、それを適用しようとしている現実世界に関する理解が最も重要です。それなしには、いかなる情報通信技術も全く役に立たないです。学生も、そのことこそ最も重視すべきです。正しい考え方としては、情報通信技術が問題を解決してくれているのではなく、情報通信技術によってそれを裏付けたり説明したりする、というのが真の姿です	これは情報通信技術の教育の範疇ではありません	2は情報通信技術の範疇には入りません。そう理解することをしっかりと教えなければ、道具に使われるばかりの人材を作り出してしまいます。愚かなことです	情報リテラシーは現在理系として捉えられているが、どちらかというと体育科目の一つに入れば、道具に使われるばかりの人間を作り出してしまいます。また、法律や社会の仕組みに関する理解、文章の記述力や読解力、そういったことを考えると、文科系の方が近い存在です。たまたま、コンピュータを作る側が理系のために、リテラシーもそのまま理系に入れられているの、それほど根拠もない故習に過ぎないと思います。情報通信は文科系で捉え直す、抜本的な改革が必要と考えます		
112	必要だと思うが、カリキュラムに取り入れる余裕がない	間違った情報を信じてしまうことで、本人だけでなく、他人を巻き込んで被害を拡大してしまうことがあり、当該到達度が満たされることは必要である		他者に配慮した情報発信は、極めて大事である						多様な方法があるので、難しいのでは？	①の観点は良いが、②は難しいのでは？	かなり内容が高度な気がする。基本的なリテラシーに力を入れるべきである	かなり高度である	かなり高度である	かなり高度である		到達目標1については、かなり重要だと思います。出来れば必修にすべきであると思います。到達目標2、3については、必要なことだと思いますが、次の段階だと思います。任意で選択できるようにすると、良いのではないかと思います。上記に記載したのは、内容に賛同できないという意味ではなく、現時点で導入するのは難
113	既に取り組んでいる																到達目標1、2に関しては、情報機器が普及している今となっては、大学ではなく、もっと早い時期に到達させるべきではないかと考える。到達目標3に関しては大学を卒業するもの全員が身につけているべきものとは思わない。情報機器も車と同じで、ふつうの人は安全に使うことができることが情報リテラシー教育ではないかと思う。その意味で今後大学が情報リテラシー教育を担うべきか

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え					
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見		到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見		
114	高等学校の情報と変わらないのではないか。	内容は適当だが、到達度1到達度1到達度1、2、3とあれば、通常は1>3若しくは1<3の順序が付いている印象を受けるので、「副目標1、2、3」のようにしてはどうか	適当	「扱うことができる」というのでは曖昧	2は内容が多すぎるので、さらに分けるべき	賛同する 「基礎的な知識」では、高等学校の情報と変わらないのではないか。	適当	到達目標1の範疇にも思えるが、到達目標2の到達度としてよいか	適当	評価シートは他の到達目標についても同様が必要。	高等学校の情報と変わらないのではないか。	適当	解りやすい良いのではなく、どんなモデル化が良いのか自ら考えられるようになるべき	適当	他の達成目標達成目標と比べると文が冗長で一貫性一貫性が崩れている	情報リテラシーは網羅する範囲が広すぎるが、1科目で展開されることも多いため、1つの到達目標到達目標に複数の項目が入っている。しかし、これは高校の共通教科情報程度の内容が扱えないのではないか。複数科目での展開も想定して、到達目標到達目標の数を倍程度に増やしてはどうか。できれば私情協私情協には、情報リテラシー情報リテラシー情報リテラシーの次期ガイドランガイドランとしてAACUのVALUE Rubricのようなものを整備してもらいたい。		
115	情報技術リテラシーから真の情報リテラシーに移行するためには必須項目であると思うが体系的な学修は困難でCaseStudy程度しか扱う方法がない。科目として独立させるより情報技術リテラシーの中で教コマで扱った方がよいのではないか	発信者の意図を理解するだけでは足りない、意図や印象操作を乗り越えて事実を見抜く目を養うべき。そのためには一次情報を参照するなど多くのことを知っておくべきであると思う	大学で扱う事柄であるか	大学で扱う事柄であるか	これまでの情報リテラシーのものに思える	多くの選択肢を持ってその都度最適なものを選択することはとても大事なことでありと考えます				専門教育に足を踏み込みすぎていると考える。車の運転をするのにエンジンの仕組みを詳しく知る必要があるだろうか。コンピュータや情報技術というのは車と同じで生活に入り込んでおり特別なものではなくて考えています。大学で扱う事ではない	専門教育であれば賛同しますがリテラシー教育としては望ましくないと考えます					理工系の場合、多くの学生は卒業時に求められている情報リテラシー技術を身に付けていると思う。一方で近年のTwitterの騒動など、単なる「しつけ」「常識」がないのだと推測できる。必要なのは技術ではなく、人格形成、他人との協調の仕方などではないかと考えます。大学で扱う事ではない		
116		悪意を持った発信者の場合もあり、どのような場合でも発信者の意図を理解できるか疑問			(2)に関連して、上記1.が可能な疑問	「情報を創り出し」という部分について、本当に可能か疑問				2.の評価方法で、(関係者善悪が合意できる)客観的な到達度測定が可能か疑問					「有益なシステムの在り方」という部分が不明確	3.について、そのようなことを行うことは有益かと思うが、その到達度測定が可能かどうかは疑問	情報リテラシー教育においては、技術的な面のみでなく、倫理面も重要で、教育を通して問題意識を持たせることは必要で、また可能とも思うが、その到達度を客観的に評価(測定)することは容易ではないと思われる	
117	この項目は学部学科を問わず必要な能力と思われる				妥当だと思います					2.について教員間である必要は必ずしもないと考えますが、実務家からの評価は重要だと思います。						情報系の学生にとっては妥当な内容ですが、その他の分野の学生にとっては学問的な内容であるのかは判断できません	本学では共通教育の一環としてとらえ、専門の担当教員を置いて全学的に対応している。さらに情報系の学生には学問の専門科目で、さらに詳しく学習させている	
118	倫理的に面から、情報社会における影に関する認識は特に重要である	賛同するが、教育法や到達度チェックが困難ではない	賛同するが、情報社会の「影」の全体像の把握が難しい	賛同するが、「責任」とは、その具体化が難しい	測定方法1において単に方法を列記するのは、その方法の適否の判断が難しいと思われる					学生にピアレビューのあるべき姿を理解できるか?	賛同するが、情報リテラシーの枠内では目標到達は難しい					実践的問題例を揃えておく必要あり	到達度の測定は、PBL(Problem Based Learning)等を通じて行う必要がある。これはリテラシー科目の範疇ではないかもしれない。	リテラシーの枠内で行うべきことと、その後の科目に委ねることを明確しないと、あまりにも目標を多く設定することは、難しいと思う。カリキュラムの体系化のもとに、リテラシー科目は初歩的であり、専門と云うよりも人格形成に重きをかけた内容に限定すべきと思う。上記の到達目標でいえば、到達目標1と到達目標2はリテラシーの枠内であるが、到達目標3はリテラシーに連携する科目
119	既に取り組んでいる	情報リテラシーの基本到達目標だと思う	情報リテラシーの基本到達目標だと思う	個人差はあるが到達度としては妥当だと思う	妥当だと思う	既に取り組んでいる	情報リテラシーの基本到達目標だと思う			良い方法だと思うが、教員間あるいは実務家からの評価までには時間などの面で無理だと思う	リテラシーのレベルではないと思う	到達目標3の到達度としては妥当だと思う				到達目標3の到達度の測定方法としては妥当だと思う	大学4年間の学習のために必要である情報技術の修得ぐらいのレベルで、演習もう	
120	到達目標としては理解と受入が容易であると感じる。しかし、説明文の前半「発信者の意図を読み解き、情報から知識へ変換できるようにする」は到達目標と無関係のように感じる。	到達目標との関連性が不明解であると感じる。「発信者の意図を理解」は、どのようなことを前提としているのかを全く想像できない	到達度として理解が容易である	到達度として理解が容易である	「発信者の意図を理解」と「情報を識別」は、前提条件を限定できず、解釈によっては全く異なる解釈に繋がるのではないだろうか	説明文では、情報を創り出すことが目標のように読めます。情報リテラシーが情報を検索・収集・整理・分析・表現・伝達・発信することを前提にしているにも拘わらず、根本的な要素となる「情報」自体を創り出してしまおうという受け取れることには問題があるように感じます。	到達度として理解が容易である	到達度として理解が容易である	到達度として理解が容易である	実務家からの評価について言及する必要性が感じられませんが	前半は理解が容易ですが、モデル化とシミュレーションを到達点とするのは、専門性の高い分野に限られるのではないのでしょうか	専門性の高い分野に限られるのではないのでしょうか	専門性の高い分野に限られるのではないのでしょうか	到達度として理解が容易である		一般的な学生の汎用的技能の到達度を測定する手段としては必要と感じる。より専門性の高い学生へ適用することが良いのではないかと	情報リテラシーは道具を使う能力と同義であることから、当該分野の必要性に応じて、教育課題を定め、資源を投入していくべきである	
121	技術やサービスの変化が速く、教育する側のスキルの維持が課題	他人の意図を短絡的に「理解」するのは困難であり危険。「多面的に推測」くらいでは			情報通信技術の進歩は「情報通信技術」-「情報通信技術」を同体化する	概ね賛同するが、安易に頼ると自分の頭で考え検証する能力が衰えない心配	「情報通信技術」-「情報通信手段」の方が適当か?			「教員が」ではなく「教員間」となっているのは、何か意図があるのでしょうか	細かいニュアンスの違いですが「問題解決へ繋がる基礎能力」→「問題解決に繋げる～」。「問題解決を成し遂げる～」の方がしっくりくるように感じます					「モデルを作成」は高度なスキルのように感じるが、どの程度のレベルを求めらるのか?	一般教養レベルの情報リテラシーと、シミュレーションなどの理系教育に特化した情報技術の修得とを切り分けて考えることが必要ではないかと感じました	
122	到達目標はもっと具体的なものであるべきではないか				到達目標が抽象的なため学修方法の例示と測定方法の内容が重複している					仕組みの理解とモデル化シミュレーションとの関連が不明である						2.についてはモデル化とシミュレーションの位置付けが不明	情報通信システムの基本的仕組みを理解させた上で社会的問題(例えば著作権やセキュリティ等)について事例を学ぶことが大事であると考え	
123	賛同するが適切な教材がほしいさらに、情報の信頼性を識別して発信者の意図を読み解くのは、とても困難である	発信者の意図を理解するのはとても困難である			発信者の意図を理解するのはとても難しい					教員間で到達度の評価シートには統一した基準はあるのか? 必要に応じて実務家とあるが、どの様に実施するのか							高度情報化社会が進む中、わざわざ大学生にもなってやる内容なのか? 読み書きそろばんと同じで、小学生からインターネットを使う時代なのに、もっと早い段階で情報リテラシー教育を実施すべきではないのか。道具の使い方を習い必要になれば利用する。道具の使い方を間違えれば危険もある。うまく使えば、イノベーションを起こせるかもしれない。ただそれだけではないのか。情報を科学的に	
124	この通りで結構かと思えます。学部では「情報リテラシー」を「キャリアデザイン1」という初年次必修科目の中に吸収して教えております	この通りで結構かと思えます。	この通りで結構かと思えます。	この通りで結構かと思えます。	具体的事例をいくつか文章で示し、何が問題でどのように対処すべきかを答えさせる方法が良いと思う	学部においてもこの到達目標までは全員が目指すべきかと思えます	これで結構かと思えます	これで結構かと思えます	これで結構かと思えます	これも具体的事例の中で答えさせないと質問として少し厳しいかなと思います	賛同はいたしますが、大学全体としてみれば、この目標に達するのは、例えば理工系のこれに関係する卒業生を手掛ける一部の学生のみではないかと思えます					方法についてはこの通りで良いと思えます	初年次教育の中で教えるべき「大学の生活の中で学んでいくために必要な知識やスキルを身に付けるための教育」というような意味合いでとらえています	
125	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	取り入れていきたい	取り入れていきたい	取り入れていきたい	既に取り組んでいる	取り入れていきたい	既に取り組んでいる	時間的に可能か疑問	一部取り組んでいる	時間的制約の中で教えられるか	取り入れていきたい	eLearningなどを通じてシステム化された評価が必要	リテラシーを専門的に行う組織が必要		

No	到達目標1について					到達目標2について					到達目標3について					リテラシー教育の位置づけ・体制への考え
	到達目標 意見	到達度		測定方法 意見		到達目標 意見	到達度		測定方法 意見		到達目標 意見	到達度		測定方法 意見		
127	常識として授業中に注意喚起する程度									実務家の意味が不明確						現在の情報機器の普及を考えると、到達目標の1の内容は、大学よりは中学生や高校生レベルで習得しておくべきもののような印象を受ける。本学では、1年次でリテラシー科目を設定しているが、到達目標の2、3のような内容は1年間の卒業研究、およびその発表会等を経験することにより、ある程度実践されていると学部での専門教育に必要なリテラシーという点では一定の成果をあげている。
128	既に学部共通科目(必修)で取り組んでいる	学部共通科目と概ね合致している	学部共通科目と概ね合致している	学部共通科目と概ね合致している	学部共通科目において、今後2を確実にやりたい。3は概ね実施している。	既に学部共通科目(選択必修)で取り組んでいる。	学部共通科目と概ね合致している	学部共通科目と概ね合致している	学部共通科目と概ね合致している	1,2と切り離せない内容ではないか	2は具体的に何を行うのかよくわからない。	所属学部の教育内容としては専門的すぎると思われる。				
129	既に取り組んでいる	分かりにくい表現である	取り組んでいる	取り組んでいる	知識を問う評価方法ではない	取り組んでいる	総合的な演習として取り組んでいる	総合的な演習として取り組んでいる	総合的な演習として取り組んでいる	総合的な演習として評価する	進化の速い技術について紹介していくことが難しい	数学的基礎学力が必要である	総合演習として取り組んでいる	できていない	シミュレーションが有効であるが、難しい	情報リテラシー教育が形骸化する危険性があるので、形骸化しないよう意図的見直しが必要である。最低限の攻め(情報活用)と守り(セキュリティ)は必修にすべき
130		国語力、想像力、社会常識の問題であり、情報教育の域を超える			発信者の意図の理解は例示が困難					ビジネス上でのコミュニケーションに限定すべき		基礎知識なしにツールだけで解決するのは危険		どのレベルを念頭においているのか不明		
131	必要性を認識しない教員が多い為、意義を組織として理解されにくい。	これを講義として評価対象とするのは難しい。相対的な要因が多すぎるし、定量的な評価が困難である。	情報だけではなく、法令などの理解も、学生に求める必要がある。		1について、列挙することはできるが、それだけで識別することができるかどうかは疑問である。例えば、Webサイトの信頼性についても、技術的な仕様はあるが、最も大事なものは、利用者の定性的な判断である。これを定量的な到達度として捉えることは評価基準があいまいになると考える。	方針としては、賛同できるが、目標とはいえ、もう少し具体性がないと、定量的な評価が難しい。	実社会(IT利用)を考えた場合、選択肢というものが多いようで、限定されていると思われる。選択ということを到達度にしても、評価ができないと思われる	内容(視点)が多すぎる。単一科目の中には、消化不良になると思う。	セキュリティに関する視点での評価はできると思うが、何をもち、最適なコミュニケーションとするのかの定義がよくわからない。	1は、情報技術に関する知識が必要である。これを教えたのち、それを応用して、2をやるということは、現実的に無理(4年間を考えると別の)。高校の教科内容から、トータル的に構築しないと、内容が多すぎる	モデル化以降は賛同できるが、システムの在り方を考察するという点に関して、2をやるという点は、一般的なスキルとして必要だろうか？	ほとんどが利用者の立場となる学生に対して、ここまで知識として必要なか疑問	ほとんどが利用者の立場となる学生に対して、ここまで知識として必要なか疑問	今回の内容は、多すぎる。情報処理技術者試験(基本以上)の受験が必要となる学生ならまだしも、一般学生に対して、情報システムを提供する側として必要な内容まで学習内容として求める必要があるのだろうか？	情報セキュリティに対して十分な知識と、理解を備えた学生を教育する。これにより、社会人になった時、IT利用の際に、不適切(法的や倫理的)な利用が行われないようにする。	
132	時間的な制約から軽く触れる程度にとどめたい											内容が高度すぎる	解を求めさせるのは高度すぎる	情報通信システムの構築は専門的すぎる	実現性に乏しい	すべてを教育で網羅するのは難しいので、学生が問題に直面したとき自ら学んでいける基本的な知識と姿勢が養われればよいと考。卒業時に満たすべき学士力と捉えた場合、それを保証できるカリキュラムの仕組みは構築できて
133	既に取り組んでいる	学生のレベルを考慮しながら、取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	測定方法2,3については既に取り組んでいる。1については検討したい	授業規模や学生のレベルに合わせてながら、今後計画したい	今後計画したい	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	授業規模にもよるが困難である	初歩的なレベルの内容については既に取り組んでいる	基礎については既に取り組んでいる	実践前のレベルについては既に取り組んでいる	今後検討したい	学生のレベルに合わせて検討したい	学生のレベルに合わせて
134	既に取り組んでいるが、適切な教材を提供することに常に苦慮している。				知識としての理解だけでなく、具体的な操作や技能についての習熟度の測定が必要					コミュニケーションとプレゼンテーション	知識としての理解だけでなく、具体的な操作や技能についての習熟度の測定が必要	「情報システム」の指し示す範囲が明確でない。				知識としての理解だけでなく、具体的な操作や技能についての習熟度の測定が必要
135	これだけ様々な情報がある昨今において、担当教員でさえ掘り出されている到達目標を達成できるかどうか、甚だ疑問です	発信者の側の問題のほうを学習するべきだと思います	「光と影」という表現は一般的なのでしょうか？	もしこの到達目標を採用するのであれば、この到達度あたりが妥当なのではないでしょうか？	何れの方法も評価がとても難しいと思います	「到達目標1」同様、困難を伴う目標だと思います	「適切に選択」することにこだわらなくてもよいと思う	この到達度を「到達目標」にして、それぞれの項目を「到達度」にすればよいのではと思います	最適なコミュニケーションのための情報通信技術の情報活用を考えるべきだと思います	何れの方法も評価がとても難しいと思います	「到達目標1、2」同様、困難を伴う目標だと思います。さらに申し上げます、いづれの到達目標も難解です	もしこの到達目標を採用するのであれば、この到達度あたりが妥当なのではないでしょうか？	情報専門の学部でない学生には困難だと思います	情報専門の学部でない学生には困難だと思います	1は、IPAのITパスポート試験や情報処理技術者試験がより一般的だと思います。2、3は評価がとても難しいと思います	卒業後の活躍の場は学生によって様々であるため、学士力と捉えた場合、情報リテラシー教育は、最低限の情報に関する知識とモラル、基本的な情報処理技術の修得の場と考えています
136	既に取り組んでいるが、学生が理解したかどうか分からない	必要な能力であると思う	必要な能力であると思う	必要な能力であると思う	説明させる、列挙させることは出来たとはいえず、実習として評価が難しくなる	活用できるのはいいと思うが、どのように実習として取り入れるのが難しいと思う	必要だと思う	分析までなら賛同できるが、発信までには含まれてもいいと思う	必要になってから個別に修得すればいいと思う	ソフトウェアの導入が難しく、教員への負担も大きくなると思う	単科大学なので、そこまで必要とは考えられない	単科大学なので、そこまで必要とは考えられない	単科大学なので、そこまで必要とは考えられない	単科大学なので、そこまで必要とは考えられない	あまり必要とは思わない	各講座、病院から教員が集まって実習を運営しているため、教員間の連携も難しく、実習として成り立っているかどうか難しい。今後、学生のニーズや時代にあった内容に変えていくようにしたい
137	必要と思うが、教えられる教員がいなく、著作権は常に意識するよう指導している	必要と思うが、教えられる教員がいなく	必要と思うが、教えられる教員がいなく	必要と思うが、教えられる教員がいなく							学部として取り組む必要性が低い	学部として取り組む必要性が低い	学部として取り組む必要性が低い	学部として取り組む必要性が低い	学部として取り組む必要性が低い	情報リテラシー教育は現代社会において非常に重要である。ガイドラインの見直しについては、案としてはどの項目も妥当と思われるが、実際の授業のプログラムとして運用するためには教員に対する教育がまず必要と考えます。教員は実務上ICTを利用していますが、今後ガイドラインで求められるレベルの教育を学生に行うには教員の意識や知識を高めることが必須です。ただしこうした分野における人的資源が不足しているため、まずはFDの実施を先行させるべきと考えます
138	既に取り組んでいるが、到達度の評価は実施していない	既に取り組んでいるが、学生のレベルが達していない	既に取り組んでいるが、達成度を把握できていない	既に取り組んでいるが、達成度を把握できていない	情報の識別方法までは教えられていない、情報の活用方法における自己責任などについて教えられる教員が少ない	適切な人材と教材がない	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいるが、学生がレベルに達していない	教員間で求められる到達度のレベルの格差もあり、客観性にかけると思われる	医師として求められる情報通信技術と考えられないため	医師に求められる能力として必要性を認めない	到達できるのが理想だが、困難なことが予想される	医師に求められる能力として必要性を認めない	到達度の測定方法の1のみ賛同し、2と3については求めるもの以上のスキルと考えるため	求められる能力としての情報活用能力を身に付けるために、何らかの実践的な教育が必要であると考えます。また、学部の学生に情報リテラシーの必要性を理解した上で教育を施す必要があり、その方策が重要である。そのためには、あらゆる分野、学年にわたり様々な授業や実習において実践を通じて身につけさせると良いと考えます
139	光と影という表現が不明確で分かりにくいので、利点と欠点、あるいは利点と危険性、などのように変更してはいかがでしょうか	行動目標は、行動変容が客観的に評価できなければ、目標が達成できたかどうか分かりません。したがって、「読み解くことができる」という表現を「読み取り、内容を説明できる」というように変更してはいかがでしょうか	「光と影」の意味が不明瞭だと感じます	「情報を扱う」ことが具体的にどのような行動を意味しているのかははっきりしないと思います。情報を受け取る、とか情報を発信することを意味するのでしょうか	こういうことをしてはいけないと知っている、ということと実際にしない習慣が身に付いていることは異なると思います。タバコが良い例です。ですので、「列記すること」ができて上記の到達目標1のレベルを少し落とすとして、「情報社会の光と影を認識し、主体的に判断する」というくらいにしても良いかもしれません	「活用」を「応用」でも良いかと思いますが、また「知」が不明瞭に感じます。「基礎的な」を「基本的な」ではいかがでしょうか	「分析」と「表現」の間に「評価」を加えてみてはいかがでしょうか	「最適」では学生レベルで高すぎる印象を与えますか？カタクナを使用でしょうか	「ピアレビュー」はこの場合、「相互の評価」を意味しますか？カタクナを使用しないほうが良いように思います	「活用」が広い気がするので「応用」ではいかがでしょうか	学部の学生レベルでは、少し目標が高過ぎるよう思います。学部によって異なるのではないのでしょうか	学部の学生レベルでは、少し目標が高過ぎるよう思います。学部によって異なるのではないのでしょうか	このあたりは大学院レベルか？	「コンソーシアム」とはなんですか？	入学時点の学生のレベルがまちまちで、高校までの教育の標準化がなされていないことを感じています。情報リテラシー教育に携わって10年くらいになりますが、その傾向はあまり変わっていないようです。また、卒業時点で求められる情報教育の内容やレベルを、その6年前の1年生の段階で正確に予測することは、技術の発達を考えると常に困難で、課題となっています	
140	著作権やインターネットの危険性について既に取り組んでいる	カリキュラムにないので今後の検討課題である	カリキュラムにないので今後の検討課題である	カリキュラムにないので今後の検討課題である	授業時間が不足しているため今後の検討する	本科生ではなく専攻科生のほうの目標でよいと思う	行っている	行っている	行っている	教員のスキルと人数が足りない	本科の授業では必要ではないと思われる	本科の授業では必要ではないと思われる	本科の授業では必要ではないと思われる	本科の授業では必要ではないと思われる	本科の授業では必要ではないと思われる	倫理的観念が重要である医療職として、情報倫理の重要性を認識させることは必要である。そのためにも教員のスキルアップや授業時間の増加など検討していかねばならない。

No	到達目標1について					到達目標2について					到達目標3について					リテラシー教育の位置づけ・体制への考え	
	到達目標		到達度			到達目標		到達度			到達目標		到達度				
	意見	1の意見	2の意見	3の意見	測定方法 意見	意見	1の意見	2の意見	3の意見	測定方法 意見	意見	1の意見	2の意見	3の意見	測定方法 意見		
141	適切な内容を分かりやすく教育できる教員がいない。また、人件費以外に設備費などに、想像以上の運用経費がかかることを合理化してもらえていないために、必ずしも本質的な教育を十分行っていない。この私情協の指針が参考になると思われます	現在カリキュラムとして与えられた時間では、発信者の意図の理解に十分な時間がかけられない可能性がある。	記述されている内容で十分だと思います。	達成度の確認を私情協のガイドラインに頼らないと、独りよがりな結果になりそうです。	教員個人では、十分な教材(事例など)を用意できない可能性がある。コンテンツライブラリーなどの利用を考えなくてはならない	目標としては十分だと思います	設定された達成度で十分だと思います。	かなり広範な技術(技能)になるため、全ての項目について十分な到達度を確保出来ない可能性がある。	できればですが、“最適”ではなく“最低限の”や“十分”程度ではいけませんでしょうか。	虫のいい希望ですが、できれば、学生に評価を分かりやすく伝えることができる専門家の候補(人材バンク)を教えてください。評価はともすると、評価はとも正確なですが、リテラシー教育が必要となっている学生には理解できないことが多く見受けられ	余分な事ですが、発見以前に“探索”も入れていただけると教育がやりやすくなります。	記述いただいた内容で十分かと思えます	記述いただいた内容で十分かと思えます	記述いただいた内容で十分かと思えます	“標準化された到達度試験”があれば、独りよがりな評価を避けることが可能になると思われます。	本学では、情報環境やシステムを十分に理解できていると言いがたい教員が情報教育を行っているのが現状です。その結果、現在のところ、情報教育は必須な事項ではなく、便利な道具(支援装置)的な理解しか出来ない学生がほとんどなのが現状です。このことは、一教員ではどうしようもない事態となっています。卒業時ではなく、入学時に講義・演習の履修前に全学生を対象に実施すべきと考え	
142			「安全」では漠然としているので「被害・損害」としてはどうか？		共通の理解度テストを実施してはどうか？												
143					発信者の意図の理解の識別については、自身が経験的に検知しているだけで多様な方法を列挙するというは無理があるように思う				「最適なコミュニケーション」の意味がよくわからない		統計データなどを用いた簡単なものしか理解できないと思う		問題解決につながるようなモデル化やシミュレーションは理解能力を超えている		標準化されたものがあれば使われると思う	情報リテラシーの範囲や定義が曖昧で、したがってカリキュラム体系が決まっていなように思う	
144	半期中1コマ～2コマ、小課題、として取り組んでいる	賛同するが、なかなか教えることは難しい	これはSNSのトラブルなどを題材にすると、興味をもって聞いている	なかなか、ここまで難しいのが現状		グループ活動を数回とり入れて試行している	今はツールの進歩が早く、なかなか追いつけない	3～4年のゼミ、卒論で必須であると説明すると前向きに取り組む	賛同する、と〇したが「最適なコミュニケーション」とは、いつも違う	なかなか評価シートなどのシェアは難しい	半期15回の中には、なかなか取り込めない	半期15回の中には、なかなか取り込めない	半期15回の中には、なかなか取り込めない	半期15回の中には、なかなか取り込めない	すみません、そこまで想像が追いつきません	各大学で情報リテラシー教育を推進するには、それにかかりきりになり、エンジンとなれる専任教員が、組織が必要だが、委員会方式では取り組みは難しい。又、学部毎に行うか、全学共通で行うかも、要検討だと思う	
145	既に取り組んでいる	到達度1①には「インターネット上には…」となっているが、情報の信頼性の確認や発信者の意図の理解は、インターネット上の情報に限らず、既存のメディアの情報に対しても重要であると思われます。			測定方法2と3の違いが分かりにくいように思います。また、到達度3と測定方法3が対応していないように思います。	到達度の中には通信を伴わない内容も多く含まれることから、情報通信技術よりは、単に情報技術でもよいのではないのでしょうか。										卒業までに、学生に修得しておいて欲しい内容は増える一方で、情報リテラシー科目としてだけでなく、他の一般教育科目や専門科目でも部分的に取り入れる情報リテラシー的な内容を取り込んでいくことも、今後必要ではないかと考えている。	
146	本学では学部間共通の情報関係科目で取り扱う内容をミニマムクワイアメントとして担当教員に提示している。目標1は既におおよそ含まれている							到達度2のスキルは特に重要だと思います。1～2年で学部共通でぜひ修得してほしい内容です		自己評価、ピアレビュー、実務家からのフィードバックは特に賛成です。	モデル化とシミュレーションは、専門科目との連携が必要になります。	到達度1は、到達度2、3とレベルが違うと思います。到達度1の内容も必要とは思いますが、高校で扱う内容も含まれており、少し違和感を感じます				モデル化とシミュレーションは、専門科目との連携が必要だと思います。標準化された到達度試験は、難しいのではないのでしょうか。	本学では、学部間共通科目で、情報関係科目を展開している。今後は、取り扱う授業内容の定期的な見直し、応用階層の科目の充実、学部カリキュラムにおける情報関係科目の位置づけの明確化などが課題である
147	ここでのテーマは、情報化社会特有の市民・社会人・職業人モラル、コミュニケーション能力かと思うが、それらを扱うためには先ず、情報化社会とはどういう社会かということの理解が必要である。従って、到達度1、2、3の前に、情報化社会とはどういう社会か、情報技術とはどういうもので、それが社会でどう使われ、それによって社会がどう変化したかの理解という到達度を置く必要があるように思う	発信者の意図の理解を学修する方法が難しい			1. について、適切な教材や事例集の整備が必要かと思う	目標がよくわからない。ここで取り上げているのは、例えば、小・中・高校の社会科で「自分の住む町の姿を知れ」といった課題が出され、班に分かれて取り組むという授業がありますが、このような場面で情報化社会という社会が持っている機能を活用できるようになる、というようなことでしょうか。そうだとしたら、このような授業では中・高校でもWebでの情報収集、表計算ソフト等でのデータ集計・分析、ワープロソフトやプレゼンソフトでの発表など情報技術活用は行っていると思われるので、高卒で求められるレベルと学士で求められるレベルとどう違うかなければならないのか、明確にすることが先ず				学生力として求められるレベルがあいまいなため、到達度、測定方法も良く分からない。	(二つに分けたほうが良いように思う。例えば、到達目標3-1「情報通信技術の仕組みを理解する」、到達目標3-2「モデル化とシミュレーションを課題発見や問題解決に活用できる				実践的な問題解決での活用で、専門分野授業の中でしか取り組めない	情報科目授業だけでなく、様々な授業での実践を通して学修していく内容もあり、各授業での到達度の設定や測定についてどうしてよいかわからない	情報リテラシーは、初年度教育での情報授業だけでなく、様々な既設授業での情報活用を通して学修してゆく必要がある。そのためには、既設授業での情報活用を促進するための体制-既設授業でも活用可能な情報環境整備体制、支援体制などが必要である。また、既設授業シラバスに情報活用内容を記述させるといったシラバス作成ガイドラインも必要かもしれない
148	光と影という表現は別の表現に置き換えてもよい、例：メリット・デメリット			情報を扱うという表現が分かりづらいため													
149	学生の情報利用実態や傾向の把握が前提となる	フィルタリングのツールの併用なども必要	グループでの情報の交換は有効	SNS利用の際に特に意識してもらいたい	有効な事例については想起しにくい。何らかの導きが必要であろう	教員のリテラシーを支援することが重要な段階となる	学生が安価に使用できる資源の整備が必要	コスト上できるだけ限定された範囲のソフトウェアで学習させる工夫も必要であろう	評価基準の検討が必要	技術内容の変動が激しいので、統計的な確保に検討が必要	技術的な仕組みだけでなく、人や技術的知識一辺倒に過ぎないだろうか	統計学利用の可能性を検討してもらいたい	技術的知識に偏らない、総合的な思考表現が必要	専門ゼミなどで学問のカリキュラムと連動させないと、独立した講義授業だけでは達成が難しいのではなかろうか。内容も技術的知識に偏っている印象がある	現状のリテラシー教育は、テクノロジー利用レベルに終始していて、情報を使うための生きた知識や、学習内容の効果的なアウトプットを出すような表現技法などになかなか結び付いてこない。教える側にもまだテクノロジーについての専門知識が過剰に意識されるあまり、より身近な情報の整理やプレゼンテーション表現を考える場面などに結びついてない。情報テクノロジーそのものについては、より多様な教員が関与できるようにインターフェースを、利用者側に金銭・労力のコストを極力かけない形で整備しつつ、教育場面においては、特に文系の教員により、論理思考や統計的な情報の読み取り方など、専門知識にも関連した形で身近に教育できる形で展開できないと、教員の方も自らの教育課題としてなかなか		
150	オリエンテーションで話す程度だが、もっと訴えていくべき	重要だがなかなか理解しにくい			到達度の測定方法の3は、若干抽象的で難しそう	多くの教員がゼミ等ですでに実践しているのではないのか		学生は慣れているので、むしろコミュニケーション手段が情報通信機器に限定されないよう注意すべき。また、情報通信機器を利用したコミュニケーションが授業等の主たる目的にならないように注意すべき。	例えばゼミでは、作り出した「知」を評価の対象としてきたが、それに加えてソフトの特性の説明やピアレビューを評価に加えるということになる。評価に要する時間が足りなさそう	個人的には賛同できるが、人文科学系の教員にとってモデル化やシミュレーションとは疎遠な分野もあるため、「押しつけるな」と言われそう					情報リテラシーといってもあまりに広範で、語学と同様にそれを受容する個人差も大きいものがある。最低限身につけさせることを設定した上で、付加的なことは積み上げ式でモジュール化し、学生に選択させると良いのではないかと。モジュール化はガイドライン的な程度のもので、該当する科目の担当者に手を挙げてもらう・組み入れてもらうなど。		

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え				
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見		到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	
151	「加害者にも被害者にもならないように」という趣旨はいいと思います	「発信者としての心構え」の話があってもいいと思います			「事例」をきちんとアップデートできる仕組みが必要だと思います	「目標」と「説明文」が対応していない(「作り出し…発信」の部分が「目標」にないような気がします)										リテラシー教育は、個別の科目でのみ扱えばよいというものではなく、一見無関係に見える科目(たとえば、社会科学系の調査・実証でも必要)等でも取り扱えるよう、体系的なカリキュラム作りが必要だと考えます	
152	実際に影の部分について理解させるための実習をどの様に実施するかが難しいと思う。	事例が実際に存在することが重用だが、現実的には難しいと考える。	ケーススタディさせた後、どの様に評価をするのか、客観的な基準が必要だと思う。(教員の主観で変わってはいけない為)	ケーススタディさせた後、どの様に評価をするのか、客観的な基準が必要だと思う。(教員の主観で変わってはいけない為)	教員が想定しない事例もあろうため、その場合の測定方法を考える必要がある	情報通信技術だけにこだわるのではなく、広い意味での情報の活用を教えるべきである	情報通信技術以外の情報の活用についても教えるべきである。	特になし	到達度1に記述したものと同様	説明させるだけでなく、実際の実習や実務を含むべきである。	特になし	特になし	モデルの構築が難しいと考えられる。ある程度の統一したものを用意すべきと思う。	特になし	特になし	情報リテラシーの「情報」の範囲が年々拡大しており、どの分野のどの部分まで教えるべきか難しい部分がある。また中学、高校までに教えるべき範囲を技術でなく、モラルとセキュリティ中心として、文学では主に技術を中心にするという考えもあると思う。	
153	取組みはあると思う。	特になし。			学生に与えすぎるのはよくないと思う。	どの大学でも取り組んでいることと思う。	特になし			個別に評価をするならば、人的資源が必要。	評価方法を考えさせること	特になし。	特になし。			本学では十分な取り組みが行われているように思う。	
154	最近facebookやLINGの普及でますます人々の生活に浸透してきた携帯端末多様化、特に利用者の若年代やその便利さから社会的弱者の利用者も増えた。犯罪の温床になっていくことが予想できるし、既にその前兆が見られるようになり、事件も発生した。「目標1」はききんの課題であり、全ての人が持つべき知識と意識だと考える。	インターネット上に広がる「情報」は偏り性に欠け、自由な反面、判別する力が要求される。悪意なものもあることを意識し、流されないように気を付けるべきだ。	情報の利用は有益に働く反面、危険があることも重視すべきだ。自分を守り、危険を避け、対策をこうじられるようになるべきだ。	以上2点は自分が善人という前提で考えた場合だ。いうまでもなく、最初から自分は何をしていい、何をすべきかはだめを明白に知っておくこと、そして、マナーを守ることが大切だ。	1と3は偏っており、焦点が絞っていないので、測定方法にすると広めすぎてしまし、収束しなくなる恐れがある。2は1と3も含んだ考察ができるため、様々な測定のための問題設定がしやすい。	これは目標1の3に共通するもので、その範囲を越えれば、リテラシーの範囲もはみ出してしまいます。	身に付けると役に立つ	身に付けると役に立つ	身に付けると役に立つ	問題解決が目的なら、1より2が重視されるべきだと考える。実務能力の確認になります。	リテラシーとしては専門的な内容になっていて、不適切だと考える。	専門分野になっている。	専門分野になっている。	一般論として情報システムは社会の中でどうあるべきかを考えて見るのは良いことだ。	1と2は反対。3はあっても良いと思うので、それについての判定なら良いでしょう。	情報利用者としての立場を守り、必要な常識と基本的な対処方法が必要。	
155																学生のレベルが達していない。	情報リテラシー教育では、レポートの作成などに必要なWordやExcelを使えるようになることと、自分の考えをまとめて伝えるためにPowerPointを使えるようにすることが最低レベルと位置付けている。
156										1のみでよい						外部評価とは何か？必要であるが外部評価等の実行が困難である。	
157	既に取り組んでいる。	必須事項である。	必須事項である。	大学教育において求められるべき目標である。		既に取り組んでいる。					計画検討中。						
158					測定と言うがあいまいである				1とのちがいが不明確	測定があいまい							
159	内容は賛同できるが適切に評価が難しいように思う。また「光と影」のような文学的表現が適切ではない(曖昧すぎる)と感じる	到達の「度合い」は測る方法があるのか疑問である	「光と影」とは何かかわからない。	到達の「度合い」は測るのが難しいと思う	多様な方法や事例は、我々が参考にできるサンプルがあると良い	「知」の形成や開発、とは何か？が学生(特に1年制)が理解できるか？				2を行う上での評価基準が必要と考える。(何を指すべきか？など)						測定方法が比較的具体的になっており、良いと思う。	情報リテラシーが「パソコンソフトの使い方」になっており、「情報の扱い方」としてのリテラシーへの認識が低いと感じる。
160	賛成ですが、陰の部分に関して、学生の意識は極めて低い。	ほかに十分な日本語力や読解力が必要	理解していても、意識やモラル、秩序が重要	倫理観を養う必要があると思う	メール、web、ブログ、などを例に考えさせればわかりやすいと思う	情報発信して相互に連携しようという機会を体験させるのは良いと思う	賛成ですが、具体的事例が幾つかほしい	賛成ですが、具体的事例が幾つかほしい	賛成ですが、具体的事例が幾つかほしい	ルーブリックに基づく評価が適用できないか、検討してみてもよいと思う	賛成ですが、具体的事例が幾つかほしい	本学科の「コンピュータ工学」に含まれると思う	賛成ですが、具体的事例が幾つかほしい	賛成ですが、具体的事例が幾つかほしい	賛成ですが、具体的事例が幾つかほしい	情報リテラシー教育は、初年度教育における極めて初歩的なITC活用のための学修と捉えており、まだまだ十分なものではない。具体的には、関数電卓の使用法、MicrosoftのOffice関連アプリケーションの使用法、メーラーの使用法、それとちよとした情報社会の陰の部分やモラルの問題、セキュリティ問題などである	
161	まさに正論であり、今後どのように教授すべきか学内で議論を深めたい	初等・中等教育における国語力の底上げも必要である	物事の一面だけ捉えるのではなく、多方面から捉え俯瞰する能力を養う必要があると考える	初等・中等教育における倫理・道徳の底上げも必要である	正攻法であり、実現できたら素晴らしい	ここまでできたら素晴らしいが、本学ではやや重いと思われる	実務において必要な能力と考える	総合力ともいうべき様々な能力が要求されるので、下位校の低学年の学生にとっては非常に厳しい要求と考えられる。	最善なコミュニケーションという表現は改めた方がよいように感じる	2の実務家からの評価は不要と考える。	内容が専門的で全ての学生に必要とは思えない。					1年次に共通して学ぶ共通基盤科目に位置づけられており、PCやアプリケーションソフトの使い方を中心に主眼が置かれているが、社会の動向を考えるとセキュリティや倫理面について充実させる必要があるように感じる。	
162																今回の【到達目標1】に相当する部分は、本来大学入学以前の高専生レベル、できれば義務教育の間に行うべき内容だと考えています。昨今の情報通信技術の急激な発達で、大学生になる前に不適切な情報発信などによる被害に遭うケースがあるため、もっと低学年で学習できるように、改革が必要だと考えています。「情報リテラシー」という括りでは、【到達目標1】相当の内容や、各種ソフトウェアの使用法などあまり踏み込んだところまで実施できないと考えています。例えば本学のような理工学系の大学の場合、【到達目標2～3】は実験のレポートやゼミ、卒業研究情報部門だけの取組では解決できない問題。他分野と連携が必要。リテラシーはPCの操作やソフトウェアの使い方には偏注がちであるが、現代のネット社会に鑑みて、人と人とのコミュニケーションの道具であることを再認識させるようなカリキュラム体制が必要に	
163	全体の方針としては良いと考えます。	テーマや「ステマ」などの不確実な情報を適切に見極める力は、今後より重要になると考えています。	基本的には賛同しますが、この文面では「安全」という言葉の意図するところが不明確だと思います。	学生によるFacebookやTwitterなどの炎上事例が多く報道されており、「情報発信」に対する責任の考え方は重要だと考えます。	理想としては全て行いたいですが、学生の理解度や、授業・演習にかけられる時間などを考慮すると、【目標1】としては少しハードルが高いと考えます。	全体的には賛成ですが、「知の形成」という以前に、まずは「知的活動とは何か」を学生に把握させる段階が必要だと考えます。(例)知的財産に関する扱いなど	「情報通信技術」に限定しているように読めます。図書館の利用や掲示物などの、「オフラインの活用」も選択肢に含むべきだと考えます。	基本的には賛同ですが、1つの到達度にまとめるには少し内容が多すぎると思います。「表現～発信」は別項目にしてはどうでしょうか。	この文面の「コミュニケーション」は、情報表現～発信、のプレゼンテーションのことでしょうか。少し意図が読み取りにくいと思います。学生は「コミュニケーション」とは、友人との話などをイメージするようです。	学生同士のピアレビューは良いと思いますが、それ以上となると負担が大きすぎると考えます。	情報系の学生であれば当然ですが、その他の学生についても、だまされないためにコンピュータの基礎知識は重要だと考えています。	理想ですが、授業・演習では到達は難しいと考えます。	「有益なシステムのあり方」という文面の意図があまり伝わらないと思います。セキュリティ対策などについてみてはどうでしょうか。			今回の【到達目標1】に相当する部分は、本来大学入学以前の高専生レベル、できれば義務教育の間に行うべき内容だと考えています。昨今の情報通信技術の急激な発達で、大学生になる前に不適切な情報発信などによる被害に遭うケースがあるため、もっと低学年で学習できるように、改革が必要だと考えています。「情報リテラシー」という括りでは、【到達目標1】相当の内容や、各種ソフトウェアの使用法などあまり踏み込んだところまで実施できないと考えています。例えば本学のような理工学系の大学の場合、【到達目標2～3】は実験のレポートやゼミ、卒業研究情報部門だけの取組では解決できない問題。他分野と連携が必要。リテラシーはPCの操作やソフトウェアの使い方には偏注がちであるが、現代のネット社会に鑑みて、人と人とのコミュニケーションの道具であることを再認識させるようなカリキュラム体制が必要に	
164	既に取り組んでいる	賛同するが、評価方法は難しそう															
165																	

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え					
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見		到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見		
166	実習・演習が必要になるが、カリキュラムの中でそのための余裕がない	そのようなメタレベルの読解ができる学生は当学部には少ないと思われる	多くの学生は危険な行動を取らないと思われるが、自覚的にそうしているとは考えられない		測定する機会がない	当学部の学生では、半数程度はこの目標をある程度達成できると思われるが、大多数ではない	ネットへの依存度が高い				これについては、私の担当講義で行っているが、大多数の学生について行われているとはいえない。1については測定する機会がない	モデルの概念自体の理解度が低い	学習の機会が確保されていない	モデルという概念自体への理解度が低い	学習の機会が確保されていない	測定する機会がない	全般的に、当学部のカリキュラムでここで要求されている情報リテラシーの獲得は難しい状況である	
167	既設科目で取り上げているが十分ではない											賛同するがリテラシーの範囲内では難しい				既に到達度試験を実施しており今後については様々な方法を含めて検討したい	情報を専門とする学系に所属しておりリテラシー教育として行うべきかさらに検討したい	
168	すでに取り組んでいる	情報の取捨選択ができる	セキュリティが重要	個人情報の扱いなど														
169	説明文を含めて到達目標としては適切な記述だと思います。				「1.～情報を識別するための多様な方法～」という記述は、分かりにくいと思います。「2.～特質～」は、あまり言葉として使わないように思います。「3.～利点と考慮すべき危険～」という記述は、到達度3の「他者に配慮して」という主旨に、直接結びつくものでもないように思います。						モデル化やシミュレーションを用いた手法を学生レベルで必須とするのは、学力から考えて難しい気もします。大学のカリキュラムで科目として実現するまでに、ギャップがあるように思います。						ソフト操作などのスキル養成と、倫理的な問題は、時間的にも一つの科目で扱いつらいので別科目としている。	
170	賛同するが適切な教材の作成・入手が難しい				方法としては理解できるか、評価基準をどう持たせるか？	もともと情報通信技術は、そのためのツールであり環境であると考えている											個人のスキル差も大きいので、知識・スキルをある程度持っている学生をもっと引き上げるようなカリキュラムが不足している。また全学生に対する情報モラル教育を充実させるべきである。	
171	既に取り組んでいる					部分的であるが、既に取り組んでいる。					部分的であるが、既に取り組んでいる。2番目の項目は、今後計画したいが、実施の経験が積むことが必要かと思われる	一部取り組んでいる。	一部取り組んでいる。		今後計画していきたい。	今後計画していきたい。	必要なことではあるが、学部として必ずしも必要ない。	本学では10年以上にわたって、入学時から携帯PCを持たせて、リテラシー教育に力を入れてきた。近年では情報リテラシー科目と並行しては初年次ゼミで実践的な情報リテラシーの教育を実施している。また、「情報モラル」の科目などで具体的を挙げて、実践的な情報リテラシー教育にも取り組んでいる。今後は科目間の到達目標の整理とそれを保証するカリキュラムの仕組みを検討していかなければならない。また、リテラシー教育の実施は、あらゆる分野の授業における学修活動の実践を通じて身に付けさせるため、これまで以上に教員のFD研修で取り上げていくこと
172	既に講義に取り入れている。ただし、効果を高めるには更なる学修時間と年月が必要と考える	国語教育を運動する必要あり	倫理学、社会学とのリンクが必要		具体的内容、進行については価値観による困難さがあると思われる						個別ソフトの特性についてあまり詳しい内容は不要では(対応しきれない)	担当教員の確保が困難					評価軸は学部等、特性によって大きく異なるため標準化はそぐわない	情報の正しい理解と活用を歯科医としての業務や研究に役立てることのできる教育を目的としている
173	光と影をもう少しわかりやすい表現にならないか		光と影がもう少しわかりやすくないか		情報を識別するための多様な方法と何かな	…ができるための基礎的な…ではないか？			最適なは、適切な程度で良い		自己評価、学生間のレビューは不要	モデル化とシミュレーションの意味が不明	科学的に捉えるが良い	モデル化とシミュレーションの意味がわからない		難しすぎる	情報リテラシー教育が大学でしか行われないものか悩んでいる。学術的な内容の情報処理を通じてそこに必要なものを学べばよいのではなからうか。情報社会そのものについてわざわざ大学で学ばせる必要はないのではないかと悩んでいる。初年次教育として情報リテラシー教育を行っているが、それがその後の学修に活かされていないのが最大の課題である。	
174	「光と影」を「長所と短所」に書き換えた方が良い		「光と影」→「長所と短所」															
175	取り組んでいる、教材開発等																	
176	情報リテラシー教育科目を直接担当していないが、担当する科目の中で情報の信頼性が重要であることについて、情報検索時にその根拠とすべき要因等について教えている。	発信者の意図を読み取る力は必要である。	情報社会の光と影をよく理解し行動しなければ、自己責任となってわが身に降りかかる危険に適切に対応できないので、非常に大事な要素である。	社会生活を送る上で、必要不可欠である。	具体的な事例を提示しながら、グループワークで意見交換できるようにするとよいと思われる。	現代社会では必要不可欠な能力であるので、修得させることは必須である。	現代社会では必要不可欠な能力であるので、修得させることは必須である。				1, 2共に測定方法として適切と思う。	適切なモデル化やシミュレーションを行うことで、理解を深められると思われる。	文系の学生には、具体的なシミュレーションを工夫し、修得させることが必要であろう。	理解しやすいモデル化と適切なシミュレーションを工夫して修得させることであろう。	グループディスカッション等を通じて理解させると良いであろう。	到達度試験による確認と同時に、多角的に真に理解しているかどうかを確認できる工夫が必要であろう。	現代社会では、小学生でも携帯を使用したり、インターネットで情報を探したりする。したがって、小学生から情報リテラシー教育における情報社会の光と影については教育していかなければならない。大学のレベルでの情報リテラシー教育は、その技術のみならず、1年次の早い段階で学生の認識レベルを再確認した上で、さらに高度な情報リテラシー教育を深めていくようなカリキュラムを段階的に導入して、大学として組織的に取り組む必要があると思	
177	すでに取り組んでいる				2については、実施方法を良く考慮して行う必要がある													
178	情報化社会に裏と表があると言うよりは、ネットワークの一般人、さらには児童への普及によって、「社会の表と裏」の両方がネットワークに乗ってくるようになったと理解しています。オフラインで違法なことは、原則としてオンラインでも違法です。今まで以上に児童を含む若い人達に、早期に著作権、刑法等の法制度を教える必要があると思、実践しています	コミュニケーションの大部分を占めるノンバーバルコミュニケーションが取捨されるネットワーク上のコミュニケーションの特徴は、スマホの普及と共に、むしろ早くより多く伝える仕組みが必要であると考えています	法制度自体をより早い時期から教えることの必要性は別として、ネットワーク上で生じている事象を、教育ではなく情報伝達として、より早くより多く伝える仕組みが必要であると考えています	他者への配慮(思いやり)があれば、そもそも問題は生じないようにも思えます。社会の一員としての責任を理解するためには、社会の構造を理解し、そこにどのような責任が生じるかを自ら決めることができるようになります。そのためには、法律・宗教・情報その他の専門家の協力が必要になるよう思えます	善意の発信者のすれ違いと、犯罪者等の悪意の発生は区別して論じ、情報伝達する方がよいように思います	インターネット自身が専門家の意見に容易にアクセスできる場所ですが、「協働して」これを行うためには、電子会議室等での議論の経験を通じた慣れが必要になると思われます。その際、自主性を育てるために可能な限り教員が関与しないことが求められる	当然のことと思います	当然のことと思います	できれば素晴らしいことと思います		ここまで求めると、ITの専門家養成になりそうにも思えます。また、SMTPのメールだけの時代からLINEに移っている様に技術の変遷は非常に早く、個々の技術に過度に捕らわれすぎないことに留意する必要があります	コミュニケーションの新しい手段であるネットワークと、モデル化及びシミュレーションの関係がよく理解できません。ネットワーク自体のモデル化とシミュレーションということでしょうか？それともネットワークを利用したビジネスモデル、または、社会システムの構築という意味でしょうか？前者であれば深い専門知識、後者であればさらに社会の仕組みに対する深い洞察と変化に対するセンスも必要になりそうです。いずれにせよ、一つの科目でなすには相応に厳しそうですね	特にありません	特にありません	昨今のITU(国際電気通信連合)とインターネットの関係等、面白そうな問題ですね	標準化された試験ができるとその対応のみの勉強で柔軟性が失われそうで、悩ましいところです。ウェブ上でオープンにして評価してもらおう形は構築できないでしょうか？	年配の教員が退職してコンピュータリテラシーがある程度分かった教員だけになり、教育活動に対する教員の評価方法が確定するまで大学での情報リテラシー教育は難しいと痛感しています	

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え			
	到達目標 意見	到達度			測定方法 意見	到達目標 意見	到達度			測定方法 意見	到達目標 意見	到達度			測定方法 意見	
179	時間的余裕が少ないが、なるべく授業に盛り込みたいと考えている	妥当です			測定方法は良いが、学科としては、それだけの時間が割けない	実験科目や卒業研究等の中で身に付くことを期待している	妥当です			研究発表や卒業研究の発表を通して評価できると考える	一般論としては賛同できるが、我々の学部・学科はそこまで考えていない	情報系学部なら妥当と思う			賛同はできるが、もはや情報リテラシーの枠を出ているように思える	学部それぞれが独自に情報リテラシー教育を行っているので、まず、学部横断的に情報リテラシー教育を議論する仕組みが必要である。その上で、FDなりを実施する中で、教員の共通認識を作り、人間形成を含む情報倫理教育を実施する必要があると考える。
180	例えば「他者の権利の尊重」「事故の被害防止」の部分について良いテキスト等がない	賛同するが「光と陰」という表現が適切か			広域的な災害発生時の「通信」について加えるべき	その具体的な事例を知り、内容のまとめを行うなど	技術的な側面を迅速に学習・評価に反映させる必要がある。例えばPUSH送信は緊急時連絡等にとって極めて有用なものだが、一対一の通信では人間関係のトラブルの原因にもなりやすい、といったような			ソフトウェアの使い方の「説明」は意味がないと思われる	「シミュレーション」という手法がこの手の学習内容になじむものなかがわかりにくい。実際に自分が使っている通信手段の理解から始めるべき	「データ」とは何か、また、それがなぜデジタル化できるのか、そのメリットを知ることは極めて有益	上で書いたとおり「シミュレーション」はわかりにくい	例えば、311を考えると「通信」が有益なものか直ちに理解される	1が教員にとって最も利便性が高く、広く「共通尺度」とすることができる。とりわけこの概念は、我が国の災害対応を今後どうするか、といった問題にとっても重要である	確かに通信(IP通信)には、様々な「光と陰」がある。しかし、地震・津波・豪雨といった自然災害に「しなやかに」対応するためには、この通信をいかに上手に使い、自らの命を守る、という視点をあらゆる機会をとらえて国民に教育すべきである。この視点を情報教育に加えることで、新たな情報教育のそのもの内容の精査、さらには、評価軸の形成が可能になると思われる。学生が日常使っている情報ツールが規模災害発生時に自身・家族・地域等の命を守るツールなり得ることリアルなイメージを持ち、その具体的な事例から出発すべきであり、それは「シミュレーション」の発想とは根本的に異なっている
181	情報モラルにつながる基本的なことである。すでに取り組んでいる	すでに取り組んでいる	まだ十分ではない		これからのキーワードは協働であり、建設的妥協点に見つけ方が重要		すでに取り組んでいる	すでに取り組んでいる	PBLをベースとして具体的取り組みが必要	具体例が必要	モデル化は今後社会に出る上で必要であり、独自性、創造性が要求される	基本的な理解と言うことではOK	これは基本的な姿勢ではないか	ここまでは必要ないのでは	基本的なことは決めてもよいが、概略にして具体的は各大学で	スキルのみの獲得ではなく、他の講義との関連のなかで意味のある活動とすべき、現実的な問題としてインフラとして1人1台のPCが配布されていない。しかしスマホは普及しており、それらをベースとしてもよいと考える
182	既に取り組んでいるところと今後取り組まなければならないことがある	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいるところと今後取り組まなければならないことがある	今後取り組まなければならないことがある	既に取り組んでいるところと今後取り組まなければならないことがある	既に取り組んでいるところと今後取り組まなければならないことがある	既に取り組んでいるところと今後取り組まなければならないことがある	既に取り組んでいるところと今後取り組まなければならないことがある	カリキュラムの上で時間的余裕がない	情報リテラシーを身につけるという観点からの必要性はあまりない	情報リテラシーを身につけるという観点からの必要性はあまりない	情報リテラシーを身につけるという観点からの必要性はあまりない	情報リテラシーを身につけるという観点からの必要性はあまりない	各大学や組織の情報システムの構成や運用に依存させるほうがよい	基本的な情報リテラシーは初等中等教育においてないし家庭や日常生活において培われるはずのものになっていくことが望ましく、大学の情報リテラシーはその大学や組織の情報システムに対するリテラシー教育が過半となるようにすることで、その組織や大学での他の授業や実習や研究などでの円滑な情報処理および情報の取り扱いができることを目指すのがよい。その意味では、【到達目標3】については賛同していることが適切であろうと思われるが、現時点では、まだその機が熟して本学では、情報基礎教育研究センターがリテラシー教育を担当する。今学で実施する場合には、当センターの様な学部的部署が必要であろう。
183				影の部分について、以外と理解度が低いと考えられるので、この部分に対する教育は必要。	最近もアルバイト先の画像アップが問題となっている。原因は情報の取扱いが不適切な為。	列挙するほどの知識ボリュームが習得できるかは疑問に思う。ケーススタディによる判断テストの方が現実的ではないか。	現在行われている情報リテラシー教育の内容なので、今後必要とされる。		メールやSNSの利用マナーなどを教育する必要はある。	到達度2については、利用技術の習得レベルを具体的な課題内容で示した方がよいのではないかと。	モデル化とシミュレーションを情報リテラシー教育として扱う事が出来るのか疑問に思う。	論理的思考力を養うのは良い事ですが、全員に行えるかどうか疑問です。				
184	H25年度より情報リテラシー科目の授業内容に取り入れている。	情報の真偽とは別に発信者の意図を見抜いて判断し行動できることは重要であると考え	便利・快適と表裏一体であることを具体例を通して理解させたいものである	どのような情報の扱いがどのように他者に影響を与えるかの順序を理解させることが重要	情報を「識別」するとはどのようなことか？この文面では分からない。真偽で？話のカテゴリーで？それとも発信者の属性で？など	趣旨には賛同するが、本文書において「情報通信技術」の中にある「通信」の役割が不明である。単に「情報技術」としていいのではないかと。「通信技術」は「伝送技術」と同義で情報の意味や価値とは無関係と思うが如何？Communicationを強調したいなら情報共有技術、または情報コミュニケーション技術ともいうべきではないか？	到達度1のレベルなら、「有効かつ利用可能な技術を見いだせる」でいいのではないかと？	分析・表現の間に「加工」が、また最後に「共有」があっていいのでは？	情報通信技術の仕組みを理解すること、モデル化・シミュレーションとの関連が見出せない。モデル化・シミュレーションは情報技術とは独立した概念であろう。				ひとつの応用として、別立ての到達目標とするべきでは。	2項は別立て	IT技術リテラシーは工学系の学生として当然身につけていなければならないと考えている。しかし、モデル化やシミュレーションはITリテラシーで扱う以前に、分野により対象により異なる方法論・技術が使われるのであるから、本題のITリテラシー教育では取り扱うのは適切ではないか。IT技術・道具の特性、使い方などの知識・実践力に重点を置くべきと考えている。	
185				光と影を理解はして欲しいが、到達度としては、光の部分のみで良いと思えます							情報リテラシーとしては、発展的な内容すぎると感じました。					
186	是非身に付けてほしい。事例研究が効果的と思うが、現状教材も学修時間も不足。	ケーススタディが重要。モラルやマナーといった現代的な道徳面の教育も大切。一つの情報でも多角的な情報収集で事実認識判断する行動力を強調して欲しい。	特になし	伝達ゲーム、途中で情報変化・突然異変するという体験学習が重要。情報発信・仲介時の責任意識を醸成すること。		「主体的に情報を創り出し」の主体的は意図曖昧になる。協働しての行動の中とすれば誤解が生じる。「情報を作り出すことに責任を持つて行動」が分かるような(到達目標としての)文面にされてはどうか。	特になし		2項の「教員間で～」とある。複数の教員は衝突する。分野(専門)が異なるが、何も伝わらない。評価シートをイメージできない。評価項目を具体的に記入したテンプレートを提示して欲しい。またはサンプルを。						新しいシステム提案の意図なら、プロトタイプも加える。学生に対する教育なので、プロトタイプ製作の位置づけは適切と思う。一方、現状システム改善の意図なら、リバーエンジニアリングでモデル化→再構築もありうる。	上述のように、達成目標との差異が分かりませんが、どの程度か、と、あるいはB回答。1項の「標準化された到達度試験」とは、どのようなものか？公開されていたらご教授ください。情報リテラシー(各分野の学士)とITC専門分野(IT系の学士)で情報活用能力についての境界を考えると、ICTセンター部門の教員・スタッフの必要性は益々、高まると考えられる。JUICEには、ぜひともケーススタディを含めた教材の充実をお願いする。
187	情報の倫理は、どの学部・学科でも必要であるが、それを教えられる教員が不足している。			上記1.2.3の測定法により、到達度1.2.3の到達度を区別することは難しいように思う。			到達度1.2の区別が分かりにくい									カリキュラムの仕組みはあるが、時間的な余裕が余りない。
188	違法ダウンロードなどが多いことから「情報倫理」をもう少し強調すべきかと思う。	到達度評価はやや難しいかも知れないので、もう少し具体的な内容を示した方がよい。			前項「到達度」とのマッチングが必ずしもとれていないのではないかと、とくに到達度1をどう評価するかがはっきりしない。					学生間でのビデオレビューは実際の場面では容てはないだろう。					文系学生については必ずしも容易でない内容があるので、評価も難しいかも知れない	到達目標1について強調することが、今後の情報社会の一員として生きていくためには重要と思われる。
189	賛同する															

No	到達目標1について				測定方法 意見	到達目標2について				測定方法 意見	到達目標3について				測定方法 意見	リテラシー教育の位置づけ・体制への考え
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見		到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見		到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見		
190	主體的に判断して行動すると情報リテラシーのギャップが大きい。				難しい(特に2と3)					的外れ	すべての学問分野にしては要求が高く実現が難しい	すべての学問分野にしては要求が高く実現が難しい	すべての学問分野にしては要求が高く実現が難しい	すべての学問分野にしては要求が高く実現が難しい	すべての学問分野にしては要求が高く実現が難しい。	主體的に考え、判断行動ができる事は非常に重要ですが、情報リテラシー教育の範囲ではなく、もっと基礎的・全体的な教育の位置付けに入ると思います。リテラシー教育は重要ではあるが、過大評価してはいけない。モデリングなどのシステム技術は、もっと深いものであり、これまでの様々な分野の技術が益々重要になるものと思う。
191	「読み書きそろばん」の現代版として必要。					情報リテラシー技術の範囲を広く取り過ぎるよう思う。	情報リテラシーの技術で全てができるようになるのは誤りと思う。	情報リテラシーの技術で全てができるようになるのは誤りと思う。	情報リテラシーの技術で全てができるようになるのは誤りと思う。		情報リテラシーを昔の「読み書きそろばん」と考える。重要ではあるが、それで全てができるようになるので賛同できない。					
192	学科の必修科目に組み込まれている/選択専門科目としても用意されている			「他者」に自分との契約にある営利集団も入れるべき。軽はずみな情報発信が、自分のアルバイト企業へのダメージになるなど	2の発信する話に関しては別項目にわけべき	「知」というあやふやな表現は本質がわからなくなるのでさけるべき	検索～分析と表現～発信は、別に分けるべき	コミュニケーションと2の情報発信は本質的に同じ	「評価シート」の内容こそ、ここで例示すべき。さもないと骨抜きになる				情報通信システムだけに限る必要はない	1には情報処理技術者試験を活用すべき	教員が最先端でなくとも最近3年の情報技術を知っているべき	
193	倫理的な面は必要なことだと認識している	到達度全般についての質問ですが、これらは段階的なものですか？それとも並列的なものですか？			実際にあったケースに基づいたケーススタディを行う必要があると思います。	到達目標2の文言が、到達目標3を含む形になっており、相互の関係が不明瞭です。	到達目標2における情報技術については、現在までに行われてきているテストなどで測定可能であると思います。	到達目標2における情報技術については、現在までに行われてきているテストなどで測定可能であると思います。								評価方法については、情報システムの評価については、これらを網羅して教育できるシステムを整えることは、大学運営で考えると非常に困難ではないかと思えます。
194	必倫理的な面は必要なことだと認識している				実際にあったケースに基づいたケーススタディを行う必要があると思います	到達目標2の文言が到達目標3を含む形になっており、相互の関係が不明瞭です	到達目標2における情報技術については、現在までに行われてきているテストなどで測定可能であると思います									評価方法については、情報システムの評価については、これらを網羅して教育できるシステムを整えることは、大学運営で考えると非常に困難ではないかと思えます。
195	既に取り組んでいる。	既に取り組んでいる。	既に取り組んでいる。	既に取り組んでいる。	計画しようと考えている。	既に取り組んでいる。	既に取り組んでいる。	既に取り組んでいる。	既に取り組んでいる。	計画しようと考えている。	そこまで、とてもできない。	計画しようと考えている	できない	できない	かなりむづかしい。	必要であるが、授業内ですべて行うのはむづかしい。
196	既に取り組んでいます	既に取り組んでいます	既に取り組んでいます	既に取り組んでいます	情報リテラシーだけではなく、情報倫理の科目で実践しています	情報リテラシーだけでなく、Webデザイン等の授業で実践の予定です	既に実践しています	既に実践しています	既に実践しています	実務家からの評価は、現時点では、やや困難と考えられます	情報リテラシーだけでなく、データ分析やプログラミングなどの授業で実践しています	情報リテラシーだけでなく、データ分析などの授業で実践しています	情報リテラシーだけでなく、データ分析などの授業で実践しています	情報リテラシーだけでなく、データ分析などの授業で実践しています	今後、実践方法を具体的に検討したい。	担当教員によってバラつきがあるので、非常勤講師の教員も含めて、リテラシー教育のガイドラインの徹底が必要と思われま
197	情報倫理の科目がある。	情報リテラシー科目がある。	情報リテラシー科目がある。	プレゼンテーション、Web作成の演習がある。	SNS、ブログ等について、事例にもとずく演習の進め方が確立していない。	グループ演習の科目があり、その中で実施可能である。	情報科学基礎の科目がある。	情報科学基礎の科目がある。	大学にWebを使ったコミュニケーション環境がある。	教員間、実務家からの評価の実施方法が「課題である。	演習のためのサンプル課題作り、テキスト化が必要である。	情報に関する科目が複数ある。	一部の教員によるグループ演習では実施しているが、大半の教員では未実施。	一部の教員によるグループ演習では実施しているが、大半の教員では未実施。	試験問題作りや評価の共通化が課題と考える。	情報技術の進歩は早く多様化が進んでいるため、リテラシー教育としては、基本的な内容に絞ると共に、できるだけ共通テキスト化、演習内容のテンプレート化等、多くの教員が対応できる様にするのが望ましい。
198	単一教科により到達を目指す目標としては大枠に過ぎる。	到達度としては、最終項目であるべき			1. では発信者の意図が、様々な脚色され得ることを自ら示させるべき	既に取り組んでいる	非電子化情報の活用も含める	交信の成否を評価するプロセスを含める	対象とする技術やソフトウェアの選定内容により測定にバイアスがかかる	技術的内容を取り扱うに十分な体制を用意できない	情報環境への適応としてのリテラシーの範囲を超えている				この到達目標を掲げた教育における到達度測定法としては妥当	「情報」を冠することで社会人としてのリテラシーの全体像から一部を切り取るのではなく、総合的なリテラシー教育の一翼として教科設計することが必要
199	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	ステレオタイプの理解にならないかという心配もある	必ずしも初年次教育に限らず、ゼミなど様々な科目で身につけていくもの	具体的な規準を作るのはむづかしい	具体的な規準を作るのはむづかしい	具体的な規準を作るのはむづかしい	評価の数値化は難しいと思う	専門科目などまで含めて考えるべきと思う	既に取り組んでいる	専門科目の中で既に取り組んでいる	専門科目の中で既に取り組んでいる	こうしたものもあってよいが専門科目まで含めたカリキュラムの中で養っていくべきもの	初年時教育だけに頼らず、専門教育まで含めたカリキュラム全体で養っていくべきもの
200	具体的計画はない				必要とは思いますが現状ではこれらを具体化するのには困難						本学では必要性が低い	必要性が認められない	必要性が認められない	必要性が認められない	本学では必要でない	情報リテラシー教育を充実させるためには、より多くの授業で教員が情報技術を活用した教育を実施する必要がある。そのための授業の工夫とシラバスの作成が
201	光と影の認識して判断できなければICTを活用できない	メディアリテラシーの基本であるため	光と影の理解がないと安全に使えるため	情報社会において、サイバー空間も社会の一部であるため	「到達度」を測定するためには、判定基準に段階を設けた方がよいと考えられるため	「知」の創造にICTを活用することは非常に重要であるため	メディアの適切な選択は重要であるため	情報活用能力の基本であるため	「最適なコミュニケーション」をもっと具体化した方がよいと思います。	現実的な提案だと思えます	問題解決にモデル化でシミュレーションは必須だから。	段階を設けた方がよいと思います。	段階を設けた方がよいと思います。	段階を設けた方がよいと思います。	標準化されると他大学の学生と比較ができ良いと思います	単なるスキル修得ではない情報リテラシー教育を実現するためにアクションラーニングやPBLの中でICTを活用させて学習させることが望ましい。
202	既に取り組んでいる									2の「必要に応じて実務家…受けさせる」場合の判断規準が不明で運用が難しい	情報リテラシーでは「シミュレーション」の活用までは必要ないと考える(特に文系では)	情報リテラシーでは「シミュレーション」の活用までは不要と考える(特に文系では)	必要と思うが、カリキュラムに取り込む時間的余裕がない	必要と思うが、カリキュラムに取り込む時間的余裕がない	前述と同じ理由	大学内で情報リテラシーとして必要な規準を作成し、卒業までに習得するようにしている
203	取り組みつつあるが、適切な教材(考えさせるための事例など)が不十分である		行動を確認するのはむづかしい 適切な教材がほしい		事例として適切な教材がほしい(模索中)	学生のレベルが達していない				リテラシーの範疇としての目標とすると、レベルが高いように思う		必要と思うが、カリキュラムに取り込む時間的余裕がない	必要と思うが、カリキュラムに取り込む時間的余裕がない	試験による確認はある程度目やすとなるが、達していない学生のフォローは、またリテラシーの科目の学生のレベルが達している者が少ない	全学的に必修科目として基本的な情報リテラシー教育を実施しているが、充分であるわけではない。学部(分野)によって情報リテラシー教育の必要性の認識が異なる。	
204	カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的余裕がない。		どの程度のレベルまで教えるかの線引きが難しい		具体的なイメージ(例がほしい)	リテラシーでこのレベルまでやるのは、カリキュラム的、また時間的に難しい				リテラシーレベル2では、時間的にかなり難しい		必要性は理解できるが、このレベルは専門分野と思う	必要性は理解できるが、このレベルは専門分野と思う	一つの標準で評価することは、賛成ですが、学外と協調してやるのは、一般的に難しいと思われる。	本学は大学情報教育センターが中心となって大学生として必要な情報リテラシーのレベルを決めているが、学部の意向も一部取り入れて実施している。また、新入学生のリテラシーレベルをアンケートにより調査し、見直すことも実施している。	
205					より具体的にしないと測定が困難かと思われる					「適切」をより具体的にしないと理解しにくい	到達度合がこれでは分かりにくい	「最適」をより具体的にしないと理解しにくい	教員間というのが実生活上困難なものではないかと思う	文系学生の場合、学生によっては難易度が高いのではないかと危惧される	文系学生の場合、学生によっては難易度が高いのではないかと危惧される	本学の場合、民間企業への就職者が多いため、リテラシー教育を就職してから求められる能力の育成に位置づけている
206					この問題は実践が重要なため、記憶して列挙させることはあまり重要でないと思います					「最適」なコミュニケーションを定義することは難しいと思います	自己評価やピアレビューを機能させることは、上位大学でない限り難しいと思います	文系・社会科学系には目標が高すぎる				これからの大学教育では、学生のニーズに合わせて柔軟な教育を提供していくことが必要になると思います。現場の教員としては、様々な教材を開発して共有し、個々の大学や授業でそれらを選択して活用できるようにしていただくと大変助かります
207	学生のレベルが達しておらず、問題を動画・音声・言葉だけで説明しても、実感を持ってもらえない。ウィルスなどの問題を疑似大衆させるソフトがあると良															コンピュータの扱いと、メディア・リテラシー等、情報をどのように扱うかが、一緒に扱われ区別されていない。
208	主體的に判断・行動する能力を養うには基礎的な力が不足していると思う。	発信者の意図を理解するための基本的能力が十分ではない	そのための基礎知識の習得がかなりになる	理想であるがかなり難しい「列挙」しない対応をされる可能性がある	方向としては賛同するが、「列挙」しない対応をされる可能性がある	習得すべき基礎的な知識と技能がかなり多くなる	基礎知識・基礎技術の習得が課題	基礎知識・基礎技術の習得が課題	コミュニケーション力までカバーは難しいのでは	評価レベルの統一が難しいのではないか	これも基礎的な技術力・能力の習得が課題と思う	基礎となる技術力・能力の習得にかなりの時間を要する	シミュレーションをやり遂げる力はかなり高度	社会というものの理解がかなり難しいのではないか	社会的なものの評価・考察はかなり難しいのではないか	社会を生き抜く力の基礎となるものと考えられるが、単独で情報リテラシーとして教育できる範囲のものではないと思われる。複数の分野教科との連携が必要。

No	到達目標1について					到達目標2について					到達目標3について					リテラシー教育の位置づけ・体制への考え	
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見		
209	「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」										本学部は人文系(外国語学部)であり、実際の教員の担当や指導として難しいと思われる						
210	担当科目の中で、その内容についてすでに取り入れている。										モデル化とシミュレーションの活用は、情報通信技術の仕組みの理解が前提とは限らない。また、すべての学問分野に到達目標3を定めることは難しいと思われる						到達度で記述した内容と同様で、2については時間と環境設定の問題が生じる
211	「情報倫理」として明示されてはいいかがでしょうか。	具体例がほしいので、今後の授業モデルに期待します			情報倫理の教材などでテストをするというはどうでしょう。	自分のスマホを持っていても、クラウド系アプリでPCとの連携ができない学生が非常に多い。携帯端末と創作作業用の情報機器との連動を体験させ、知的作業の効率化を目指すのも必要と思います				ソーシャル・ネットワークの用語を入れてみては。						到達度で記述した内容と同様で、2については時間と環境設定の問題が生じる	
212	情報リテラシー教育を担当していないが情報に関する専門教科などではこの内容を具体的に説明し理解させようとしている	情報リテラシー科目を担当しているわけではないので到達度の可否を考えていない。到達度を設定しても測定する時間の余裕がないが現状である			授業の内容や授業方法によって測定の方法は異なる。一概に言えるものではない。到達度の測定を重点においているが、その目的の1つは学生が自己チェックすることにあると考えている。認識なくして利	この目標を達成するには、学生の思考力、情報通信技術の利用レベルなどが必要となる。それらを勘案して目標の設定と方法を設計することになる	情報通信技術の選択肢はそれほどないのではないか	すでに多くの学生は修得していると思われる。課題や目的を認識できるかが問題であろう。	最適などうかの判断は本人にかかれないので「どちらともいえない」と回答した。しかし新しいコミュニケーションツールの問題点については授業のなかで折に触れ話している	学生の自己評価や学生間でのピアレビューは努力すれば可能だが、その他はかなり困難						いずれも大変な努力がいると思います	
213	既に取り組んでいる				既に取り組んでいる												
214	取り組んでいる	講義内で事例を挙げながら説明はできる	どこまで深く扱うかにより対応が異なる	どこまで深く扱うかにより対応が異なる	既に取り組んでいる 一般的な事実説明は可能。担当者の知識レベルの差があり評価の安定性に疑義がある	既に取り組んでいる 専門領域では必要な能力である	技術というよりツールではないのか	従来からの表現手法の改善であり、その利活用能力の向上が重要。日本語表現能力の低下が問題	コミュニケーションの前提は単語能力・表現能力の向上と共通の知識基盤が前提である。ツールの問題は、そのあとの課題	計画しようと考えている 評価の妥当性、公平性の維持評価が困難。講義内容を反映した課題となっているか	計画しようと考えている	既に取り組んでいる システムは設計者の思想で作成されており汎用的な考えられない。特定のアプリケーションの利用能力の意味なら、それなりに理解できる	既に取り組んでいる 現象の因果関係が把握できなければモデル化も困難。基礎学力不足者が多く、講義での実施よりはゼミに向いている	有益の判断基準が不明	1, 2については汎用モデルが存在しうるか疑問。個別モデルならば、評価基準の設定など難問がある。3については通信システムの技術的な話題ならば一部学部を除き無理。アプリケーションの抱える問題や運用上の課題なら可能性はある	リテラシーを操作能力とすれば、中高で情報教育が行われた結果、情報機器に対する拒絶感やキーボード利用能力の低下がみられる。これらについては基礎的なリテラシー教育で対応している。学習支援では、それぞれの先生方がネット上に講義関連問題などをアップし利用、分析できる環境を整えている。また講義内容に関連した問題を講義中に提示し回答させることも可能である。担当者の学生に対するコメントも確認可能である。情報利用能力については、学内ではどこでも情報検索可能な環境にあり、さらに整備を進めている。ただ一部ではあるがIPに書かれていることを鵜呑みにする学生も増えている。リスク対応能力については、肖像権侵害、著作権侵害、スマホ画像やメールのリスクなど教えることも必要であるが、学生たちに実感がない。個別事案などの理解は、一般講義で行うことに困難がある。大きな課題として、どのような情報リテラシーが必要かを明確にする。そうすれば専門的知識とリンクした制度設計ができる。他人の権利侵害や法律違反はそ	
215	本学でもこのような目標に沿って10年程前から開講しています。情報から知識へ変換できる、という目標は抽象的すぎる気がします	情報から知識という目標が十分評価されているとは言えないのでは			列挙するだけで知識に変換できたと評価できるものでしょうか？	通信技術だとネットなどの通信だけを活用するように聞こえませんか？情報技術を活用すれば、ネットを含むすべてのコンピュータ環境となると思います		最適なコミュニケーションには意味が強すぎませんか？状況に応じた適切な、ぐらゐの方がよいと思えますが	情報の効率的な発信について到達度の評価が抽象的すぎるように思えます。より具体的なもの(問題提起や代替案の作成、文書による表現など)とその完成度を尺度にすべきではないでしょうか。	表計算ソフトを用いて自分の身の回りの問題をワークシートで実現する授業を実施しています(試行錯誤などによる問題解決)	コンピュータのハード、システムではなく、論理的な思考力や数理的な問題解決能力などを育成すべきではないでしょうか					ハードの知識を試すようなことはしていません。論理関数や繰り返し処理の考え方に、論理力や多様な状態や演習内容など他校の事例を参考にできればありがたいです	
216	学部としては「情報倫理」等の授業科目にも含まれる	信頼性や信憑性についての記述が含まれない	到達度の記述からグループなどというものが読み取れない	到達目標1の「主体的に判断」との明確な対応がない	②の「列挙、説明」に関わる事項が複数含まれており煩雑である	到達目標に「知識と技能の修得が含まれる」ことが明確でない	「選択」とあるが、①②では「活用」となっている	到達目標に「ソフトウェア」を含めるべきである	到達目標は「効果的に」だが、「最適な」へ変更されている	到達度の評価シートを作成する等として、到達目標1の測定方法に比べて安易	「情報」「通信」「技術」「システム」が曖昧に混在している					「有益なシステム」の内容が曖昧。セキュリティを含まない	3の評価の記述は、到達目標2の評価と精粗を欠いている
217	これからの社会の一般常識として必要であるが、十分に教育できていない	必要であるが、十分に教育する時間がない			考えさせて回答させることは難しい	適切な課題の作成が重要である	必要であるが、十分な時間はとれない	必要であるが、十分な時間を評価することは難しい	達成するには多くの時間が必要である	情報リテラシーの範囲を超えている	既に取り組んでいる	情報リテラシーの範囲を超えている	情報リテラシーの範囲を超えている	情報リテラシーの範囲を超えている		情報リテラシー以前にモデル化の教育ができていない	
218	必要と思うが、昨今の状況では、大学入学以前に習得しておくべきと考える	概ね賛同する			他者に被害を与えうるケースについての理解度の測定が不十分だと感じる。	概ね賛同する	概ね賛同する	概ね賛同する	「適切なコミュニケーション」とすべきだと思う。	評価シートなどで測定できるか不明だが、他に有効な方法を考えつかない	重要な内容であるが、情報リテラシーだけで達成できる目標ではない	情報リテラシーに必ずしも必要と思わない	情報リテラシーの範疇で扱うのは困難だと考える	情報リテラシーの範疇で扱うのは困難だと考える		測定方法としては妥当だが、情報リテラシーで必要な目標とは思えない	情報リテラシー教育という形で切り取るのではなく、様々な分野の授業に組み込んでいくことが必要だと思う。
219	賛同できる内容ではあるが、何が適切であるかを判断し、不正行為を行わないという意味も加えてほしい				配慮すべきなのは他者だけではなく、不正に使われた事例をとりあげ、何がまじりやすいかを説明させることも必要。		賛同はするが、どこまでの利用が正当化を正しく認識させる取り組みが必要。	1をもっと拡充すべき。どのような傾向があげられるかをもう少し具体的に。								2, 3はいいと思うが、1はいい	近年、情報機器を利用した不正な行為が増えたり、その部分について、正しく利用することは何かという教育が早急に必要である。(例:yahoo知恵袋を利用したカンニングなど)

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え										
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見		到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見							
220	到達目標1の内容に相当する授業科目が開講されている	「発信者の意図」「発信者の立場と意図」としてはどうか？	「光と影」はあいまいに感じる。「利点と問題点」はどうか？		事例の列挙や説明だけでなく、ロールプレイ等で体感させる方法はどうか？					「最適」の定義が不明確。「適切」が妥当では？	2. 測定方法は演習などの長期課題でなければ適用しにくいのでは。					上記の測定方法で問題ないと思う	本ガイドラインの到達目標は技術的、社会的、倫理的などのさまざまな側面に関して提示されており、単独の授業科目だけではすべての項目を満たすことは難しいと考える。そのため、複数の授業科目にまたがって教員間の連携を高める工夫が必要になると考え、情報リテラシー教育が、情報関連、コンピュータ関連の授業のみに委ねられがちであることに問題を感じます。情報系の科目を定がかりとしながらも、その実践・確かな修得は、大学におけるカリキュラムの中で、複数科目を通じて行われるべきであり、ICTに苦手意識を持つ教員を含めた協力体制が必要と感じます(そこを徹底させるためにも、【到達目標3】の取り扱いには注意が必要と感じます)。情報系でない教員からも情報リテラシーの重要性について語られることは、学生の意識にも						
221	導入レベルの内容については既に取り組んでいる				3)に関して、「対で」ということの真意がよくわかりませんでした						一般論としての必要性は理解できますが、この項目があると、情報通信技術に苦手意識のある教員の科目での協力を得られにくくなってしまいうように感じます												
222	賛同する					賛同する																	
223	ほぼ同様の視点で特定授業で取り組んでいる	まさに必要なことだと思う	まさに必要なことだと思う	情報の扱いを独立して捉えられるかどうかは多少疑問	他に適切な評価方法がないが実情だが、上記方法で十分とも思えない	どこまで新しい技術まで対象にするかの判断は難しい	適切であると思う	実際の評価には実技等を用いなければ少し難しい	実際の評価には実技等を用いなければ少し難しい	上記方法だけでは十分に評価できない要素もあると思われる	全対象者に必要な項目かどうかは何とも言いえない、特に後半部分	科学的というのをどういう意味か明確にする必要がある	対象者全員に必要なと思いにくい	有益の意味を明確にする必要(有益ではないシステム?)	1はまさにその目的で活用すべき、3は基準を明確にする必要がある	現在の高度に情報化が進んだ社会の現状や日々発生する関連の問題を見て、情報倫理概念を含む情報リテラシーの重要性はますます高まっており、あらゆる分野の学生に共通に学ばせることが重要であると、一情報分野担当教員としては痛感している。しかし、学内では十分な共通理解が得られているとは言えず、現実には十分な教育が実施できる体制にはなっていない。また最近の大学生が関わる事件などを考慮すると、情報倫理を独立して扱うのではなく一般倫理(これを扱う具体的な科目が無いのが実情であるが)の中で情報の問題を取り扱うといったことが必要かも知れない。いずれにしても、情報リテラシー(倫理面、技術面、社会面含めて)に関しては担当教員個人に完全に依存しているというのが、少なくとも本学での実態であり、その必要性の学内での啓蒙や組織的な取り組みができるような働きかけをしていくことが重要であると思う。そういう意味で	大学として非常に大切なものと捉え、全学生に対して初年時教育の中でやっている						
224	全学生に対して取り組んでいる	情報倫理教材(INFOSS情報倫理)に該当する記述あり					情報倫理教材(INFOSS情報倫理)に該当する記述あり																
225	まず理解すべきことは、通信手段で伝達されるのは情報ではなくデータであること、従って、データと情報の違いを学生に理解させる必要があり、その上で、今度は本質的に異なることの情報と知識の違いを明確に意識させること、などである。その区別や違いの認識過程の一部に、上記では言及しているが、十分だとは思えない。本学では、教える側がそこを明確に意識して教育することが重要であると考える。そこまでさかのぼって教育している。情報は伝達過程の様々なところで変容の可能性があること(例えば使うメディアの種類でも異なる等)、また情報の意味自体が背景知識に依存すること、それらはそれぞれ固定したものであること、動的なものであること、なども並行して強調している。ちなみに、本学ではこのような観点から教育を行い始めて今年度で5年目となっている。貴大会でも発表させていただいたことがある。教材は担当教員、すなわちその一人である私が自ら開発した	それは必要なことの一つであるがそれだけでは、十分ではないから。すなわち、データと情報の違いを学生に理解させる必要があり、その上で、今度は本質的に異なることの情報と知識の違いを明確に意識させること、などである。その区別や違いの認識過程の一部に、上記では言及しているが、十分だとは思えない。本学では、教える側がそこを明確に意識して教育することが重要であると考える。そこまでさかのぼって教育している。情報は伝達過程の様々なところで変容の可能性があること(例えば使うメディアの種類でも異なる等)、また情報の意味自体が背景知識に依存すること、それらはそれぞれ固定したものであること、動的なものであること、なども並行して強調している。ちなみに、本学ではこのような観点から教育を行い始めて今年度で5年目となっている。貴大会でも発表させていただいたことがある。教材は担当教員、すなわちその一人である私が自ら開発した	今起こっていることは「情報の社会」の光と影にすぎないという理解と、まったく理解できないだろうと思う。例えば、情報社会でなければ生じること。受け取る側の状況でも、情報の意味変容を与えかねない。特別なことではない、しかし特別な面もある。それを、情報社会の、とういいう方で、考え「なく」させていると思われ。もちろん、この素朴な言い方に、そんな意図がないことは明らかであるが、教える側が、その問題、すなわち結局は人間の問題であることと意識しておかないといけない。この到達度1には、そういう意図が感じられないように思われる。あえて改善するとすれば「データ・情報・知識の違いをよく考えて理解し、発信者の意図や伝達過程の特徴等を理解した上で、情報を読み解くことができる	この「社会の一員としての責任を担う」ことができる。」「という前半には、複数の高校段階のそれを抜けば、この文の後半である。前、前半に複数あることが適切に表現できているから。前半の複数のうち、重要な面は、文化発展に寄与する一人であるということだけで、まったく教育したことはないから、出さないといいけないのは、記してよとするから。したがって、それで何が測定されているのか、まったく意味不明な測定結果になりかねないと思える。この問題を解決するためには、私は賛同できない。この情報倫理のポイント3つとは、いままでもなく、被害者にならない、加害者にならない、そして情報文化・知識社会文化の発展に貢献すること、この3つであるため、目標には、もう一つ、追加するよいものではないかと、私は考える。すなわち、到達度1は、データ・情報・知識の違いの理解。加えて、上記の3つであるから、合計4つになる。相手に被害を与えないことの理解と	この世代は、幼稚園の頃からすでに検索することを覚えたような世代が増え、コピペレポートに仕立てられないことが多い。すなわち、答えがあり、それを覚えることが学習だと勘違いしていることが多いということがある。それを再考することがまず必要である。自分が社会問題を解決する立場にいないことからは、まったくいいことがないから、出さないといいけないのは、記してよとするから。したがって、それで何が測定されているのか、まったく意味不明な測定結果になりかねないと思える。この問題を解決するためには、私は賛同できない。この情報倫理のポイント3つとは、いままでもなく、被害者にならない、加害者にならない、そして情報文化・知識社会文化の発展に貢献すること、この3つであるため、目標には、もう一つ、追加するよいものではないかと、私は考える。すなわち、到達度1は、データ・情報・知識の違いの理解。加えて、上記の3つであるから、合計4つになる。相手に被害を与えないことの理解と	課題や目的に応じて適切に選択すべきことは、情報通信技術ではないからである。ここに欠落しているのは、情報や目的に応じて適切に選択すべき目的(目的)が研究過程の一部だということである。技術の専門家、例えば、改善提案をするという行為は、研究過程を追求する立場にいないことからは、まったくいいことがないから、出さないといいけないのは、記してよとするから。したがって、それで何が測定されているのか、まったく意味不明な測定結果になりかねないと思える。この問題を解決するためには、私は賛同できない。この情報倫理のポイント3つとは、いままでもなく、被害者にならない、加害者にならない、そして情報文化・知識社会文化の発展に貢献すること、この3つであるため、目標には、もう一つ、追加するよいものではないかと、私は考える。すなわち、到達度1は、データ・情報・知識の違いの理解。加えて、上記の3つであるから、合計4つになる。相手に被害を与えないことの理解と	このレベルのことは、いまや、だれでもできることである。問題は、多くの学生が、自分はそのことができる動機を失っていることである。その自覚のために必要なのは、研究過程を追求する立場にいないことからは、まったくいいことがないから、出さないといいけないのは、記してよとするから。したがって、それで何が測定されているのか、まったく意味不明な測定結果になりかねないと思える。この問題を解決するためには、私は賛同できない。この情報倫理のポイント3つとは、いままでもなく、被害者にならない、加害者にならない、そして情報文化・知識社会文化の発展に貢献すること、この3つであるため、目標には、もう一つ、追加するよいものではないかと、私は考える。すなわち、到達度1は、データ・情報・知識の違いの理解。加えて、上記の3つであるから、合計4つになる。相手に被害を与えないことの理解と	「最適な」コミュニケーションなどは存在しない。また1つに限定すべきことでもない。コミュニケーションの手段は、常に複数あることを忘れてはならない。本学では常に複数の手段の存在と、それらの違いを意識させるように教育している	1. については、特性について説明させるだけでは、またまた学生は暗記の対象にしかならず、したがって賛同できない。情報や知識の扱いについては、学生、その学習過程の変容を伴うことであるから、このことだけ(特性の説明だけ)では測定したことはないから、測定すべきことは、目標自体を再考したうえで、評価方法を再考することから必要かもしれない。本学では、これについては毎年、試行錯誤を繰り返して、よりよい方法もあると思う。貴大会でのような研究モデルの体験の上に、自分たちのPBL課題を選択することなどである。これを本学は過去4年間、行ってきた	大多数の文系の一般学生に対して、いろいろな問題の特徴をとらえて、それを指標化して、さらに数値化する手段は、常に複数あることである。その自覚のために必要なのは、研究過程を追求する立場にいないことからは、まったくいいことがないから、出さないといいけないのは、記してよとするから。したがって、それで何が測定されているのか、まったく意味不明な測定結果になりかねないと思える。この問題を解決するためには、私は賛同できない。この情報倫理のポイント3つとは、いままでもなく、被害者にならない、加害者にならない、そして情報文化・知識社会文化の発展に貢献すること、この3つであるため、目標には、もう一つ、追加するよいものではないかと、私は考える。すなわち、到達度1は、データ・情報・知識の違いの理解。加えて、上記の3つであるから、合計4つになる。相手に被害を与えないことの理解と	目標の再考がされるのであれば、到達度も再考の必要があるのではないかと					どれもこれも、よい方法であると思う。なお、上記の目標や達成度そのものが再考されるのであれば、それに応じて、測定方法も改定する余地があるのではないかと							初年次教育の一環として、第1に大学での学び方入門の体験的理解、第2にそれぞれ学科専攻に応じた専門分野への入門の部分的実践的理解、第3に総合的な知的生産過程・研究過程の体験における情報スキルの使いこなしの部分である。これらを教えるために本学では、4科目が準備されている。第1に、1回生前期に基礎演習で全員に少人数教育で大学での学び方を教える。第2に1回生後期に全学必修で少人数教育で専門分野への入門の実践的理解を教える。第3に、1回生前期に全学必修で、情報リテラシー基礎という科目が準備されていて、情報スキル教育を割り切って教えている。第4に、1回生後期には選択として情報リテラシー応用という科目で希望者全員に、知的生産の技術の側面を教えている。

No	到達目標1について				測定方法 意見	到達目標2について				測定方法 意見	到達目標3について				測定方法 意見	リテラシー教育の位置づけ・体制への考え		
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見		到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見		到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見				
226										技術進歩が速いために、これを適切にフォローした特 性の教育を情報専門分野 以外の広範な学部等で実 施するのは相当困難なよ うに思われる	情報通信技術あるいは データ解析技術が有効で ある分野が多数あること は言うまでも無いが、こ の到達目標を分野を問わ ない普遍的なものとする にはやや無理があるよう に思われる。到達目標の 1と2は、いわゆるリテ ラシー教育の目標として は普遍的なものであると 思われるが、この目標3 は、文理融合型の情報系 学部学科等が教育目標に しているものように思わ れ、それを分野を問わな いものとして運用するの は、かえって普及を妨げ るのである。	大部分の人にとっては、 システムは所与のもので あり、その仕組みについ ての知識や新しいは、ほ んど不要と考えます。ま たモデル化とシミュレー ションについては、大切 なことはありますが、一 般利用者にはハードルが 高すぎると感じます	一般利用者には不要な 知識だと思います。ほと んど人間にとってブラッ クボックスで良いと思 います。					小職の所属する学科は情報工学系であり、技術を追いかけることが主流になっています。従って「リテラシー」という視点は全くと言って良いほどありません。しかし実は技術者にとってもリテラシーはとても大切なものと考えています。特に倫理面からの学習は必須のものと考えています。しかし現実にはむしろ文系諸学科よりも遅れていると感じています。さらにリテラシーの上位概念とも言える産業倫理(技術倫理)の教育も全く不足しています。これらの点を充実するを強く感じます。ただこれを個々の大学で準備するのはかなり大変です。ですから地域に複数の大学に向かうといった体制の確立が必要かと思 います。工学系の教員には、この種 過去とこれからの教育でもとめら れることは基本的には同じである と思う。ICT活用は時代即して 普及するので、あえて教育の体 制にこだわらなくて良いのでは
227	本来ならば重要な事であるが、カリキュラムに盛り込む余裕が無い。また教員の中に重要性を理解している者が少なく、「専門科目」として認知してもらえない	何を意図している目標なのかははっきりしないと感 じます	ケーススタディはとても良い方法であるとは思いますが、それを指導する教員に、それだけの力量が求められるので、教員側に対して、かなり難しい講義になると思 います	ここが最も大事な事だと思 います。特にSNSなどの新しいコミュニケーション手法に伴う各種の事例をもつと含めるべきかと思 います	基本的には知識の有無で評価できると思 います	情報化社会の中で最も要求されるスキルの一つであると思 います	現在ではほとんどwebに限られて いますので、「適切な選択」というのはほとん どあり得ないのではないかと 思 います	単にwebを使った情報検索というだけでは無く、その利 用(知的財産権の立場)につ いての議論も必要だと思 います	特にSNSにおけるマナーを適切に教える必要があると強く感 じます。	実務家のサポートを得ることが、それほど容易ではないと思 います	情報通信技術あるいはデータ解析技術が有効である分野が多数あることは言うまでも無いが、この到達目標を分野を問わない普遍的なものとするにはやや無理があるように思われる。到達目標の1と2は、いわゆるリテラシー教育の目標としては普遍的なものであると思 われるが、この目標3は、文理融合型の情報系学部学科等が教育目標にしているものように思われ、それを分野を問わないものとして運用するのは、かえって普及を妨げるのである。	一般利用者には不要な知識だと思います。ほとんど人間にとってブラックボックスで良いと思 います。	モデル化もシミュレーションも、問題解決で使えるレベルになるには、相当高度なスキルが要求されます。表計算ソフトを使うぐらいが精 々かと思 います	一般利用者には不要な知識だと思 います	そもそもこの到達目標の設定自体に疑問が残ります	小職の所属する学科は情報工学系であり、技術を追いかけることが主流になっています。従って「リテラシー」という視点は全くと言って良いほどありません。しかし実は技術者にとってもリテラシーはとても大切なものと考えています。特に倫理面からの学習は必須のものと考えています。しかし現実にはむしろ文系諸学科よりも遅れていると感じています。さらにリテラシーの上位概念とも言える産業倫理(技術倫理)の教育も全く不足しています。これらの点を充実するを強く感じます。ただこれを個々の大学で準備するのはかなり大変です。ですから地域に複数の大学に向かうといった体制の確立が必要かと思 います。工学系の教員には、この種 過去とこれからの教育でもとめら れることは基本的には同じである と思う。ICT活用は時代即して 普及するので、あえて教育の体 制にこだわらなくて良いのでは		
228																		
229		「発信者の意図を理解すること」は簡単ではないように思 う			2と3の違いがよくわからない					実際にどのように活用しているかを評価する必要があるのではない か	到達目標2との違いがよくわからない		「モデル化とシミュレーション」が抽象的で何を期待しているのかわからない					
230	光と陰など余りに批判的に評価することには感心しませんが、意識として持つことには賛成	現実には困難では ない	安全に配慮することは当然	責任を理解し、他者に配慮は当然学ぶべきこと		扱う情報の種類や内容によって異なるので評価に工夫がいる			最適という言葉は何を基準として		内容としてはいいと思う				独創性を失うので画一的評価はよくない	学生力という画一的な評価では最低限のラインが達成できればよいとなり、教員への情報提供や支援を充実させるべき		
231	初年次教育の一環として取り組んでいる	ほぼ同様に取り組んでいる			測定方法については授業担当者にまかされている	初年次教育の一環として取り組んでいる	初年次教育の一環として取り組んでいる			小テスト、発表演習などで評価している	情報系学部としては、リテラシーではなく4年間を通して学修していく内容	他学部のリテラシー教育としては妥当			他学部のリテラシー教育としては妥当		全学的には情報リテラシー教育の体制は整っており、カリキュラム、教員体制等の検討が必要と思われる	
232	すでに取組んでいる	クリティカルシンキング	自主的な学び	社会的責任	具体例を列挙させる					使える技術を列挙して評価・点検できる					フィードバックする	大学として重視している		
233	表記の内容に表現には、賛同いたします。ただ、情報教育において最も重要となるのは、まずは難しいことだけを詰め込むのではなく「楽しさ」を伝えるべきだと考えております。例えば、情報の基礎教育の技術の詳細を教えるのではなく、世の中でのどのように利用されているかなどを伝えるべきだと考えております。その点が、到達目標にも含まれることを期待しています。	情報を読み解くだけではなく、到達目標2と関連するかも含められませんが、情報を含み出すため、流通するための情報技術との関係も到達度に含めた方が良く 考えております。	賛同はいたしますが、到達度1に関連して、情報の話ではなく情報技術も含めた方が良く 考えております。	賛同はいたしますが、到達度1に関連して、情報の話ではなく情報技術も含めた方が良く 考えております。	2については、インターネットでの情報発信や企業での情報の管理など、かなり事例が絞られないでしょうか、例えば、工事現場において人が安全に活動できるような情報通信技術など一つの情報なので、インターネットのみに特化している点は考慮が必要ではないかと考えております。また、3については、「他者に配慮して情報を扱うことができる」という点を評価できないのではないかと懸念して おります。	「和」は良いと考えておりますが、一人での活動ではなくグループディスカッションなど必要ではないかと思 います。コミュニケーションスキルなども情報リテラシー教育に含めるのであれば問題ないかと思 います。	到達度1と到達度2の切り分けが難しく、かなり重複しているように見受けられます。情報通信技術を選択しますが、実際の業務では、課題や目的に応じて、情報通信技術を選択し、収集や解析の方法を検討し、情報通信技術を選択します。収集や管理の方法が判断できない状態で、情報通信技術が「適切」には選択できないのでは ありませんか。	賛同はいたしますが、最適なコミュニケーションがかなりあ いまいです。基本的には、対面のコミュニケーションが良い場合が多く、ロケーション等の問題から様々なICTを活用して補充するのはないでしょうか、そういった意味で、最適という定義の判断が難しいように見受けられます。	「実際の課題」に対して、どのような情報通信技術を選択するのかなどを考えさせ、対面のコミュニケーションが良い場合が多く、ロケーション等の問題から様々なICTを活用して補充するのはないでしょうか、そういった意味で、最適という定義の判断が難しいように見受けられます。	到達目標2との間に大きな隔 たりがあるように思 います。情報通信技術の仕組みを知ることは重要ですが、「なぜこのような仕組みなのか?」や「なぜこのような仕組みで構築しなければならなかったのか?」などがあ ったうえで、そのニーズを満たすための技術かと思 います。例えば、わたしが以前開発したネットショッピングでは、情報検索の速度が高速である必要があるため、そのために、検索を高速化する仕組みを通常とは異なり、速度向上に特化した仕組みを導入して おります。そのように、ニーズとの対応関係を 含めて目標化する必 要があると思 います。	到達度1、到達度2が技術の理解、到達度3がニーズに基づく技術の役割で分けられているように見受けられます。そのため、到達度が到達度1、2の延長ではないように思 います。		1、2の項目と、3の項目が延長線上にあるように判断できない状況です					
234	一部実施している	発信者の意図理解は難しいと考 える	光と影の理解は必要	情報技術者としては必須の要件	発信者の意図理解が一筋縄で行くとは思 えない	情報技術者としては必須の要件	情報技術者としては必須の要件	情報技術者としては必須の要件	情報技術者としては必須の要件	情報技術者としては必須の要件	情報技術者としては必須の要件	情報技術者としては必須の要件	情報技術者としては必須の要件	情報技術者としては必須の要件	情報技術者としては必須の要件	外部評価に関しては実現性が疑問	今回の情報リテラシー教育の到達目標、到達度は、情報技術者育成の観点では相応しいが、その他の分野の情報リテラシー教育に広げるのは、無理と考 える	
236	社会の一員としての自覚をどのように持たせるかが課題である	理解する可能性も考慮に入れた判断が重要である が	情報の特性を理解した上で護身術を身につけることが必要	情報リテラシーだけでなく一般にも言えることである が	被害を受けてしまったときにその影響を最小限に抑える術に関する知識も必要と考 える	情報通信技術を利用することのメリットとデメリットに関する考察も必要と考 える	実務上、選択肢はあまりない ように思われる	うまく活用できる能力を身につけることが重要と思 われる	直接対面型コミュニケーションの限界も知っておく必要があると思 われる	情報通信技術を使わないほうがよい場合があることも理解させる必要がある	情報インフラの構築等に携わる職業に就く場合には修得は必須と考 えるが、分野共通に求められる情報リテラシーとして一律に修得させるには詳細過ぎるのではないかと考 える	情報システムの構築技術者には必須の能力である	情報通信技術だけでなく汎用的に必要な能力である	情報システムの構築技術者には必須の能力である	統一した達成度の判断は困難であると思われるため、標準化された到達度試験ではなく、既存あるいは新規のいくつかの試験を組み合わせることで、それぞれの目標に応じた達成度判断をすべきではないかと考 える	分野共通の学生力として必須の項目と、分野に応じた学生力として選択すべき項目を分けて考えることが必要であり、教養から専門に渡る全ての授業、演習等に合わせた形で組み込むことが有効ではないかと考 える		
237																	単にワープロソフトや表計算ソフトを使うことが情報リテラシーと 考えられている風潮があるが、今の時代、それだけでは不十分である。特にモバイル端末が普及し、ネットワークがより身近になった 昨今、それらを問題なく扱える知識とモラルを醸成させることも大事である。その意味で、本アンケートに記載された到達目標を妥協なくきちんと達成できるようにリテラシー授業を実現できれば	

No	到達目標1について				測定方法 意見	到達目標2について				測定方法 意見	到達目標3について				測定方法 意見	リテラシー教育の位置づけ・体制への考え	
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見		到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見		到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見			
238	これからの必要な情報社会には必要な要素だがなにかふん量が多い				測定できるかどうか疑問である。		どの要素についても大切なものである。			実務家からの評価を受けさせる点については賛成。ただし、現在教育を現在の大学で行うには、実務家との協力が不可欠であり、大学によってはなかなか難しい。	モデル化とシミュレーションまで踏み込むのはあまりに大変ではないか。教育も時間も足りない。		どの要素も大切なものである		標準化された到達度試験、というものがどこまで有用になるかが疑問である。各大学の実情や学生の能力により、教員が個々に到達度を確認するべきである。	かつてはアプリケーションの操作技術こそが情報リテラシーであったが、現在では情報倫理・モラルにも踏み込み、総合的な情報を扱える技術が情報リテラシーとして扱われている。これは情報の本質であって間違っていないが、現在は過渡期にあり、教材や教員の能力などあまりにも足りない部分が多すぎると思われる。	
239	必要と思う。上記の内容を抜くには時間が足りない。	それぞれの到達度に対する判断が難しいので基準が必要。	これらの判断や到達度の基準になるものが必要	これらの判断や到達度の基準になるものが必要	内容的には、賛同できるが、2の内容をもう少し3に移したほうがよいと思う	演習などにより、比較的判断しやすいためと思います。		到達度の判断が難しいのではないかと感じる。	実務家から評価を受けさせるとい点が実現できるか疑問。	面白そうだが、教科書や参考書などがなければ、授業の準備が大変だと思う。				授業としてやるのは、時間的に厳しいかもしれない。また、評価の点で、3の内容は、前半の部分は可能かもしれないが、すべてを実現させるのが、難しいと思う。	全学生に共通の科目として必須の授業とするべきものだと思う。SNSに書き込まれた内容から、いろいろな問題に発展するケースが最近見受けられ、大学生の質や教育が問われていることから、1年生から学ばせるべきものと考えている。		
240	来年度(2014年度)から取り組んでいく予定です。	計画しようと考えている	計画しようと考えている	計画しようと考えている	課題に事例の列挙を取り上げさせ、到達度の測定方法に用いる	必要と思うが、工学部全学科共通で、複数の担当者で授業するためのカリキュラムに取り上げる時間的余裕がない。	2014年度のテキストで考えている	2014年度より一部取り入れる予定	カリキュラムに取り上げる時間的余裕がない	今後考え、取り入れていく予定	工学部1年次の科目で、カリキュラム上そこまで考えていない		工学部1年次の共通科目なので、そこまで考えていない	考えていない	2014年度より一部取り入れる	カリキュラム上の問題や各先生(複数担当者)の方のスキルの問題などがある	
241	情報機器を扱う人間の姿勢がより重要であるため、必要不可欠と思われる。	到達度の設定は妥当と思われる。			事例や方法を学生に説明させる場合、インターネットで検索した結果(しかも同様の内容)ばかりになる可能性が高いが測定方法としては現状で妥当と思われる。	目標設定は妥当と思われる。	学生が身近に扱える情報通信技術は、インターネット一択が現状であるが、到達度設定としては妥当と思われる。			測定方法としては妥当と思われる。			到達度の設定は妥当と思われる。			位置づけ:学生が最低限の情報通信技術の知識と技術、モラルやマナーを習得する場。体制:上記の内容を習得するために有効なものであること。	
242	来年度から取り組もうとしている				2. は必要だが、学生のレベルが達しているか判断に迷う	専門的にはならず、あくまで基礎的な知識の習得なら賛同できる				実務家から評価を受けさせることは、むしろいいのではないかと感じる。	基礎的ではなく専門的な部分が含まれてくるので、高学年時での受講なら賛同						
243	既に取組んでいるが、内容が多く単独科目が必要	他科目との連携が不可欠	学生のレベルが達していない	学生のレベルが達していない	実際に経験(演習)などが必要	高校レベルの修得が不十分で、大学での修得内容が多くなっている			他科目との連携が不可欠で、長期的な授業計画が必要	現在の授業体系では対応できない	学生のレベルが達していない		学生のレベルが達していない			高校レベルの修得状況のばらつきや大学での位置づけがあまりないなどの、種々の要因によって体制を形成するには長期的な計画が必要である	
244	時代とともに変化していく内容なので常に更新されているテキストが欲しい				適切に評価できる教員がいるかどうか問題である	実際にインターネット上に発信すると様々な問題に直面する。例えば Twitter の炎上などの問題点にも触れて欲しい				到達度が3項目あるが測定方法が2項目である。適切に評価できる教員がいるかどうか問題である						大学生がTwitterなどで問題を起こしている現状を考えると情報リテラシーは高校時代にも身につけておくべきであり、高校と大学でリテラシー教育の連携が必須。	
245	取り組みとして含めている。文系学部であるため、技術的な要素は極力避け、身近な事例を中心としている	既に取組んでいるが、ケーススタディのマニュアルがあると助かる	「光と影」の表現が抽象的。「3」が影の理解だとすると、ここでは「技術と活用」の理解を中心としてよい気がする	ここは初年次教育で最も伝えたいところである。有効活用の話題で技術特性を理解させ、それを踏まえて悪影響の可能性を考えさせている	2)について、特に重点的に教育に取り入れているが、被害を防止するための方法は、初年次で難しいため、教員で例示している	協働して「知」の形成ではなく、リテラシー教育では「共同作業」程度で充分と考えている。大学生生活で必須の技能だが、「情報発信」の箇所はリテラシーで行う時間がなく、その後でゼミ活動などで実践的に体験させている	情報技術の選択と捉え、よほどコンピュータでもない限り、結果的に世間で示されている王道に従う形が多い。リテラシーでは例示で充分だと考えている	リテラシーでここまで達成するのは時間的余裕がない。一連の作業をケーススタディで体験させ、その後、他の講義などで実践するよう促している	ここは教育内容がイメージがし辛い。Mail、SNSやグループウェアの技術特定の中であれば、リテラシーの中でMailやSNSの基本技術について理解させ、その上で活用法を例示している	2の測定方法が分かりにくい。全ての評価に言える事なので、この到達目標に特化していない。例えば、課題を設定し、業務シミュレーションを実施させ、そこで選択されたソフトウェアが適切であったか、相互に評価しあうなど具体的に設定したほうが良い	モデル化・シミュレーションは文系学部であり、時間も限られていない。しかし、情報の特長を理解するために、技術的な知識はリテラシーに含めていく。目標には「モデル化とシミュレーション」であり方を考え、課題発見や将来展望について議論できる」という表現が普遍的で良い	デジタルの理解は重要だが、情報システムの動作原理云々は、リテラシーから逸脱している感がある。本定を理解するために、技術学部では、Windowsの設定変更ができるレベルの知識提供に留めている	文系学部ということもあり、この範囲は全く実施していない。技術・手法の存在は伝えていくが、実際の活用はリテラシー外の範囲だと考えている	2は文系学生であった場合、何のために必要なのか理解できない。これは分業共通のガイドラインであるため「システムをモデルとして捉え、フローとして図式化できる」程度が適切だと考える。これだと文系学生においてもビジネスの役に立つ。よって、リテラシーは理解に留めるため、必要な知識として提示できる	リテラシーは初年次教育として、在学中、卒業後において重要な位置づけである。しかし、実践や知識の確認はリテラシー教育の中でもなく、在学中のゼミや課外活動、または日常生活で体験的に学ぶものだと考えている。そこで培った経験が卒業後の社会で役立つ。よって、リテラシーは理解に留めるため、必要な知識として提示できる		
246						②の「実務家とも連携」の内容が不明瞭				到達度1と関連するが、実務家の役割が不明瞭	リテラシー教育としては高度すぎるのではないかと感じる。		リテラシー教育としては高度すぎるのではないかと感じる。			到達度3の判定だけでよいのではないかと感じる。	情報リテラシー教育のうち、一般的な部分は初年次教育の枠内で、医療現場で必要な専門性の高い事例については上の学年でと考える。
247	現在はPOリテラシーが中心で、ガイドラインのような情報リテラシーについては、実施できていない。一般科目など折に触れ紹介されているが、学生が主体的に判断する能力は初年次教育段階では、困難が	内容には賛同するが学生の理解度は低いと推測される	内容には賛同するが学生の理解度は低いと推測される	内容には賛同するが学生の理解度は低いと推測される	事例を挙げさせるだけでは、実践的な能力としては身につけておらず、知識だけに終わると思われる。1、3についても2の「説明させる」という段階まで踏み込ませる必要があると思われる	本学部では、PBLにより「共同作業」程度で充分と考えている。大学生生活で必須の技能だが、「情報発信」の箇所はリテラシーで行う時間がなく、その後でゼミ活動などで実践的に体験させている	一般のユーザには情報通信技術の選択権には制約があり、適切に選択することは困難と思われる	目標設定としては賛同する	目標設定としては賛同する	実務家からの評価を受けることは困難	賛同するが学生の到達は困難と思われる。リテラシーレベルとは思えない				到達度試験が準備されれば、是非活用したい	スキル習得に重点が置かれており、スキル活用までをリテラシーとしてはとらえられないと感じる。一般科目との連携なども重要と考えるが、協力を得るのは困難な状況	
248	高校教科情報に含まれる内容であり、関連付けが分かるとうい	高校教科情報に含まれる内容であり、関連付けが分かるとうい			自主的な行動を醸成するためにもう少し高いレベルが必要では	他科目との関連付けが必要である				上記の説明だけでは、評価の実施は難しい	当該科目だけでは習得が難しい		当該科目だけでは習得が難しい			上記の説明だけでは、評価の実施は難しい	ゼミを含めた多くの演習科目と関係があるので、関連つけた体系が必要である
249	全体としては賛同するが、個別には賛同できないことがある	本件を到達度3とすべきであると考え、また、「発信者の意図を理解した上で」という部分には賛同できない。本件は「読解」の問題であり、情報の授業で取り扱うこととは思えない。ネット上の情報は1次情報源ではないことが多いこと、また、部分的引用などによる関連した情報が溢れている場所であることを理解する。に本件を限定すべきである	本件を到達度1に設定すべきと考える。実際にトラブルとなったとき学生にとって最も深刻な事態となるからである。なお、グループスタディを推奨しているようだが、効率面でこれには賛同できない。自動車教習のように、実際に起こったトラブルのケーススタディを行わせるのが最も効果的だと考える。また、法律についての理解を促進させる必要もある	課題では無く、試験で確かめるべきことだと考える。【到達度の測定方法】ではなく、【到達度の測定方法の例】として欲しい。全体を通して、書き方が提案に見えない。ここまで細かな内容指定されると、従うべき学習指導要領を示されているように感じる	ここで言っているのは学問分野によって、異なるデータやソフトウェアが用いられている、ということを理解させるということなのだろうか、何を意図しているのかがよく分からない。到達度として設定するほどの必要性があると思えない(料理に関して、料理関係のデータベースを使った方が良く、というのは習わなくても当たり前のことだし、各専門分野が					【到達度の測定方法】ではなく、【到達度の測定方法の例】として欲しい。全体を通して、書き方が提案に見えない。ここまで細かな内容指定されると、従うべき学習指導要領を示されているように感じる						特になし。しかし、現実には難しい到達目標のように感じる	卒業時に満たすべき学主力として、高すぎる目標設定が特に到達目標3で行われているように感じる。また、「情報に特化した授業」に割ける時間と設備の余裕はそれほど無いのが現実である。それにも関わらず、あまりに要求事項が多い。情報に特化した授業以外にも、情報化を推進する、ということかもしれないが、これは何らかの強制でもない限り不可能である
250	教える努力をしている	情報リテラシー教育を超えた目標のように思う	情報リテラシー教育において重要である	情報リテラシー教育を超えた目標のように思う		重要だと思うが、教えられていない										情報リテラシー教育の重要性は、全学的に理解されていると思うが、全学的な体制が整備されているとは言い難い	

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え					
	到達目標 意見	到達度			到達目標 意見	到達度			到達目標 意見	到達度								
		1の意見	2の意見	3の意見	意見	1の意見	2の意見	3の意見	意見	1の意見	2の意見	3の意見		意見				
251	そもそも『情報社会』とは何かについて理解することが第1の到達目標ではないか。	この通りで結構です。	この通りで結構ですが、「行動することができる」をどのように測定するのか難しいのではないのでしょうか。	この通りで結構です。	測定方法1について、情報の何を識別させるのかが曖昧である。測定方法2について、内容はこれよりよいが文章表現が適切でない。「社会で情報通信技術が有効に使われている事例をあげ、果たしている役割や特質について説明させる。情報社会で遭遇する様々な危険・不安について列挙させて利用者の視点から被害を防止するための方法を説明させる。」でよいのではないか。到達度の箇所でも述べたように、到達度2の「行動することができる」をどのように測定するのかについて、「説明できる＝行動することができる」とはいえないのではないのでしょうか。	説明文の「主体的に情報創り出し」の表現がわかりにくい。「創り出す」の中に既に「主体的に」という意味が含まれているのではないか。	この通りで結構です。	この通りで結構です。	課題や目的によっては情報通信技術を活用しないコミュニケーションが最適な場合もある。	2について、「教員間」が情報リテラシー担当教員間なのか、情報リテラシー以外の科目の担当との教員間なのか不明である。もし後者の場合、そのような教員間の連携は非常に難しい。	この内容を情報リテラシー教育に盛り込む必要があるのか疑問がある。「データの表現方法や情報通信技術の仕組みと情報通信システムの役割を理解し、社会に有益なシステムの在り方を考察する。」については必要であるかもしれないが、「モデル化とシミュレーションを用いて課題の発見・明確化・分析・検証を行い…」については、情報リテラシー教育の中で取り扱わずとも、専門科目におけるPBLで行ったほうがより効果が上がると考えられる。	この通りで結構です。	この内容自体必要ないと考える。	この通りで結構です。	2について、この内容自体必要ないと考える。	情報リテラシー教育は、情報リテラシーの授業だけで完結するのではなく、あらゆる分野の授業における学修活動での実践を通じて身に付けるものである。しかし、教員自身の情報リテラシーがそれほど高くない場合が多いので、それを期待するのは難しい。まずは教員の情報リテラシー向上を目指す必要がある。		
252	説明がまわりくどくわかりにくい。もっと感けるに書く方がよい	意味が全体的に不明瞭である。またピントがずれている				説明がまわりくどくわかりにくい。もっと感けるに書く方がよい	全体的にピントがずれている										情報技術については影の部分もしっかり理解させた上で充分に使いこなせるようにする。社会で一般的に使われているソフトウェアは使いこなせるようにする。使えるだけでなく中身(計算の方法等)も理解していることが望ましい。社会における情報システムについて充分理解し組織の中に置いて自社システムについて発言できる人を育てる。自社で発生した問題を分析し解決できる人を育成する。以上のことは現在の等学部のカリキュラムで実現可	
253	計画しようと考えている。	必要と考える	必要と考える	必要と考える		既に取り組んでいる	知識として知っておく必要がある	必要な能力、ただし教える教員が少ない	課題を発見させ解決させるための企画書を書かせる	技術的な仕組みの深い理解は不要と考える。社会の仕組みの中で手段としてのITをどう利用するかを理解	動作原理はあまり必要と考えないが「情報を科学的に捉える能力は必要			3が望ましいが現実的には1で測定されたい				
254	既に取り組んでいる	妥当である	情報社会の恩恵は明らかでその特徴性に着目すべき	妥当である	2が長文で難解である、その理由は到達目標2の設定にある	既に取り組んでいる			最適なコミュニケーション戸は何か		妥当である			標準化された到達度試験は実際にあるのか?			大学として情報リテラシー教育を普及させるためには総合情報システム部と各学部との連携が重要。これからの時代、情報リテラシー教育は重要になることは間違いないと思うが、どの程度何が必要かは充分吟味する必要があると思	
255	専門外であり教えられる教員がいない									1は専門的すぎると思う2は具体的なイメージがわからない	具体的なイメージがわからない							
256	検索する能力には問題ないが利用する能力が低い、このことをレポート作成時には説明している																	
257	情報リテラシー教育としては最も重要な目標のひとつと感じるが、社会倫理や人権侵害の問題なども含むので、目標到達のためには専門家の支援が必要と感じる	賛同はできるが到達達成度の評価が難しいと思う。道徳やモラルの教育となるので、到達度の評価を単に学生の課題遂行から判断することは困難かもしれない。	「光と影」とあるが、少し抽象的な表現ではないかと思う	到達度2の内容に含まれているように思う。言い方を変えて繰り返し尋ねられているように思う。一方で、到達目標や到達度が抽象的な表現であり、どのようなことを具体的に目指しているのか少しわかりにくい。測定方法では「事例を挙げ」などと具体的な解答をもとめているならば到達度や到達目標も具体的な事例を挙げて説明した方がよい分り易いと思う。	もう少し分かり易い到達目標を説明した方がよいように思う。	到達度3との違いが判然としないと思う。	情報リテラシー教育の範囲にかかわらず以前から指摘されていることのように思う	到達度1との違いが判然としない	2についてはスキルを持つ担当教員の確保や関連事項に従事する余裕が担保されることが前提にならなければならない	「モデル化」の定義が漠然として捉えることが難しい。そのため、何をどのようにすれば目標が達成できるのか解りにくいように思う。	賛同するがかなり高度な専門的教育が必要とならぬ	モデル化してシミュレーションスタディーを実施することは情報リテラシーに限った話ではなく、工学的アプローチのひとつであるが、情報リテラシーにおけるモデル化とは何を指すのか判然としない	賛同するが「システム」の意味の範囲が広すぎて到達度を設定することが難しいのではないか	情報処理技術者試験が到達度測定方法にならないのかと思った。		SNSなどを通して個人からの情報発信が盛んに行われるようになったが、情報発信による危険性も高まっている。特に他者や自身の権利が侵害されるなどの危険性を常に意識させることは大事であり、情報リテラシーの基本的教育体制作りは重要である。		
258	既に取り組んでいる	適切な教材を選ぶのが難しい					到達度2との区別が分かりにくい	到達度1との区別が分かりにくい	「最適」の定義が分かりにくい	実務家からの評価を受けることは重要と思われるが人材不足である	リテラシーの範囲を超えている	この程度は必要	モデル化、シミュレーションがどの階層のものなのか明確でなくわかりにくい	これを実施するには様々な困難があると思われる			情報リテラシーというものが特別に存在しているわけではないと思う。メディアは道具であり、その使い方を教えるのもすぐに交換してしまうものである。もっと本質的な情報に対する考え方を学ぶべき	
259	今、若者は考え判断する代わりに検索する。ICTを活用して、主体的に考え判断して行動することは重要である	発信者の意図を読み解く能力をどのような手法で教育するか、難しい。マインドの養成が必要である	情報社会の影の情報・エピソードの紹介、社会心理学的分析が必要である		発信者の意図を推測する一般的な手法はあるのだろうか? 2の説明はグループワークをベースに、プレゼンさせるのが良い	課題発見を教育するのは難しいと思う。問題解決に情報通信技術を活用する教育はより容易であろう。	情報通信技術を選択が何を意味するのか分からない。	先ず各人が専門知に基づき判断できるレベルに到達しなければ、情報通信技術のノウハウだけでは到達できない。	ネットでのコミュニケーションのベースにリアルな世界でのコミュニケーション能力が必要であることを忘れてはならない。	学生が学習活動と学習成果を自らの「学修ポートフォリオ(学習ログ)」に記録・公開する。何をどのように学んで、その成果は何かを蓄積する。これを到達度の測定にも活用する	モデル化とシミュレーションのベースとなる知識は何であるか? それも情報リテラシー教育の中で教えるのだろうか? 「情報通信技術の仕組みを理解し説明できる」レベルが妥当かと思う	情報を科学的に捉えることができるは不要では? 「動作原理・構成を理解し説明できる。」で良いと思う。	これを情報リテラシー教育に含めるには欲張り過ぎだと思う	これを少し欲張り過ぎだと思えないものもあるのか? 2-3は意欲的だが少し欲張り過ぎた感じがする	IPAのITパスポート試験は目的に利用できないか? 2-3は意欲的だが少し欲張り過ぎた感じがする		ICTを個人の能力の増強と捉えるのではなく、増強してはならない。既存システムの問題点を考察し、改善策を検討する「レベル」が妥当ではないか	
260	表現が文学的すぎて理解しづらい。「情報化社会の進展に伴う法的倫理的諸問題の基礎を正確に把握し、流布する情報を批判的に取捨選択できる市民としての教養・能力を涵養する」とか	ただし、意図という表現にはやや違和感「意図せず無責任に流布される情報をも批判的に解釈する力が必要では	表現が抽象的。「インターネットの誕生から普及、現在に至るまでの歴史を学び～」とか	法的に犯してはいけない事柄、倫理的(例:人権上)に犯してはいけない事柄を整理する	1. 多様な方法、2. SNS、Twitterなど具体的に示した方が				教員間の部分がよくわからなかった	モデル化とシミュレーションの活用という部分に現実の本学部学科での教員との乖離を強く感じる	ハードの実物を見せたり、プログラミングを全ての学生に課すことが有効な教育とは思わない	表現上、モデル化とシミュレーションがどのように問題解決に資するか文芸部などの能力が先ず無いことには情報リテラシー教育の効果がない。また、そのような個人の基本能力の開発にも資するような情報リテラシー教育が可能ならば素晴らしい。知識基盤社会は学習基盤社会で学習能力の高い人が有利な社会である。情報リテラシー教育の中にICTを活用した学習能力を高めることを目指した内容も必要と思う。教育学でいうところの機能的学習環境(学習者にとって、学んでいることの意義が見えやすい学習の場をICTの活	全学生にシステムの構築を考察させるのか	表現上、モデル化とシミュレーションがどのように問題解決に資するか文芸部などの能力が先ず無いことには情報リテラシー教育の効果がない。また、そのような個人の基本能力の開発にも資するような情報リテラシー教育が可能ならば素晴らしい。知識基盤社会は学習基盤社会で学習能力の高い人が有利な社会である。情報リテラシー教育の中にICTを活用した学習能力を高めることを目指した内容も必要と思う。教育学でいうところの機能的学習環境(学習者にとって、学んでいることの意義が見えやすい学習の場をICTの活	ネット上の情報の収集については時に学生の方が進んでいる場合がある(多い?)。情報倫理で伝えるべき内容を常に更新する必要があることを痛感。情報発信能力をどのようにつけさせるか学科として取り組み始めた段階	スマートフォンやタブレットにより却って学生の情報スキルが(着しく)低下したように感じられる。上記例示に列挙されていることはもちろん、学生の情報スキルを教育のできるだけ早い段階で高める仕組みを作る必要がある		
261	「光と影」という比喩表現は使わず、「長所と短所」など明確な表現を使うことが望ましい		「安全に配慮」の趣旨が不明確ではないか		2. の測定方法が読み取りにくい。1文に書き下ろさない(測定方法を4ないし5程度に増やすこともありうる)		「他者との協働」は掲げなくてよいが、到達度は3. にこれが挙がっている		「最適なコミュニケーション」というのはありうるのか、むしろ適切な情報通信技術を活用して「コミュニケーションを行う」というべきではないか	分野・領域によって「代表的な情報通信技術やソフトウェア」は異なり、教育・研究の手法によっても同様のことが起こりうる点が配慮されていないように思われる								

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え				
	到達目標 意見	1の意見	到達目標 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達目標 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見		到達目標 2の意見	3の意見	測定方法 意見	
262	授業科目として開講して「情報倫理」科目を開講しており、到達目標の一つとしている。ビデオ教材などを用いているが、結論がこれで正しいのか不安を感じることがある。	情報リテラシー教育の中だけでは到達度の判断が難しい	時代に応じて変化するために対応に苦労している部分がある	情報リテラシー教育の中だけでは到達度の測定が難しい	授業展開がイメージしづらいので演習例を示していただけで助かる		授業で扱ってはいないが、到達度を測定できる適切な演習テーマを用意するのに苦労している	重要なテーマであり、授業の中で積極的に取り入れている	授業で扱ってはいないが、到達度を測定できる適切な演習テーマを用意するのに苦労している	情報リテラシー教育の中では十分な演習が行えないと考える	情報専門教育で扱うことが望ましい内容であると考えている	基礎的な内容であり、授業の中で取り入れている	情報リテラシー教育の中では十分な演習が行えない	情報リテラシー教育の中では十分な演習が行えない	情報リテラシー教育の中では十分な演習が行えないと考えている	学生のスキル格差が大きく、計算機を使う技能の修得に時間を割かざるを得ないのが現状となっている。	
263	回答でBを予想すること自体が異常。学生を含めて健全な常識を持っていません。	回答でBを予想すること自体が異常。学生を含めて健全な常識を持っていません。			そのような測定に時間と労力を割く必要があります。学生はそれほど無能ではありません。	これと同じことを、情報通信手段の新旧はあっても、教育で行ってきています。	文章として(文字の並び)としてみれば立派ですが、空虚な誰でも書ける研究に値しない質問だと思います。	この回答を建設的でないとお考えならさらに(ご研究に)失望を覚えます。		測定されねばならぬほど学生を含めて無能ではありません。ご研究として測定値があればご研究の体裁はととのうでしょうが、測定される人、する人の時間を割くほどのことでしょうか。	どの学問分野でもシステムとしてのモデル化 シミュレーションは従前より教育されています。これは高等教育そのものです。	情報のデジタル表現かアナログ表現かによらず、科学として従前より教育されています。	これも行われています。	科学の手段のひとつについての考察をする人がいても問題ありません。	卒研などで(結果として)上記の到達度を評価していただきます。学生はかなりのその方面の能力を持っており、また、教育にもこの分野が活用されています。	情報リテラシーと云う40年近く昔の言葉が死語になりつつあると思います。学生はかなりのその方面の能力を持っており、また、教育にもこの分野が活用されています。	
264	適切な技量と資質を備えた教員が不足している	間違った情報を識別できない	安易に情報に左右されない	自分の入力情報への責任	列挙させるだけではなく考え、意見をのべる	説明文の協働することは重要であるが、到達目標の内容ではない				実務家からの評価や説明は少ない	情報リテラシー教育としてはハードルが高いのでは					情報処理教育をリテラシーから倫理形成まで一環した教育体制が整っていない	
265	1回生から該当する内容の講義科目および演習科目で、既に取り組んでいる		安全に配慮してという文章が少し抽象的で分かりにくいと思います			情報通信技術を問題解決に活用できることは学生にとって必要なスキルだと感じる			教育組織内のSNS等により、日常から学生の情報通信技術の利用状況を把握し、指導、評価する	到達度2については、具体的に課題を与え、それについて、適切な情報を検索、分析できるかを一つの評価基準にしてはどうかと思う。到達度3については、ソーシャルメディアの活用状況を一つの評価基準にしてはどうかと思う	モデル化とシミュレーションについては、コンピュータを利用したモデリング&シミュレーションツールをいかに利用するか、キーワードになると思う		モデルリング&シミュレーションソフトを利用して適切な分析ができていくかを評価する			LINE、Twitter、Facebookなどの一般的なSNSでの学生の利用状況を監視し、適切な指導をすることは難しいので、学内にSNSを設置し、情報交換、コミュニケーション法を日常的に教育することが、重要であるように思う。また、学生達が興味趣向のために活用しているスマートデバイスをいかに学習、将来の仕事に活用していくかを体感できるように教育コンテンツおよび教育環境を改善して	
266	情報メディア学科では、平成25年度より1年次の情報倫理(選択科目であるが、ほとんどの学生が履修)において、取り組んでいる	メディアリテラシーに対する理解と考えるとよいが、「情報の信頼性」「情報の信ぴょう性」の方が適切では	被害防止に対する対策、情報の受信者としての責任と考えてよい	少し表現が、一般的で大雑把な気もする。もう少し、具体的に、分かりやすくなった方がよい。「他者に配慮して」、説明文にある「他者の権利」のことか。ここは、主には、情報の発信者としての責任、情報社会における個人の責任か。なお、説明文にある「知識・技能を修得する。」については、特に、技能となると、習得という表現が適切ではないか	1. について、「情報を識別」は、意味がよく解らない。前者は、発信された情報に含まれる発信者の意図を、後者は、情報の信ぴょう性を判断する多様な方法を列挙させることか。2. については、被害防止までにとどめ、「情報を発信する者が遵守すべき事柄と負うべき自己責任の範囲について、事例をもとに説明させる。」については、3. の到達度の測定方法とする。3. については、2. の到達度が大雑把なため、この測定方法もわかりにくい。なお、情報の活用方法については、初等、中等教育までの到達目標と考え、削除したほうがよいのでは		「協働して「知」の形成や開発に携われるよう、…」に対するニュアンスや「問題解決」という表現が、この到達度1~3のなかには、出ていないように思う。到達度を3として、「具体的な問題解決に対して、情報通信技術を適切に活用することができる。」のようにした方がよいのでは。また、「協働して「知」の形成」を強く打ち出すのであれば、「情報通信技術を活用して合意形成を行う」のような表現が出てきていいように思う	到達度1にする	到達度2にする。「最適な」という表現は、なくすか、もしくは、「適切に」に変える	2については、具体的方法は難しい。なお、必要に応じて実務家から評価を受けさせる。については、到達度の内容が、先に述べた「問題解決」で、その内容が、社会における具体的な内容になっていけば有効である。また、到達度が3までであるのに、測定方法は2つ(同じ)でよい	大切な内容であるが、モデル化する対象が、学部・学科、専攻によって、ずいぶん異なると思う					到達度では、「情報通信システム」と記述されているが、対象を広げる意味合いから、「情報システム」としての方がよいと思う	第1に、情報リテラシー教育は、多くの大学で共通科目として実施されている。したがって、情報社会で生きていくためには、メディアリテラシーや情報倫理の内容は大切である。学習指導要領では、「情報モラル」をすべての科目等の中で実施するようになったが、大学においても、情報倫理に関連する内容を必修とする必要があるかもしれない。第2に、高等学校の共通教科情報科の内容をリメディアル教育として実施し、その内容を理解させておくことも大切である。特に、アルゴリズム、モデル化、データベースなどを学んでいない学生が考えられる。第3に、社会に出た時、職業に就いた時にも、役立つ内容でなければならない。到達目標にある、問題解決、モデル化の考えなどは、将来も役立つ、大切な内容である。なお、学部・学科によって、異なる内容を取り上げないと興味・関心を持たせることができないかもしれないので、情報リテラシー科目で、教職履修者には別内容として実施している。もし、実習のみで行われているならば、再検討の必要がある。なお、体制については、教養科
267			「光と影」といった表現はわかりにくいように思います。		運用面に配慮した測定方法が開発されると良いように思います。					運用面に配慮した測定方法が開発されると良いように思います。						運用面に配慮した測定方法が開発されると良いように思います。	
268	一般的すぎて、範囲が広すぎる	「情報を読み解く」の定義は？	「光と影」みたいな素人の言葉は使わないほうがよい	「社会の一員としての責任」とはなにかがわからない			「適切に選択」「適切」の定義は？	「情報を検索・収集…」量が多すぎて的が絞れない	「適切」と「コミュニケーション」の定義がない	「モデル化とシミュレーション」とは何を指すのか？	動作原理などはリテラシー教えない	「モデル化とシミュレーション」はリテラシーではできない	これはもっと前の段階の到達度でしょ..			実際に作業させることを中心にしたほうがよい	
269	趣旨には賛同いたしますが、「光と影」という抽象的表現は多様な解釈が可能であるため、リテラシー教育に不向きではないかと考えます。	前述の通り「光と影」は「有益性と有害性」などの方がよいのではないかと考えます。			1は効果的であろうと思います。2については有益性・有害性の認識および自己防御にとどめ、発信者の遵守事項・自己責任は人権や著作権などの権利侵害の問題とも絡むので3に入れるべきではないかと思えます。	特になし。これで結構かと思えます。		伝達と発信の意味が一部重複しており、混乱を招く恐れがあります。	おおむね賛同いたしますが、もう少し具体的な記述があってもいいのではないかと考えます。	1については賛同いたします。2は評価シートの枠組みをある程度指定しないとかなりばらつきが出るかと予想されます。また実務家とはどういう立場の人を指すのかの定義が必要かと思われまます。	いずれ必要になる事柄であろうとは思いますが、現在の学生レベルから考えて内容がかなり高度であり、現状ではリテラシー教育に含めるべきか疑問です。本学では担当できる教員は少なく、理解できる学生も少数であろうと思われまます。	「デジタル・コミュニケーション」をテキストに、これらの内容を取り入れたリテラシー科目「IT入門」を開講していましたが、担当した他の教員から学生がついてこれないとの指摘があり、内容をより平易なものに変えた経緯があります。	「デジタル・コミュニケーション」をテキストに、これらの内容を取り入れたリテラシー教育にそぐわないと考えます。	社会システムとしての情報通信を批判的な見地から考察し、そのうえで有益性を確保する方策を考えることはぜひ必要だと思えます。	1, 2は前記理由にて賛同いたしません。3については賛同いたします。	情報リテラシー教育には、純粋に技術的・知識的な文字通りの「読み書き」的教育の側面と、いわゆる情報倫理にかかわる善悪の教育の側面があります。前者については本学においてもある程度体系的な教育を施せる体制をとっておりますが、後者の教育は「禁煙の徹底」と同種の困難さを擁しており、これは知識授与型の一般的な講義はもとより、ケーススタディを用いても至難であるといわざるをえません。私見ではありますが、効果的な情報リテラシー教育を構築するには、純粋にリテラシー教育を第1階層、情報倫理教育を第2階層として階層化し、第1階層では情報系教員を中心に、第2階層においては情報系にも造詣の深い倫理学分野の教員を中心としたチームを構成して教材および教育法の開発を行い、試行錯誤を繰り返しながら体系を構築してまいります。	
270																情報リテラシー教育は、単なる情報スキルの習得ではなく、社会での活用や実践に重点を置くべきである。その為、情報リテラシー教育において、PBL、Activelearningをより実践すべき	

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え								
	到達目標 意見	1の意見	到達目標 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達目標 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見		到達目標 2の意見	3の意見	測定方法 意見					
271	本年度よりカリキュラムを大幅改訂し、既に取り組んでいる。半期15コマの中の2コマを光と影それぞれに割り当てているが、知識・技能として十分に定着できるようにするには、もう少し時間を増やす必要がある。	授業の中では、データベース検索を含む様々な情報検索手法やその意義について教えているが、様々なケースにおける最適な検索手段の選択について学習する時間がとれない。	初年次学生が主体的に行動することができるようになるには、専門教育を含む大学4年間の中で系統的に学習させる必要がある。半期では到達しえない目標である。	重要な目標であることは認識しているが、やはり大学4年間をかけて学習していく必要がある。初年次学生に対しては、基礎的な部分の演習にとどまっている。	方法や課題の列挙だけでは不十分であり、現実的な応用課題を出してそれを解いていく段階において理解を深めていくことが、知識の定着には不可欠である。	当センターの行っている授業では、学生が様々な技術を使いこなすことにより課題を解いていくことが必須となっており、半期での修得を目指している。					到達目標1と同様であるが、説明だけではなく使いこなす能力の獲得が重要である。応用的な課題のなかでの理解と修得を目指している。	どちらかというと2年次以降の目標であり、当センターの担当範囲からは外れている。専門教育を含む全学的な検討は必要である。	②の実物を見せて構成を理解させることには意味がない。私の授業では、十年ほど前に発売されたスケルトン・ハードディスクを使用してハードディスクの動作を見せているが、そろそろSSDの時代であり、ソリッド・ステート(の外見だけ)を学生に見せたところで、構成について理解させることなどは到底不可能である。	当センターの担当範囲外の授業内容である。	重要な目標であることを認識しているが、当センターの担当範囲外である。		「情報リテラシー」という用語自体、古めかしい印象を与える。いわゆる寺子屋的な「読み・書き・そろばん」を想起させる。情報リテラシーという概念が、情報基礎教育にもこういったなんらかのパラダイム・シフトが必要である。当センターの授業内容は、こういったことを意識しながら本年度大幅改訂した。				
272		「理解」では不十分。多角的に検討することが必要。								企業の使い方ではなく、大学生生活のニーズにあった使い方という視点も有用では。	「モデル化と…」の部分は、どのレベル・程度を目指すのかもよるが、リテラシー教育というよりも学部教育ではないかと考える。		コンピュータを活用した試行錯誤、ならありうらと思う。			学部教育の高度化にスムーズにつなげられるよう、組織間の連携がさらに重要になっている。					
273						むしろ、情報通信技術を使わずに問題解決をすることができ力を養う必要もあると思います					記載の内容が漠然としていて、意図されていることがわかりません。私の理解する範囲では、学生がこのようなことをできるようになるのは極めて困難です。		無理と思われる。		上記記載が漠然としていて判断困難ですが、一般的に考えれば、かなり困難な課題です。						
274	より充実した内容を計画しないといけない				3の測定方法が授業内容を考えて妥当ではないでしょうか										3の測定方法が妥当かと思えます	必要不可欠であるが、カリキュラム上操作スキルの次に位置づけられることもあり、測定が難しいかと思えます					
275						暗記科目になってしまう															
276	外部委託の授業であるため深く取り扱うことはできない	外部委託の授業であるため深く扱うことはできない	外部委託の授業であるため深く扱うことはできない	外部委託の授業であるため深く扱うことはできない	何を持って到達とするかの尺度が難しい	到達目標2の内容についてはよく理解ができ賛同するが、その説明文は到達目標2の内容を限定しているように感じる	広い意味では賛同するが、あまり重要であるとは思えない	実際には細分化すべきであるかもしれない。	到達目標1と同様広い意味では賛同するが、具体的などの観点で評価するのかがわかりにくい	測定方法が不明確に思える。		リテラシー教育であってもこの到達度の内容は重要であると思う。	リテラシー教育としては必ずしも必要ないと思われる。	文の前半は特に重要だと思われる。	標準テストの開発を期待している。	カリキュラムの仕組みを構築中である。					
277	外部委託の授業であるため深く取り扱うことはできない	外部委託の授業であるため深く扱うことはできない	外部委託の授業であるため深く扱うことはできない	外部委託の授業であるため深く扱うことはできない	何を持って到達とするかの尺度が難しい											必要性を感じない	カリキュラムの仕組みを構築中である。				
278	趣旨を踏まえ、全学生に教育すべきだが、広く浅くであれば可能だが具体的に指導すると、担当教員、時間割編成の面で課題が多い。	いずれも具体例を用いて、説明する段階が必要。	いずれも具体例を用いて、説明する段階が必要。	いずれも具体例を用いて、説明する段階が必要。	方法1の「発信者の意図を理解し、…」という部分は、指導上、最も難しいと思われる。	今後、ますます大学教育として必要となる部分と思う。	特になし	特になし	「最適な」という部分は具体化する際工夫が必要。	方法2については、関係する教員間での共通理解が前提であるため、授業を連携して行うことについての雰囲気作りが不可欠と思う。	趣旨に異論はないが、教育対象の学生のバックグラウンド(学科など)の違いが成果に直結する。従って、学科により、結果は大きく違ってくると思われる。	ある程度、学習成果が期待できる。	学生のバックグラウンドにより、学習成果は大きく異なる。	情報関連以外の知識なども必要となる部分と思う。	概ね賛同するが、適切な教材を準備できるかどうか次第と思う。	全学的には最低限の教育体制は確立されていると思うが、社会の情報化の進展に応じて迅速に教育内容を改定してゆくことは現実には多くの困難(人材、経費etc)を伴っている。					
279	本学科では取り組みがバラバラで連携されていない。				本学の現職者に1～3を指導し測定できる人材が少ないかもしれない。					実務家の存在、体制が重要である。	本業基礎的なことは高等学校「情報A～C」、「数学B」で学ぶ機会があるにもかかわらずほとんど実施されておらず機能していない。理想的には、目標3の基礎内容は高等学校で全員が学び、大学では、各学科の実践に側したモデル化とシミュレーションを指導できるとよい。(例えば、教育心理と科学実験の統計処理はそれぞれの実測データを使う方がリアルで					1の標準化された到達度試験があればこのような取組みが実現しやすくなる。ただ、3の「批判的に考察させ」はネガティブな誤解を生みそうで、言葉の表現としてよくないと思う。					
280	既に取り組んでいる。	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	上記11に関しては既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	既に取り組んでいる	上記2、3については既に取り組んでいる	学生の習熟の度合いを調べる方法を確立することが課題である。					
281										到達できるカリキュラム作成ができるかどうかだと思います						理想ではあると思うけれども、小規模の文系系大学である大学ではそれを行いための体制を作ることが難しい。大学の種別ごとに分ける方がよい	小規模文系系大学では、ここが目指せればよい方だと思う	ここまで、できれば理想	小規模文系系大学では難しい気がします		
282	「情報・基礎倫理」(必修科目)を設けて、教育を実施している	リテラシーとしては高度なメディアリテラシーに属するため、情報教育の範疇を超えており、教育は容易ではない	インターネットが生活に欠かせないツールになったため、積極的な利用を前提とした教育が望ましい	最低限の倫理である	いずれも程度の高い到達度の判定に有効であろう	情報技術は本来主たるものではないが、手段として利用できないことが不利になりつつあるので、欠かせなくなっていると考え				到達度の客観的評価は難しい	高度に専門的な知識と結び付けられる能力で、専門教育の実践的成果として情報システムの利用が立てられるべきである					高度に専門的な内容を含むので、当該分野での評価基準に任せるほかない	専門教育・教養教育と結びついた実践的なリテラシーとして習得できているか疑問がある				
283	重要なことであると考え賛同する				測定について質問内容の提案があるが、回答をどう評価するか示してほしい	技術の活用以前に「課題発見」こそが重要なことであるとは考える	1、～3、のそれぞれの違いがわかりにくい			2 について「実務家から評価を受けさせる」ことは難しいのではないかと	前半の内容はわかるが、後半の内容がわからない	重要なことであると考え賛同する	何を対象とするモデル化やシミュレーションが不明である	重要なことであると考え賛同する	2 および3、は、抽象的すぎ、何をするか不明確である	「地理空間情報活用推進基本法」(平成19年施行)および同基本計画(平成20年閣議決定)の方針に則った情報リテラシー教育					
284	一般論としては分かるが、体系的なコンセンサスが確立されていない現状では担当教員が各自の経験から具体的な授業計画をたねばならない	発信者の意図には善意だけでなく悪意、作為、錯誤もあることを前提とすることが必要	光と影は時代と共に進化し変遷するので、現在の状況だけを理解するのではなく、将来の状況の変化に対応する能力も必要	責任には情報そのものについて責任だけでなく、それが他者および社会に及ぼす影響についての責任も含むことを明示すべきである	現実の対応としては学生に列挙させる「説明させる」が難しいかと思われるが、それをペーパーテストのようなものとして行うのでは不十分であろう。演習や実習の中で実際に体験させるなどの対策が必要ではないか	到達目標では技術活用の目的が課題発見と問題解決としているが、説明文では情報の創出と発信が目的となっている。情報の創出が課題発見と対策の検討で、その情報を発信して相互理解ができてはじめて問題解決になるという意味であろうが、それならば到達目標にもそれが分かるようにすべきである。課題発見と問題解決そのものは到達目標3に集約すべき	「適切に」の具体的な内容が分からない。少なくともそれを判断する基準は明示すべきである	課題発見・問題解決の中心部分が「整理・分析」では説明不足である。情報の評価、分析結果の考察、知識の抽出、モデル化、解答・対策の作成などの重要なステップが忘れられかねない	「最適なコミュニケーション」が定義されていない。まだコンセンサスが確立されていないから、あるいは評価シートの中身が問題であり、それがなければ測定方法とはいえない	情報通信技の仕組みを理解することは到達目標2の一部である。また、システムのあり方を考えることは情報リテラシーの範疇を超えてはならないか。目標も説明文も後半のみにすべきである	これは到達目標2に写すべきではないか	モデル化の前に情報の評価・分析、モデルおよびシミュレーションのあとにそれらの検証が必要である	システムの役割の理解は到達目標1であり、システムのあり方はリテラシーの範囲を超えるのではないかと	各種資格乱発の現状で、協会による資格のようなものを想定するならば反対。モデル化およびシミュレーション(データ評価、結果の検証を含む)については一般論での演習は無理ではないが、情報環境の急速な変化に対応できる能力をつけさせるためには技術面の指導は継続しなければならない。現在、技術面および倫理面での情報教育のあり方を検討する委員会が立ちあがっており、今回のアンケートの結果はその委員会にとって参考になるも、教員について情報リテラシー教育を行う必要がある							
285					列挙させることは問題ないが、それ以外にも新しい問題点がいくつでも出てくることを理解させる											有益なシステムは存在しないことを認識させる					
286	既に取り組んでいます。特に自己防衛IDとパスワード管理に関して	到達目標1については、社会人として当然のこと	到達目標1と同様	ネット社会の一員として当然のことである。特にSNSでは	拡張子や文字コードに関する、拡張子を偽った危険なファイルがあったり、自分が送信する場合「相手に認識されない文字コードを使用しない」等を教えている	現在において、情報はいつでもいくらでも得ることが出来る。重要なことはそれを「自分の頭で考える」ことができ、また発信できることが重要と考える	私はICTを教えているので当然の事です	私はICTを教えているので当然の事です	ICTを使ったコミュニケーションは重要と考えるが、100人規模では難しい	重要と思うが、100人規模では難しい	到達目標3も重要と考えるが、1年度生のリテラシーでは、そのためのスキルを教えることは出来ない。専門的な事までは及ばない	教員免許要件を教えている私にとっては当然のこと	1年度生のリテラシーでは、そのためのスキルを教えることは出来ない。専門的な事までは及ばない	情報科学に係る学生を除く私にとっては当然のこと	私協協などで、TOEICのような客観的で、かつオンラインでできるアセスメントがあれば積極的に活用したい。かつ1年次情報リテラシー担当の教員の立場では、高校における情報科指導要領に沿ったものが	大学在学中、また大学卒業生としての情報科学のためのスキルを教えるのが限度です。FDの一環としてもそのスキルを生かして、ICTを活用した専門教育が必要と考えます					

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え			
	到達目標 意見	1の意見	到達目標 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達目標 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見		到達目標 2の意見	3の意見	測定方法 意見
287	本学では、大学独自の「情報倫理ガイドライン」、「情報倫理要綱(学生向け)」、「同様の記述があり、また個々の教員が実践している情報リテラシー教育のシラバスにも同様の目標が設定されているものが多い。	情報スキルだけでなく基本的な日本語の能力も問われることなのでかなり難しいが、本記述のような到達度と関連した検索の教育の実践を行っている。	セキュリティ教育、とくにユーザー個人が情報漏えいや自分の個人情報を守ることができるようになるような教育を行っている。しかしながら、この部分に際してはあかつなことはたまたまにはあるようである。	掲示板における発言やSNS上の発言等で問題となる事例を紹介し、学生本人が加害者・被害者にならないよう指導している。が、実際にはあかつなことはたまたまにはあるようである。	本ガイドラインのこの記述には具体性が乏しいようである。「情報」にはきわめて多くの意味があるであろうが、その点でも具体性がない。例えば、本学は理系の学生が多いので、科学的記述正誤をネットワーク上で判断できるかどうかを調べさせたりしているが、これはごく一部で、学生たちの「力をつけるためには様々な教材が必要と感じている。	至極ごもつとも、ともすれば何でもWikipediaに頼りながら現状をどうにかしたい気すらする。	①「グループで討議させる」に何の意味があるのか？あまりにも取ってつけたような文章ではないか。	これこそが情報リテラシー教育だと考えている。	賛同はするが、ここに書かれているような①、②の内容について学生たちは実生活でよほど活用していると考え。我々はその効用や危険性などを伝えられるに過ぎない。	抽象的すぎて何のことかた不明	カリキュラム中に入れている。	カリキュラム中に入れている。	これは難しい。できる子は新しいサービスを考え出しそう。	残念ながら、その試験などが広まっていない。	大学生に求められる情報リテラシーには2種類あると考えて授業の作成・実施に取り組んでいる。それは(A)一般的なICT技術のユーザー・社会人として最低限知るべき知識と最低限身に着けるべき技術である。これは多くの人が考えている「情報リテラシー」である。もう1つは(B)彼(彼女)が大学生として卒業するために必要な知識と技術である。本学は理工系の学生が多いため後者は極めて重要で、ここを育むリテラシー教育も求められる「学士力」にとって必要であるとして強く認識している。	
288	適切な教材がない	適切な教材がない	適切な教材がない	適切な教材がない	適切な到達度測定方法がない	適切な教材がない	適切な教材がない	適切な教材がない	適切な教材がない	適切な到達度測定方法がない	適切な教材がない	適切な教材がない	適切な教材がない	適切な教材がない	適切な到達度測定方法がない	このガイドラインについてはほぼ100%賛成いたします。情報リテラシー教育の重要性については情報教育センター所属の教員として十分に分かっており、そのための教育を充実させていく必要があることも理解しています。ですが、それぞれの基礎教育科目をご担当されている先生方のご意見もあり、情報リテラシー教育だけに重点を置くのは難しいとも思います。たとえばグローバルな人材を育成するために英語を充実させる必要があるからといって、先生方に英語で話しながらの講義をお願いするのが無理なように、それぞれの講義で問題解決のためにパソコンを多用する講義をおねがいするのはなかなか難しいと考えます。すべての基礎教育科目でこれと似たようなことが考えられます。そのあたりをどのように折り合いをつけていくのか、そういったノウハウについて情報発信を私情協さんからしていただくと大変ありがたいと思います。また、私情協さんとしてガイドラインだけではなく、最終的なテキスト、教材、評価方法まで作り込んでいただいた方が(あるいはどこかの業者さんとタイアップして教材開発をし販売するなどのほうが)、より現実味があると思います。質保障として、ガイドライン準拠の教材の提示は重要なことだと思います。ほぼすべての大学で欲しているコンテンツだと思。実習を専門にする短期大学生に対して、1単位15コマでは「情報社会に出たときに戸惑わない、自分がネットワーク上で加害者にならない。」程度が限度。情報リテラシー教育は全ての学生に必要なものと考えて、全学部に対して必修化するような体制が取りにくい。
289	「ネットワーク社会」というテーマで1コマ実施	賛同はするが、メール等の意図は国語の分野	授業で解説はするが、学生が行動するかは不明	他者に配慮できるかどうか検証はできない	賛同するが、1コマの授業ではネットと情報の価値と危険性まで。	15コマの中でプレゼンや文書作成もしており、本内容まで実施できない。	学生は通信技術という友だちも、スマートフォンを利用して目的を達成している。	書き言葉による文章表現を経験していないため、ビジネス文書の本文が書けない。	スマートフォンによる友だち同士のコミュニケーションは教員よりも盛れている。しかし、大人とのコミュニケーションは全然ダメ。	情報を専門にしていない学生にここまで実施できない。	情報を専門にしていない学生にここまで実施できない。	情報を専門にしていない学生にここまで実施できない。	賛同するが、時間が足りない。	賛同するが、時間が足りない。	本到達度までやる授業時間はない。	
290																
291	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」					「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」	卒業時に満たすべき学士力と捉えた場合、それを保証できるカリキュラムの仕組みができていない。
292	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」					「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」	卒業時に満たすべき学士力と捉えた場合、それを保証できるカリキュラムの仕組みができていない。
293	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」					「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」	卒業時に満たすべき学士力と捉えた場合、それを保証できるカリキュラムの仕組みができていない。
294	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」					「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」	卒業時に満たすべき学士力と捉えた場合、それを保証できるカリキュラムの仕組みができていない。
295	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」					「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」	卒業時に満たすべき学士力と捉えた場合、それを保証できるカリキュラムの仕組みができていない。
296	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」					「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」	賛同するが、担当科目で十分行う予定はない(「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」)	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	到達目標の記述に同じ	「カリキュラムに充実した内容を取り込む時間的な余裕がない」	卒業時に満たすべき学士力と捉えた場合、それを保証できるカリキュラムの仕組みができていない。
297		到達度が曖昧	到達度が曖昧	事例の列挙では知識の詰め込みすぎない			到達度があいまい	到達度があいまい		1. は意味がない。	何をどうモデル化するかわからない。					現在、情報リテラシー教育に関しては、初年次に多くの科目で別々に実施している。例えば、初年次セミナー、社会倫理、情報基礎実習、プログラミング等。情報リテラシー教育を充実させるためには、科目間の密な連携が必要

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え				
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見		到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	
298	すでに学んでいる学生も多いが、大切な内容であるので、繰り返し教育する意味がある		感覚を要請することが必要である	他者の考え方を理解し、行動することが難しい	到達度の測定はかなり難しい。単純な記憶力の内容ではなく、感性が重要	内容的に先走りすぎの感がある。課題発見、解決力が身につけていない状態で、情報通信を活用する技術を教え込むのは無理					目標2と同じ理由					社会人の基礎知識として非常に重要な内容であり、学力として評価する。しかし、ほとんどの大学では、情報リテラシー教育は、基礎教育科目とし、1,2年次に配当されている。したがって、情報技術の内容と応用方法を教える程度しかできないため、情報検索や情報発信程度しか活用できない。もし、課題発見、問題解決に利用させる力をつけることを考えるなら、4年次に配当する必要がある。私は、情報リテラシーは、あくまで基礎教育として位置づけ、応用力は、専門科目内で結	
299	入門科目の一部の授業回、複数の専門科目ですべてに取り組んでいる		2と3の違いが分かりにくい。2は個人的立場での能力ととらえてよいのか、情報受信者・利用者の立場なのかどうか	2との違いが分かりにくい。3は社会の一員、公的な立場での能力と考えるのか、情報発信者の立場なのかどうか	測定方法としては妥当と思うが、先の到達度の並びと対応させると2と3が逆ではないか。			2の伝達・発信とどう異なるのか、最適なコミュニケーションとはそもそも何が分かりにくい。測定方法にも対応するものがないのではないか	学生間でのピアレビューや実務家による評価は実施、客観性・正確性の確保が困難と考える。	情報通信技術の仕組みを理解すること、モデル化とシミュレーションができることは別の到達目標とすべきと考える。					3について、発表による相互評価、外部評価は大人の講義形態では実質的に困難である	基本的な情報倫理については全学的に教育を行っているが、それ以上の情報教育については学部により違いがある。担当できる教員の数がこの点はやむを得ず、各学部の教育目標に沿った形でよいのではないかと、実務家による評価や学生によるピアレビューは有効であると思うが、実質的に実施は難しいと思	
300	一部取り組んでいる	計画したい	取り組んでいるが、充分ではない	取り組んでいるが、充分ではない		創り出す情報の意味がとらえきれず判断できない	計画したい	取り組んでいるが、充分ではない	取り組んでいるが、充分ではない	評価シート等は大学によるバラつきが小さい方がよいと思われ、実務家を含めた適切な集団により作成し、共有すべきか	取り組んでいるが充分でない					教養、基礎科目における情報リテラシー教育を技能から活用能力を重視する内容に転換すること及び各分野の学修に実践を導入することは可能であるが、それらを統合し、総括するようなカリキュラム、仕組みが見えてこない	
301	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	実務家の定義があいまい	なし	なし	なし	なし	中程度の能力でモデル化は難しい。指導を受けてモデルが作成できるなどの方がよいのでは。		
302	「良いこと」「悪いこと」を知らずして判断できない。			まだ学生へ求めることではない。		安易な問題解決への懸念あり。創造性を考慮			経験が必要		学部生にこの内容が必要か疑問						
303		類似情報との比較を含めた「読み取り」を考えさせている。	危険性の排除という考えを加えて考えさせている。	「嘘」の情報を「公」の情報にする際の恐ろしさも含めて考えさせている	理解できていても「文章表現力に乏しい」場合の評価も考慮したいので					リテラシーの話と資格取得の話が混在しているから							
304										「最適な」の尺度を明確にすることができない。	「実務家からの評価」が実施困難。						いまだに「情報リテラシー」を特殊な分野ととらえ、その能力がたとえ十分でなくても生きていけるという考えから脱却できない風潮が残っている。
305	基礎ゼミナール(1年)で実施済					情報処理科目(パソコン演習)で実施済					情報システム設計科目で実施済						客観的に社会で通用するMOSやITパスポート登録なども単位認定、あるいは情報リテラシーの担保として検討する必要があると思
306										最適な意味が不明	到達度の評価方法が明確でない						
307										2がよく理解できない。							1到達度と達成度の使い分けがよく理解できない。
308																	大学として今後議論する必要がある。
309	妥当と思う。	特になし	特になし	特になし	学生によっては難易度が高いのではないかとと思う。	妥当と思う。	特になし	特になし	特になし	技術の進歩変化に対応可能な枠組みが必要と考える。	妥当と思う。	特になし	特になし	特になし	特になし	3の批判的に考察は批判的に限定する必要はないと思う。	重要だがすべて盛り込むには時間的な制約もある。
310	賛同する																
311	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	2はむしろかしいかもしれない。	特になし。	内容的に高度ではある。	内容的に高度ではある。	内容的に高度ではある。	むずかしいかもしれない。	特になし。	
312						目標については賛同するが、説明文中の「協働」「他者に発信」という内容は目標の文からは読みとれない				「最適な」コミュニケーションとは何か分からないので到達度を評価できないのでは？							
313	既に取り組んでいる。	「発信者の意図を理解した上」の点が不明	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	到達できたが正確に判断できない。	到達できたが正確に判断できない。	到達できたが正確に判断できない。	到達できたが正確に判断できない。	情報リテラシーではないのでは？	特になし。	リテラシーではないのでは？	リテラシー教育において、考察する必要性、考察できないことの重要性がよくわからない。	測定方法としては適切ではないと思います。	現在の大学におけるリテラシー教育は十分ではない。	
314	ケーススタディを行う教育体制が必要である		より明確な例を示してほしい														
315		このレベルに到達しただけでは、十分でないから。到達度2が最低ラインと考えます。			1は不要(理由は前述通り)		このレベルに到達しただけでは、十分でないから。	レベル2と3の順序付けがわからない。	レベル2と3の順序付けがわからない。	レベル1は不要				レベル2の方法が測定方法として適しているとは思えない。客観的な指標として使えない。		必要不可欠であるが、それ以上のものでもないと思う。	
316			2と3の違いがわかりにくい。	2より3の方が上であることの根拠が不明。	到達度に賛同していない以上賛同できない。					2の意味が理解できない。評価シートを配って教員自身は評価をしないということ？	「情報リテラシー」というコトバから想起されることよりも、かなり高度な目標のように見受けられるが、具体的にどういうことを想定しているのかよくわからない。						配布資料の「分野共通に求められる情報リテラシー教育の考察」からして、話が前後したり何度も同じことを言い方を変えて繰り返していたり読みづらい文章である。こういう資料を作る人たちのリテラシー感覚の方が心配。
317	賛同する																
318	適切な教材がないのではないか				測定方法として客観的に定量化できるかが不明である。			情報技術の活用の問題と表現内容の問題が混ざっている。		モデルと現実との差についても言及するべきではないかと思う。		遠信履歴を見せることでネットワークの仕組み等を理解させられるとは思わな					情報リテラシーという言葉の定義自体があいまいであると思う。
319	光の部分には教える必要がない。	発信者の意図が何かは、理解できない場合もある。	光の部分は教える必要がない。											1. や2. は難しすぎる。		学生生活や日常生活でも情報セキュリティ面で危険に遭遇することもある。卒業までに身につけるべきと考え、入学時での教育が必要。更に、情報セキュリティの事例が刻々と変わっていることを見につけて、情報セキュリティが変化することも理解させ、情報セキュリティに関する意識を常に持ち続けるように教育すべ	
320	賛同する																

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え				
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見		到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	
321	専門家による特別講義も行い、取り組んでいる	専門家による特別講義も行い、取り組んでいる			評価方法は難しいので	看護記録は電子カルテ化されているので看護職には必要な知識と技術であるから	医療界の電子カルテ化は今後、さらに発展するため必要な知識と技術となる。専門職として必要である			そこまでの専門的知識と技術を教員はもっていない、時間が不足する	数年後には看護職としてのソフト開発を専門とする領域がカリキュラムに入ると考えている	医療職には必要な知識と技術であるから！	カリキュラムの時間数に限界がある、ここまでは必要ないと考えている	この知識と技術がないと評、管理職にはならないと考えているので！	評価方法に高額な投資も必要、講義数に時間的な制約もあるのでは無いか…と考えている	1. 情報倫理とは何かを口頭で述べることができる。2. 情報倫理を遵守した記録を記載することができる。3. 学生力として社会一般の情報倫理とは何かを口頭で述べることができる。4. Word, Excel, PowerPointの操作の基本は実践できる。また創作できる。	
322											大学によって違いがあると思われるので、表記の内容はかなり専門的な内容で、基本的な情報リテラシーとしての目標として統一する必要はないと思わ					到達度については大学それぞれ考え方がるので、ある程度任せられたらと思います	
323	一部取り組んでいる。高校までの情報教育で同じようなことが指導されている。高校までの情報教育の充実の方が重要と思われる。以下の質問に関して同様である	全発信者の意図を理解することは困難である。			全発信者の意図が理解できないために、測定も困難である。												
324					到達目標1に関しては、小中高レベルで全員に対してやっておく目標になると思われる。(大学では遅すぎ					最適なコミュニケーションという定義は、あいまいではないか。	課題を与えて、適切な手法でデータ処理するプロセスをポートフォリオを作ってそれにより評価していく					大学、学部、学科のカリキュラムポリシーから見れば情報リテラシー教育の位置づけは、むずかしい。	
325	純粋に必要な内容であると思います。	そのとおりだと思います。	そのとおりだと思います。	そのとおりだと思います。	そのとおりだと思います。	そのとおりだと思います。	そのとおりだと思います。	そのとおりだと思います。	そのとおりだと思います。	そのとおりだと思います。	そのとおりだと思います。	そのとおりだと思います。	そのとおりだと思います。	そのとおりだと思います。	そのとおりだと思います。	レポート作成や論文執筆に必要なスキルを網羅して教えることが第一。また、就職活動や、卒業後の仕事で使えるスキルにまで網羅すること。	
326	必要なことであり賛同しない理由はないが、「主体的な判断」にも判断の根拠となる知識が必要であり、場合によっては伝統的な教育(知識の伝達)に後戻りすることも考えられる。また、場合によっては学生の情報リテラシーの学力差は大きく、コンピュータのオペレーション力もままならない状態を、目標はさらに混乱を招く可能性も否定できない。	必要(部分的に必要)なので賛同しない理由はないが、そもそも、到達度は1~3にかけて「上位」という意味なのか、単に「プロセス」という意味なのか、順序性・段階性の関連・違いが伝わりにくい。	必要(部分的に必要)なので賛同しない理由はない	必要(部分的に必要)なので賛同しない理由はない	測定方法が「列挙させる」「説明させる」だが、結局「知識」による測定になっている。到達目標1に含まれる「自主的な判断」は単なる知識の定着度(テスト)によって測定出来るものではなく、学生自身が「その判断に至る過程」を自覚して行くことであり、それを説得力を持って表現できるかと考える。	情報通信技術を活用し(従来のオペレーション授業を習得したうえで)、その先のレベル(情報通信技術)をツールとして有効に活用できるように発展しており現在において必要であると考えられる。	現状、学生には身につけてほしい事項でもある	現状、学生には身につけてほしい事項でもある	現状、学生には身につけてほしい事項でもある	「教育・学修方法の例示」にグループ討論やケーススタディが出ているが、これらは「基礎知識(技術)」に学ばせる場合、高度過ぎではないか、大学についていないまま学修方法だけを先進的にすることに疑問を感じる。またActive Learningが当該分野に必要な否かは吟味の必要があり安易に取り入れるものではない。	専門(選択科目)としては賛同できるが、「学生力」の条件として初年時に降も継続的に「基礎知識(技術)」を示す学生と示さない学生に分かれさせない方が多数である。	実物、シミュレーション動画を見せながら仕組みを押し込んでいる。現実には興味を示す学生と示さない学生に分かれさせない方が多数である。	文系一般大学では、一部のゼミで専門的実施する程度(当該学修の前提条件が岐にわたる)。	到達度2よりもさらに高度であり、ガイドラインとして設定された場合、「では、具体的に大学で何をやるのか」が見えない。大半の大学では、実現は難しいのでは？	より高度な「情報リテラシー能力を身につけて卒業してほしい」という目標として、すべての大学に一律に設定することは現状の問題点の解決につながるのでは考えにくい。	個人的には、もっと情報リテラシー能力を身につけて卒業してほしいと思うが、そのためにはカリキュラム体制や科目間連携、情報科目のコマ数などさまざまな問題がある。理想的には1年次の基礎科目の一環として情報処理演習科目を実施するのではなく、2年次～3年次・卒業研究へと一連して有効活用するための演習科目である。そのためには、他科目と連携し、さまざまなシミュレーションでの情報技術の活用・応用方法を体験させることが必要であり、それら一連の科目間連携がカリキュラムとなって学部・大学の各種ポリシーへとつながることが本来(現状)の大学(教	
327	一部既にとりこんでいる。但し、学生のレベル及びカリキュラム上の時間が足りない。	カリキュラム上の時間が足りない	カリキュラム上の時間が足りない	カリキュラム上の時間が足りない	一部、既に取りこんでいる時間が足りない	そのレベルに達する為の基礎的な知識が足りない	一部、既に取りこんでいる	一部、既に取りこんでいる	一部、既に取りこんでいる	一部、既に取りこんでいる	学生の評価のレベルや実務家の確保に問題がある	一部、既に取りこんでいる	既に取りこんでいる	カリキュラム上の時間が足りない	カリキュラム上の時間が足りない	まだ、基礎的なレベルであり、JABEEのように文系の学部学科にも必要最低限の基礎科目及び内容を策定してもらいたい(情報分野)	
328	情報倫理と言う科目で教えている	賛同するが発信者の意図を理解する以前に発信者として誤解をうけないような情報表現力が必要である	情報倫理で教えている	情報倫理で教えている	測定方法としてはこの方法をとっているが、頭でわかっても現実	重要と思うが適切な活用、主体的な情報創造等は、益々困難な時代になりつつあると思う。教育も困難を極めている	教育しているが端末の容易な利用に慣れている学生に対する教育は難しくなりつつある	ピアレビューでは客観的な評価が行われなと感じている	理想的にはやった方がよいと思うが、このレベルで教育するのは時間的に難しいと思う	授業で行っている	モデル化、シミュレーションで実践的な実習ができるとは思わない	必要と思う	3は必要であると思う	選択科目であり受講者は学年の20%程度にすぎない。履修した学生には質保証できるが、履修しない学生が多すぎると思う。ただし、必須または選択必修にするようなカリキュラム改正は現状では難しいと思われる。重要性に対する一般の理解が不十分である	個人的には大学卒業までにすべての学生が身につけるべきリテラシー能力だと、考えるがその重要性や必要性が十分に理解されていない面と、仮に実際に教育を行うとなると多数の教員が必要になるなど現実的には難しい面が情報倫理の重要性を体得させるには人格形成の場が必要でありケーススタディによるグループ学習など、それ専用の場を設ける必要がある		
329										到達度2.3に対する到達度の測定方法2との関連が不明						到達度1、2から到達度3への連続性に疑問を感じる	個人的には大学卒業までにすべての学生が身につけるべきリテラシー能力だと、考えるがその重要性や必要性が十分に理解されていない面と、仮に実際に教育を行うとなると多数の教員が必要になるなど現実的には難しい面が情報倫理の重要性を体得させるには人格形成の場が必要でありケーススタディによるグループ学習など、それ専用の場を設ける必要がある
330	既に取りこんでいるが充実した内容とは言えない	既に取りこんでいるが充実した内容とは言えない	便利な面と各種セキュリティリスクについて分けて説明している	Twitterでの不適切な発言を例に説明を行っている	既にそのような方法で測定を行っている		既に取りこんでいる	既に取りこんでいる	コミュニケーションの方法を紹介するのみに留まっている	実務家からの評価は望ましいが時間的余裕がない	内容が専門的であり分野共通としては時間的余裕がない	発表はぜひさせたいが人数が多く時間的に余裕がない				情報倫理の重要性を体得させるには人格形成の場が必要でありケーススタディによるグループ学習など、それ専用の場を設ける必要がある	
331	既に取りこんでいる	適切な教材がない	既に取りこんでいる	既に取りこんでいる	測定方法には賛同するが、この項目に現在使える時間内では実行する余裕がない	既に取りこんでいる	情報通信技術を網羅できていない	既に取りこんでいる	既に取りこんでいる	2は学生の重層的に困難であると思われる	モデル化とシミュレーションは情報リテラシーの範囲を超えていると思う、それぞれの専門教育で行うべきではないか	取り組んでいるが学生はあまり興味を示さない	専門教育の中ですべきだと思う	適切な教材がない	2は専門分野で行うべきだと思う	学部学科に任せており大学としてカリキュラムの仕組みが無い	
332										グループ討論の重要性をもっと強調してはどうか	学生によるアクティビティを(コンピュータを使用しない)重視して良いのではない						
333	初年次教育で取り組んでいる	国語教育を初等中等教育で強化することが重要	自分がひとをだますとしたら、どうするかを考えさせるのも良い	国語力に加え、社会科教育を初等中等教育で強化すべき	良くない事例について、それがなぜ危険かを述べさせる	その通りである、初年次教育においてネットと書籍を活用し課題に関し調査させスライドにまとめさせる教育を行っている	情報通信技術を適切に選択できるようならなければならないと感じている	必須ではないがあればいいと思う	2については、人と時間のリソース不足が課題であると思う	できるに越したことはないが方法が課題であると感じている	直感も必要であると思う					批判的だけではなく肯定派と否定派で意見を交わすこともいいのではないかとと思う	
334	留得させることは難しいと思うが、必要なことだと感じている	情報の内容を正しく理解することが必要である	身を守ることは犯罪者の手法も学ぶ必要があると感じている	手帳や第3者の立場に立って理解することは必要であると考えている	具体例によって理解到達度が上がることが期待できる	情報通信技術を適切に選択できるようならなければならないと感じている	必須ではないがあればいいと思う	2については、人と時間のリソース不足が課題であると思う	できるに越したことはないが方法が課題であると感じている	直感も必要であると思う						基本的な大学ではリテラシー教育は必要ではないと思う。また、これは大学生になる前にすでに身につけておかなければならない能力と直感ではないかと思う。情報通信が発達している今の時代、この能力は入ってから身につけていたのでは、遅すぎると思う。ただ、大学生になって今まで考えてきたリテラシー教育の見直しと高度化を目指すことは必須で倫理的な行動が報われるような成績評価方法が必要。盗作を減らし、逆に正しい作法に従った引用に加算するなど	
335	これ以外ないという完全な賛同ではないが特に問題ない常識的な内容と判断する					引用と盗作の違いについて格別の注意を持って説明すべきである					大きな問題はないが若干高度と思われる。						

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え				
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見		到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	
336	部分的には必要と思うが、すべてを習得させる必要はないと考える	情報の信頼性について注意を促すことは重要である	ネットにおける危険性の認識は社会生活に欠かせない	他者への配慮はモラルの問題でありここで教える必要はない	2. は危険性に絞って学習させるのがよいと思われる	本学科ではそこまで教える必要はないと考える	そのような能力は自然に身につくので特に教える必要はない	教えるに越したことはないが、時間的に見て省略した方がよい	そのような能力は自然に身につくので特に教える必要はない	教員の負担が多い割には成果が少ない	最初の部分は必要だが、他は本学科のカリキュラムにそぐわないと考える	コンピュータの仕組みやプログラミングについての理解は必要である	本学科のカリキュラムにそぐわない	本学科のカリキュラムにそぐわない	1. は大学や学科間の格差を考えると、学科独自の試験を行うのがよい	本学科における情報リテラシー教育の最大の目的は、学生が情報機器を用いて快適かつ安全な生活を送れるようにすることであると考える。この観点からすると、本学科ではインターネットの危険性についてより多面的に学習させる必要があると思われる。	
337	必要と思うが、教えられる教員がいない																
338	必要な内容であり、本学科では「情報技術者倫理」などの授業で取り組んでいる。	必要な内容であり、本学科では「情報技術者倫理」などの授業で取り組んでいる。			必要な内容と思うが、上記のような詳細な項目は定めていない。	必要な内容とは思うが、授業形態で教えるのはむずかしいのではないかと。	必要な内容とは思うが、授業形態で教えるのはむずかしいのではないかと。			内容が専門的に過ぎ、学部教育には適さない。	目標は立派だが、実際教えるべきことがはっきりしない。	必要な内容であり、各授業で取り組んでいる。	必要な内容であり、各授業で取り組んでいる。	漠然とした内容であり、実際のシステム開発経験のない学生には荷が重過ぎる。	学部教育で実施するのは難しい。	情報倫理の重要性を体得させるには、人格形成の場が必要であり、コミュニケーションの力をつける。コミュニケーション基礎やフレッシュマンプログラムなどに対応している。技術者としての倫理については情報技術者倫理などの科目で対応している。	
339	到達目標として、『情報社会の光と影』などという抽象的な表現を用いるべきではないと考えます。到達目標の意図が伝わっていません。	『情報を読み解く』という表現の意味が理解できかねます。	『情報社会の光と影』という表現の意味が理解できかねます。	そもそも、『社会の一員としての責任』とは何でしょうか。よく分かりません。	『情報を読み解く』という表現が理解できかねます。	そもそも『課題発見』に、必ずしも情報通信技術活用が必要であるとは思いません。『課題発見』や『問題解決』に、あえて情報通信技術を活用しないという選択を判断させるような教育も必要はないとします。	そもそも到達目標に賛成できません。			そもそも到達目標に賛成できません。	到達目標1および2と同様に、抽象的であって意図が理解できません。また、学生の在籍する学部・学科・専門性によっても、到達目標3を設けることは、学生達にとってハードルが高過ぎる可能性があると感じられます。					・情報リテラシーの教育の位置づけは、学生の所属する学部・学科・専門性などによって異なるはずです。 ・ガイドラインの文書は、抽象的な表現が多いこともあり、よく理解できません。「情報」「情報社会」「健全な情報社会」「情報通信技術」「問題」「課題」「発信者」「利用者」「他者」「効果的な活用」「最適なコミュニケーション」「Web作成」などの一つの単語の意味を責任もって吟味すべきです。たとえば、何をもち「効果的」「最適」と評価するのか理解できません。また、そもそも「Webを作成する」ことなどできません。「危険・不安」という表現が複数回使われていますが、日本語として、「危険」と「不安」が対になる用語として使われていないと見えます。	
340	発信者の真の意図を読み取るのは難しく、具体的な例示をする必要がある。また他者の権利・プライバシー等を侵害しているか否かの判断も難しい。		情報社会の影の定義を明確にしたほうが良い							教員間でどのような評価を行うのですか？	どのようなモデルでどのようなシミュレーションを行うのですか？					モデル化やそのパラメータなど具体的な内容がわからないので何とも言えない。	ネット時代において情報リテラシー教育は重要であり、特に影の部分が必要であると見えます。中高生のネット依存症やソーシャルメディアの使い方などが現実の問題となっています。大学だけでなく若年層からのリテラシー教育が必要であり、私情協が適切な指針を示され、守るべきマナーやルールをわかり易く解説したテキストなどを作成し、タイムリーに更新して教育現場に提供していただけることを期待しています。
341	賛同するが分野が異なるためカリキュラムに内容を組み込む余裕がない				情報系科目に限られているため学生のレベルをそこまで到達させるのは難しい											学生力として保証できるカリキュラムの仕組みができていない	
342		電子データは、文字や図表で書かれていることが全てであり、発信者の意図はいかにしても受け取れるものだと思います。それを受信者が正しく理解することは不可能であると考えます			項目1の「情報を読み解く」ための多様な方法は具体的にどのようなものか全く想像できません											項目3の中の「批判的に考察せよ」という表現よりも「現状の問題点を抽出する」といった表現のほうが適切ではないでしょうか	
343	コンピュータの動作原理と関連づけて行っている	言い換えれば「他者の立場に立つて考える能力の育成」	表面的でない、原理に立ち戻った「情報伝達システムの構造」についての理解が不可欠	情報に関する教育」以前の道徳教育の問題の方が大きい。	原理的な理解がなければ、目まぐるしく変化する現実への対応はできない	「課題発見、問題解決」の過程の組み立て能力が重要。	情報通信技術選択より前は、カリキュラムに組み込むための時間的な余裕がない	「情報」という語の定義が必要。	「コミュニケーション」という語の定義が必要	ソフトウェア開発の前提となる「必要性」の認識・理解が必要	システム全体、特に「見えない」ように隠されているシステムの理解が重要。	デジタル、あるいはアナログ表現の本質的理解が重要	あわせてシステムの「検証」方法についての理解	「有益性」と「負の側面」は表裏の関係にあることの理解	加えて社会そのものに関する理解を促すことにつながる測定方法を	解決すべき課題があるという認識と、解決したいという欲求を高めていく必要がある。	
344	少し抽象的で、内容のキャッチーな範囲がセキュリティから個人情報倫理…」と広すぎ、焦点がはっきりしない。	情報を読み解くの意味が不明確														情報リテラシーは必須の学生力の1つであると捉え、大学全体で取り組んでいる。	
345	すでに全学的に講義を行って取り組んでいる	すでに全学的に講義を行って取り組んでいる	すでに全学的に講義を行って取り組んでいる	すでに全学的に講義を行って取り組んでいる	講義として実施しているが、より実践的な内容を習得させるための教材が不足している	一部、卒業研究等で実践しているが、多くの学部では、カリキュラムに組み込むための時間的な余裕がない	一部、卒業研究等で実践しているが、多くの学部では、カリキュラムに組み込むための時間的な余裕がない	一部、卒業研究等で実践しているが、多くの学部では、カリキュラムに組み込むための時間的な余裕がない	一部、卒業研究等で実践しているが、多くの学部では、カリキュラムに組み込むための時間的な余裕がない	有効な方法であるが、カリキュラムに組み込むための時間的な余裕がない	卒業研究や大学院での研究で一部実践している。全学的な講義としてカリキュラムに組み込むためには時間的な余裕がなく、難易度が高い	情報学部以外の学部では、難易度が高すぎる	あまり該当しない学部を除く。卒業研究や大学院での研究で、一部、実施している	情報学部以外の学部では、難易度が高すぎる	有効な方法であるが、実施にかかる費用や、カリキュラムに組み込むための時間が不足していることが課題となっている	全学的に基本的な内容についての教育を行うとともに、学科分野に、各研究テーマに沿った分野での実践的な教育を行うことが重要だと考えます。そのためには、全ての学部学科の教員が情報倫理や情報リテラシーを熟知し、専門教育の中に情報技術を活用する課題を積極的に組み込むことが必要であると考えます	
346	間接互恵性やウィフィー等、ネット上の信頼が具体的な現実社会のメリットとして自分に戻ってくる考え方も紹介している				客観的、定量的な指標への取り組みを期待している											客観的、定量的な指標への取り組みを期待している	学生の情報ツールの使いこなし方は予想以上に早い。流行を先取りしてそのツールを持つ課題を前もって検討するスキルが教員側にも必要である。まず教員が様々な情報ツールを自ら利用してその長所短所を判断するという手順をサポートするような体制・雰囲気が必要であると思う

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え			
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見		到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見
347	情報リテラシー科目にて既に教育している	国語力の向上が急務である		技術者倫理という科目で教育している	文章の読解力や作文能力との相関が高く、正確な測定が難しいという側面)があるが、今後検討して行かなければならない		メール、SNS等種々のコミュニケーション手段を知っている必要があり、極めて個人差が大きい				各学科の専門科目との連携のとおり方が課題である		各学科の専門性との関係が深く重要である		適切な測定方法の選択が難しい	情報リテラシーに対する学科間の考え方の差が大きく大学全体で統一的な位置づけを明確にすることは難しいので、学科ごとの目標設定から始めることが現実的である
348	必要と思いますが、この内容を専門的に教えらるる教員が本学科には不足していると思います															今回のアンケートには、大学の一般教員として回答しましたが、学科の専門性を考慮すると、上記のすべての情報リテラシー教育が必要かどうかの判断ができません。例えば、モデル化とシミュレーションは、本学科では、理解できることは必要ですが、実際に各自が使いこなせるようになる必要があるとは言い切れません。アンケートの冒頭で、回答の立場を明確にしていただければと思います
349	資格等の必修科目にしばられるカリキュラムに余裕がない					人的、システマ的な準備がととのわいない。			カリキュラム改革が重要と考える。		人的環境が不十分である。					現行カリキュラムのなかに「ICT」を活用する方向へ改革を目標としている。無限に近い多量の情報を学生が主体的に使うことが出来るようにすることが目標である
350	とりわけ、SNS等における「炎上」と言われる現象について、どうしてそういったことが問題になるのかをしっかりと学ぶ機会を得る必要があると思う	ネット上の信憑性について理解することが必要である。学生のレポートの中には、ネット上にあるものをそのまま写して提出し、あたかも自分の意見かのようにして提出するものも見られる。あらゆる言説を疑いながら自分で考える力を身につける必要がある	先述のように、ネットの有用性と危険性を同時に理解することが求められる。	先述の通りである。	指示する指針やテキスト、そして人材が必要であると考えられるが、その点について触れていない。						ソフトウェアの特性を説明できなければ、利用できない訳ではないと考えられる。また、教員間で評価をすることについて、ただでさえ業務に追われている中で更に新たなルーティンが入ってくることは負担である。まず、専門的知識を持つ人材を各大学に配置し、それから先のことを考えていくという段階を踏むべきである。	教育、ないし研究フィールドが必要となるが、必ずしもすべての教員がそうしたものを持っている訳ではなく、一律にやるべきではないと考える。	科学的とは一体どういう意味なのか不明瞭である		どの程度の考察を求めているのか不明瞭である。読み方によっては、相当高いレベルが求められることとなり、その時間を限られた時間の中でこなしていくことは、文系や専門職教育のカリキュラムに取り込むことが、現実的に難しい	一般教養として情報リテラシーの時間を設ける必要がある。SNSといった新たなコミュニケーション手段が台頭し、拡大している中で、新たなコミュニケーションのあり方やマナーは、私たち教員を含めてしっかりと学んでいくべきではない。いっぽうで学生たちは利便性のみ指標として、携帯端末を利用し、メディアで取り上げられるトラブルやそれ以外の人間関係で苦しんでいる。情報端末によるトラブルや悩みなど、学生の立場から理解する機会も同時に作る必要があると思
351	既に取り組んでいる										学生のレベルが達していない				3は学生のレベルが達していない	情報リテラシーは理工系大学ではほぼすべての学生が身につけるが、必ずしも全員が必要な能力であるとは考えない。
352	既に取り組んでいる				2, 3の違いが分かりにくい。測定方法3が到達度3の測定になっていない。	一部実施している			“最適”なコミュニケーションとは何かの定義が難しい。	到達目標2だけ、なぜピアレビューが必要なのか今ひとつ不明。	情報系の学科なら良いが、その他の学科には目標が高すぎる。大学の高学年向けならよいかもしょうない。	一般的な情報リテラシーとしては目標が高すぎる。情報系学科もしくは高学年向けなら良い。			実施が難しい	情報通信技術・環境の変化が著しく早いため、情報系学科でない場合には、大学教員がそれに追いついていないのが現状である。情報専門のスタッフによる講義が望ましい。
353	計画しようと考えている	適切な教材がない			計画しようと考えている	1年生の前学期科目、学生のレベルが達していない	1年生の前学期科目、学生のレベルが達していない			計画しようと考えている	1年生の前学期科目、学生のレベルが達していない				計画しようと考えている	短期で理解させることは困難と考える。長期で理解に応じたカリキュラムが必要と思う
354	適切な教材の選定が難しい				1に関して、ツールの問題なのか表現方法なのかあまい点があるように感じます											本学の学生には難度が高いように思います ツールの問題なのか表現方法なのかあまい点があるように感じます
355	計画しようとかんがえている	全く妥当である	光と影という表現は修辭的すぎずか	全く妥当である					適切である		情報リテラシー教育としては高度すぎる	特に問題ない	リテラシー教育の範囲を超えている	リテラシー教育の範囲を超えている	専門性が高い内容である	短期大学の過密なカリキュラムの中では効果的に教育を行うのは難しい。
356			光と影については具体的表現に変わった方がよいのでは							実務家から評価は実際には難しいのでは	現状で学生に取り組ませるのは時間的にも学生の能力的にも難しい					情報管理についての教育は必要である。実習などにおいて得た情報について守秘義務があることを確認させ、情報が漏れることのないような教育体制の構築が必要であると思う
357	すでに取組んでいる。				知識だけでなく、経験(体験)が必要					「情報通信技術を適切に選択」できる教員がどれだけいるのか疑問						デジタル・ネイティブ世代には、大学で情報リテラシーをやるには遅すぎるし(小・中・高で身に付けねばならない)、知識として学ぶ性質のものではない。
358	光と影の認識のバランスが大切と考える。	発信者の存在を意識することは重要。	熟慮することが必要	特になし	情報リテラシー教育で行うものは、まずは技術的なことが大事であり、それが無い中で上記のことを行いすぎると、本末転倒。	活用する方法を身につけることは重要。	選択も自らの力でできるようなべき	課題の設定が大切。	これについては、既に学生が様々な方法で習得している。	このような評価シートは、負担が大きくなるだけで、それほど効果はない。	モデル化とシミュレーションは、リテラシー教育では敷居が高すぎる。	これは、情報の専門家のみでよい。	これは、理工系の学生のみでよい。	様々な角度からの議論によりシステムを考えるべき。	モデル、シミュレーション、パラメータ依存などの、理学的分野で行われることをリテラシー教育に持ちこむのは、勇み足と見える。	リテラシーというのは、あらゆる学問分野において必要とされる。“スキル”的な位置づけであり、“学問”と考え違いをしてはいけないと思う。
359	内容面では賛同できるし、一部分取り組んでもいるが、「光と影」という表現があいまいであり、到達目標としてはそぐわない	重要であり、取り組んでいる	到達目標の部分で述べたように表現には賛同できないが、内容については重要であり、取り組んでいる。	(到達度3が最も高いレベルと解釈した上で)この内容は昨今のネット上での炎上事件等を考慮するとともに基礎的な到達目標として位置付けるべき内容である。	(そのような測定は困難ではあるが)実際にできなければ意味が無いので、列挙式の論述問題ではなく、実際に(擬似的にでも)情報を扱わせて測定すべきである。例えば実際に情報を収集してまとめさせて情報を識別できているかどうかを判断する等	重要であり、大学での学び全般の中で修得するべき内容である。ただ、残念ながら多くの科目の連携を必要とし、具体的な取り組みはできていない	具体的に何ができるようにすることを要求しているのかよくわかりません。	取り組んでいる	具体的に何ができるようにすることを要求しているのかよくわかりません。特に到達度1との違いが全く分かりません。	到達目標2と同様、実技の評価を通じてのみ適切な評価ができると考えます。	情報通信技術のしくみを理解することとモデル化とシミュレーションとの関係がよくわかりません。また、情報通信技術のしくみの理解は、全ての学生課程卒業生が身につけているべき項目かどうかよくわかりません。	全ての学生課程卒業生が身につけているべき項目かどうか	実践的な問題解決能力を身につけさせることは非常に重要であり、取り組まなければならないと感じている。また、問題解決能力の中でモデル化とシミュレーションが有効であることも賛同できる。ただし、それが他の方法と比べて特段に有効であるのか、あるいは他に情報リテラシー教育の中で身につけさせるべき問題解決手法は無いのか、という2点について若干	全ての学生課程卒業生が身につけているべき項目かどうか	到達目標・到達度の適切さについての意見を横に置いて、情報リテラシー単独で教育の中で位置付けを考えると、一般的にリテラシー・汎用能力教育の位置付け・体制を作っていく中で位置付けられるべきだと考えている。学生の学習成果の中にリテラシー・汎用能力をしっかりと位置付けていくことを考えている	
360	光と影を別の表現にならないか				到達度3に合った内容に						現実にはかなり困難では					
361	光と影という表現が不適、内容そのものは良い															
362	既に取り組んでいる															
363	中学生程度で行うべき問題であると考え								適切な基準をしっかりと誘導する必要がある	情報収集と発信の方法を学ぶことは重要だと考えられる	個人の嗜好がでてきてしまいがちな議論の結論ができないことが予想されるので賛同できない	実務家がだれなのかで成績が異なる恐れあり	計画中 リテラシーの枠内で考えると専門性が高すぎるのではないかと			

No	到達目標1について				到達目標2について				到達目標3について				リテラシー教育の位置づけ・体制への考え				
	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見	到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	到達目標 意見	1の意見		到達度 2の意見	3の意見	測定方法 意見	
364	ほとんどの学生が最近でもスマートメディアを利用して。表記の知識・技能は必須である。「既に取りこんでいる」	誤解が生じるケースはほかのメディアよりも多い。そのことは学生にある程度理解されている。	全く安全とはいかないが、学生は危険もあることをある程度理解している。	他者への配慮も、毎年教育している。結果してそのような事件をかなり減らしていると考ええる。	講義中のレポートとして同内容を行ったことがある。学生に自覚をもたせるためには効果的であったと思う。	到達目標1をふまえて、主体的情報発信をすることはかなり高度ではあるが、演習等の中できている。	インターネットに限ったことではないと教えることにしている。	技術的な訓練をして、演習の中でとりあつかっている。	この中では最も重要と考え。講義では話しているが、今後演習等に取り込んで行きたい。	1の項目の「代表的な」が日進月歩のため、一言で説明しにくい。教員間の評価シートの作成には賛成する。	正しくは「一部賛同する」その方向での教育は必要であるし、行っているが、現在受け持つ学生には少し難易度が高いように思える。	現在講義の中で教育している。	抽象的な表現が弱い学生が多いため困難である。	現在講義の中でとりあつかっている。	様々な面でのコストが心配ではあるが、とりむべきだと考える。	学士力というよりは(義務教育としての)高校卒業段階で身につけるべき技術と考える。大学ではもちろん必要なことなので早いうちにならなければならぬ。組織的な取り組みがなされるべきである。本学では、e-Learningを用いて行っている。	
365	光と影という抽象的表現ではなく、具体的に明示していただきたい	発信者の意図を理解することは難しいことである			リテラシー以外の授業で既に取り組んでいる	今の学生は協働して何かをつくるということがとても苦手で、この目標到達には難しい面がある		ある程度は既に出てきている	学生には、コミュニケーション能力が欠けている			リテラシー以外の授業で一部、既に取り組んでいる				標準化された到達度試験で測定することは困難であると思われる	
366												理工系以外の学生にここまで求めるのは無理と思われる	理工系以外の学生にここまで求めるのは無理と思われる	理工系以外の学生にここまで求めるのは無理と思われる	理工系以外の学生にここまで求めるのは無理と思われる		
367												理工系以外の学生にここまで求めるのは無理と思われる	理工系以外の学生にここまで求めるのは無理と思われる	理工系以外の学生にここまで求めるのは無理と思われる	理工系以外の学生にここまで求めるのは無理と思われる		
368	情報漏洩等のニュースが報道された際、新聞切り抜きなどを提示している	必要と思うが、学修指導法が不定	オンラインバンクなどのセキュリティ管理の事例を示している	グループ討議などが効果的であると感じているが、取り組んでいない	毎回、授業の最後にレポート提出をさせている	学生向けの補助金獲得等において、学生グループを組織し、自らを考えさせ、プレゼンを行わせている。	学生グループを組織してパワーポイント等を作成させている	データベース、統計解析ソフトは使用していない	授業では取り上げていない。スマートフォンが普及しているので十分に体験しているようである	ITパスポート試験問題などを利用して、到達度を評価している	ITパスポート試験の過去問題に取り組みなどして知識を深めている	ITパスポート試験の過去問題は短大生には難しすぎると考えている	ITパスポート試験の過去問題は短大生には難しすぎると考えている	ITパスポート試験の過去問題は短大生には難しすぎると考えている	ITパスポート試験の挑戦を奨励している	学生グループを組織し、様々な問題にチャレンジしていくプロジェクト型授業が有効と考えている。幸い、学生向け補助金が市によって用意されているので、毎年、積極的に応募するように指導している	
369	賛同はするがあくまで人間教育が初等中等教育で実施されていることが前提				危険性を正しく理解させるためには犯罪の手法等の教育が必要、それによる危険性を否定できない					実務者の正しい評価が期待できない	問題解決の教育は情報教育以前の問題					汎用的な評価基準が作成できると思えない	高校までの基礎学力の習得の議論が先、操作技能は本来のリテラシー教育の目的ではない
370	「光と影」というと、情報社会に良いところ悪いところがあって、それらが明確に区別されているような印象を受ける。実際には明確に分けられるのではなく、1つの同じことでも良い面と良くない面が混在することがある。また、多くの人にとって良いとされていることが実は良くないことであることもありえる。そうした認識のレベル自体が主体性に基いているともいえる。たとえば、到達目標1の表現を「情報社会の良い面と良くない面を、主体的に判断して行動することができる」としてはどうか	発信者の意図だけではなく、それがもたらす社会的な影響もあると思う	善と悪として明確に区別せず、両方の側面を持っているもの、善と一般に思われているものでもその影で悪を潜めているものなど、本質的なものを見抜くことができることである。それが伝わるような表現になるとよいと思う		2)についてはもう少し、簡潔な表現にできないか											「私情協などのコンソーシアム」という表現は、少し違和感を感じる	情報倫理を含めた情報リテラシー教育の内容やあり方については、定期的に見直していくための体制づくりが大切だと考える
371	既に取り組んでいる	必要と感じるから	大いに必要と感じるから	大いに必要と感じるから	必要と感じるから	必要と感じるから	大いに必要と感じるから	大いに必要と感じるから	非常に必要と感じるから	必要と感じるから	ある程度必要と感じるから	ある程度必要と感じるから	ある程度必要と感じるから	ある程度必要と感じるから	非常に必要と感じるから	卒業時に満たすべき学士力と語った場合、それを保証できるカリキュラムの仕組みが不十分である	
372	一部に関しては既に取り組んでいるが、まだ不十分であると認識している。	適切な教材が準備できれば可能だと考えます。	適切な教材が準備できれば可能だと考えます。	狙いとしては分かるが、現実的には難しそう		一部に関しては既に取り組んでいるが、まだ不十分であると認識している。	適切だと思います。			仕組みを理解の部分は賛同できるが、モデル化…の部分は難しそう	適切だと思います。	学生の現状からすると実施は難しそう。	適切だと思います。			情報系の大学としては、重要な位置づけにあると考えており、その後の専門教育にどう繋いでいくか十分な検討が必要であると考える。	
373	既に取り組んでいる内容も含まれていますが、更なる改善が必要だと考えています	例題や実例形式の資料が準備できれば、効果的に教育できるかと思えます。	影の面は知識として理解できていると思いますが、行動と結びつけさせることが(重要ですが)難しい部分もあるかと思えます。	新聞等でも話題になっているので、そこから学ばせることができると思えます。また、ゼミの時間等でも指導できるかと思えます。	意図の理解や考慮すべき危険については、実例や例題ベースでの問題による確認が良いのではないかと思います。	適切であると思えます。	重要であると思えますが、やや曖昧であると感じます。	「最適なコミュニケーション」がやや曖昧であり、他との関係が分かりづらく感じました。PCを用いたプレゼンテーション等も含めてよろしいのでしょうか？	実務家とは、セキュリティ対策会社の方等を指すのでしょうか？その点が分かります。一部賛同しました。	内容として重要であると思えますが、開講科目・学生の現状的に難しいと思えます。	情報リテラシーとして重要な内容であり、適切だと思います。	内容として、非常に望ましい内容だと思います。効果的な実施方法があれば是非知りたいのですが、学科の科目や学生の興味・現状との相性が今一つなのが現状です。	モデルの作成、及びいろいろなメタや実際の動作との確認は重要であるため				
374	認識するための取り組みを行っているが、行動できるかについては不安がある	良いかと思えますが、国語の知識も必要と思えます	賛成ですが、自分を理解できていることが必要です	必要と考えますが、もっとも難しいことと思えます	測定方法ではありますが、説明させることによる「学び」も大きいと思えます	現在のソーシャルメディアや情報共有に欠かせないものと思えます	本学でもインターネット関連授業で一部行っています	本学でもインターネット関連授業で一部行っています	本学でもインターネット関連授業で一部行っています	賛成ですが、実務家への選択・依頼が難しいかもしれません	賛成ですが、難易度が高いかもしれません	本学は文系よりなので難易度が少し高いと思えます	本学は文系よりなので難易度が少し高いと思えます	本学は文系よりなので難易度が少し高いと思えます	基本的に賛成ですが測定方法は難易度がかなり高いと思えます	本学では、リテラシー教育には力を入れており、現在の状況に即したインターネットの活用、情報モラル、セキュリティ対策などを必修・準必修科目として開講しています。ただ、学生が文系よりですので、理解しやすい方法に苦慮している状態かと思えます。	
375	情報の信頼性を識別して発信者の意図を読み解くことは重要と考える。		「行動できる」をどう測定すべきか疑問		モグラタタキ的に過去の事例に依存しすぎるきらいがある				情報通信技術の活用が最適なコミュニケーションの唯一の手段とは限らない	同一テーマによるコンペティションも有効ではないかと考える	課題の発見・明確化・分析・検証を行うための要件として、データの表現方法や情報通信技術の仕組みの理解をあげることは難しい			有益なシステムの在り方が掛けず、形骸化しかねない	あるべき姿と現状のギャップを明らかにするという方法も考えられる		